

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七六六	明和3	1/14~	竹本座	本朝廿四孝 五段続	初段(序 紀志、中口 七、詰 倉、切中 其、詰 住)、二段目(口 鐘、切中 染、詰 島)、三段目(口 鐘、切中 染、詰 島)、四段目(道行 其・ツレ 伊予、跡 咲・ツレ 万・ツレ 伊予、切中 住、詰 鐘)、五段目(伊予)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝貞の白小袖色かを残す老女のぐんばいは信濃の品者それは山がつこれは山もと／氷の上の通路は狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはすはのくせ者敵もだんじやう味方もだんじやう」。 ※四段目・五段目の竹本伊予太夫を竹本岩太夫とする別番付もある。	たをやめ御前(小八)、北条うぢ時(島八)、ながをかげかつ(才治)、村上左右衛門(七郎治)、たけ田はる信(三右衛門)、しづの方(文十郎)、山しろの介・じひ蔵(貫十郎)、こし元八つはし(小八)、井ノ上新左衛門・関兵衛(文三郎)、よこ蔵(文三郎)、ながをけんしん(藤五郎)、みの作(才治)、たけ田かつより(貫十郎)、ひやうぶ(七郎治)、こし元ぬれぎぬ(小八)、女房から折(八十八)、女房いりゑ(文十郎)、高坂だん正(貫十郎)、越名だん正(藤五郎)、女房おたね(小八)、はゞ(三右衛門)、やゑがきひめ(文三郎)。
△	一七六六	明和3	3頃力 京竹本座	(本朝廿四孝)	※神津武男「考証・明和三年『武田信玄／長尾謙信本朝廿四孝』京都興行一浄瑠璃本の包紙、絵尽など人形浄瑠璃関係の資料学の試み一」(『早稲田大学高等研究所紀要』第3号)に拠る。	
△	一七六九	明和6	4/20~ 越前 牧島観音堂境内 中村政右衛門座	(本朝廿四孝)	(仙)。 ※『橘宗賢伝来年中日録』に拠る。	
△	一七七四	安永3	前半 伊勢 古市	(本朝廿四孝)	二ノ口(組)、二ノ切(式)、三ノ切(岡)、四ノ切(筆=市太郎)。 ※「狐火の段 人形出遣 吉郎兵衛」。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
	一七七五	安永4	12/27~ 吉田才治座	廿四孝	三段目(中 仲、切 組)、四の口(口 文字、跡 咲事 男徳斎)。	三郎かけかつ(藤五郎)、村上左衛門(才蔵)、じひ蔵(才治)、八つはし(十七蔵)、よこ蔵(冠蔵)、からおり(乙五郎)、高さかたん正(武蔵)、こしなだん正(小次郎)、おかね(真吾)、よこ蔵母(真吾)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七八一 カ	天明1		江戸	本朝廿四孝	初(大序 浅、中 力、口 定、切 折)、二(口 浅、奥 氏、中 定、切 三輪)、三(口 中、中 佐和、切 氏)、四(道行 河内・定、口 浅、奥 折、中 三輪、切 中)、五(むら)。	北条氏時(角五郎)、長尾かげかつ(重三郎)、村上左衛門(友蔵)、武田春信(友蔵)、しづのかた(吉五郎)、直江山城之助・慈悲蔵(吉蔵)、こしもと八つはし(東九郎)、井上新左衛門・関兵衛(東九郎)、横蔵・山本勘介(門蔵)、長尾謙信(太三郎)、百性みの作(徳二)、武田勝頼(重三郎)、板垣兵部(吉蔵)、ぬれぎぬ(六二)、女房からおり(吉五郎)、女房いり江(六二)、高坂だん正(重三郎)、越名だん正(徳二)、おたね(東九郎)、勘介母(新七)、八重垣姫(新七)。
一七九〇	寛政2	4/5~	名古屋 稲荷御社内	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 理、中 岨、切ノ口 年、切 半)、二段目(口 岨、奥 品、中 理、切 倉)、三段目(口 年、奥 品、中 倉、切 紋)、四段目(口 理、奥 倉、中 半、出がたり 奥 紋=庄治郎、切 品)、五段目(岨)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御せん(伝七)、北条氏とき(勘四郎)、長尾景かつ(繁七)、村神左衛門(三右衛門)、武田しんけん(勘四郎)、しづのかた(万蔵)、直江たねつな・慈悲蔵(伝蔵)、八つはし(十治郎)、井上新左衛門・斎藤道三(甚蔵)、横蔵・山本かん介(利助)、長尾けんしん(勘蔵)、みのさく(与三郎)、かつより(与三郎)、板がき兵部(繁七)、ぬれぎぬ(弥四郎)、からおり(弥四郎)、いりゑ(万蔵)、高坂大膳(善四郎)、こし名大膳(勘蔵)、おたね(朝七)、かん介はゞ(万蔵)、八重垣姫(朝七)。
一七九一	寛政3	12/25~	道とんほり東 之芝居 竹本栄次郎座	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 和、中 巴、切 岡、咲)、二段目(口 杣、氏、切 春、時)、三段目(口 岡、切 氏、政)、四段目(口 咲・ツレ 重、切 時、麓)、五段目(元)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめごせん(辰五郎)、北条氏時(庄五郎)、長尾かげかつ(国八)、村上左衛門(千五郎)、たけだ信玄(音五郎)、しづのかた(政蔵)、なをへ山城・じひ蔵(新吾)、こしもと八つはし(三吾)、井上新左衛門・関兵衛・みの道三(音五郎)、よこ蔵・山本勘介(音五郎)、長尾けんしん(東作)、みのさく(新吾)、たけだかつより(音五郎)、いたがき兵部(国八)、ぬれぎぬ(磯五郎)、高坂女房からおり(東作)、こしな女房入江(磯五郎)、高坂丹定(国八)、こしな丹定(新吾)、じひ蔵女房おたね(三吾)、勘介はゞ(磯五郎)、八重がきひめ(三吾)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七九二	寛政4	3/2~	道とんぼり東之芝居 竹本栄次郎座	本朝廿四孝	四段目（口和・ツレ沢、切重、麓）。	たをやめごせん（辰五郎）、長尾かげかつ（国八）、村上左衛門（千五郎）、こしもと八つはし（三吾）、関兵衛（音五郎）、山本かん介（音五郎）、長をけんしん（東作）、みのさく（新吾）、ぬれぎぬ（磯五郎）、高坂丹定（国八）、こしな丹定（定蔵）、八重がきひめ（三吾）。
一七九二	寛政4	10/28~	京四条北側東芝居	本朝廿四孝	第壹（大序伊、切沢、千賀）、第貳（口沢、新、切和佐、出がたり氏）、第三（口千賀、中氏、切頼）、第四（口伊、和佐、中新、切麓）、第五（稲）。	たをやめ御ぜん（磯五郎）、北条氏時（東三郎）、長尾かげ勝（虎蔵）、村上左衛門（千五郎）、武田信玄（東作）、しづの方（平三郎）、直江山しろ守（新吾）、じひ蔵（新五）、こし元八つはし（平三郎）、井上新右衛門・斎藤道三（乙五郎）、関兵衛（音五郎）、横蔵（乙五郎）、山本勘介（音五郎）、長尾けんしん（新五）、みのさく（新五）、かつより（虎蔵）、いた垣兵部（弥三郎）、ぬれぎぬ（磯五郎）、女房からおり（山五）、女房いり江（政蔵）、高坂弾正（千五郎）、ほしな弾正（弥三郎）、おたね（東作）、勘介はゞ（磯五郎）、八重垣姫（山吾）。
一七九八	寛政10	6以後	江戸肥前座	廿四孝	四だんの切（河内＝小徳）。	
一八〇一	享和1	3以前/18~	ほりへ市ノかはよし沢辰之介しばい	廿四孝	（大序市、中姫、次坂、切千賀）、二（口久、次八尾、中喜代、切中）、三（口八尾、次泉、中千賀、切咲）。	たをやめ（重三郎）、うし時（清二）、かけかつ（三五）、むら上（金五）、しんげん（千四）、山しろ・しひぞう（千四）、八つはし（虎蔵）、道三（文三）、よこそう（新五）、かんすけ（重五郎）、けんしん（新五）、みのさく（清二）、かつより（三五）、兵部（文三）、ぬれきぬ（虎蔵）、からおり（重三郎）、入江（辰五郎）、たん丞（清二）、たん正（大五郎）、おたね（虎蔵）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八〇二	享和2	10/22~	道とんぼり東ノ芝居	本朝廿四孝	初段(大序 文字、中 町、切 時)、二段目(口 重、中 綱、切 氏)、三段目(口 文字、中、中 氏、切 政)。	たをやめごぜん(勢蔵)、北条氏時(武八)、長尾かげかつ(冠三)、村上左衛門(才二)、しんげん(定蔵)、しづのかた(嘉蔵)、なを江山城(音五郎)、井上新左衛門(音五郎)、よこぞう(千四)、けんきん(清二)、みのさく(千四)、かつより(清二)、いたかき兵部(冠三)、ぬれぎぬ(勢蔵)、からをり(文十郎)、入江(虎蔵)、高坂だん正(才二)、こしなだん正(清二)、おたね(虎蔵)、勘介はゞ(定蔵)。
△ 一八〇三	享和3	11/2	京 四条南側の 大芝居	(本朝廿四孝)	四段目(口 佐野、次 千賀、切口 姫、中 八尾、切 巴、跡 綾)。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』他に拠る。	道三(音五郎)、上杉謙信(定蔵)、八重垣 姫(虎蔵)。
	享和末	11/1~	ほりへ市ノか は西かは	廿 四 孝	大序(八十)、二段目(中 沢、切 歳少軒)。	たをやめ御前(嘉蔵)、氏時(才九郎)、かけかつ(大三郎)、左衛門(才九郎)、信玄(金五)、みノさく(藤九郎)、かつより(助三)、兵部(鬼市)、ぬれきぬ(磯五郎)。
一八〇五	文化2	3	稲 荷 芝 居	廿 四 孝	(口 君、切 巴)。	かけかつ(源吾)、しんけん(東吉)、関兵 へ(東工)、かつより(伊三郎)、ぬれ衣 (勘十郎)、八重垣姫(冠十郎)。
一八〇七	文化4	1/14~	道頓堀大西芝 居	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 重、序中 伊勢、口 重、切 中)、二段目(口 重、おく 染、中 鐘、切 江戸 土佐)、三段目(口 伊勢、おく 鐘、中 氏、切 政)、四段目(口 伊勢、おく 中・ツレ 道、中 染、切 麓)、五段目(淀)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝貞の白小袖色かを残す老女のぐんばいはしなのゝ品者それは山がつこれは山もとノ氷の上の通ひぢは狐と見ゆる菊畠の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはずはの曲者敵もだい正味方もだい正」。	たをやめ(冠十郎)、北条氏とく(千次郎)、三郎景勝(冠三)、村上左衛門(才治)、武田信玄(千四)、しづのかた(東蔵)、なを江山城之助・慈悲ぞう(音五郎)、こしもと八つはし(虎蔵事 辰造)、井上新左衛門・関兵衛(音五郎)、よこ蔵(千四)、長尾けんしん(三吾)、みのさく(才治)、武田かつより(三吾)、いたかき兵部(冠三)、こしもとぬれぎぬ(冠十郎)、高坂女房からをり(三吾)、こしな女房入江(虎蔵事 辰造)、高坂だい正(音五郎)、こしなだい正(千四)、おかね(虎蔵事 辰造)、よこ蔵はゞ(冠十郎)、八重がきひめ(虎蔵事 辰造)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八〇七	文化4	3/25~	京 四条南側大芝居	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 姫、序中 伊勢、口重、切中)、二段目(口道、おく染、中鐘、切江戸土佐)、三段目(口伊勢、おく鐘、中染、切政)、四段目(口重、おく中、道、中染、切麓)、五段目(伊勢)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝良の白小袖色かを残す老女のぐんはいは信濃の品者それは山がつこれは山本／氷の上の通ひちは狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいはいは誼訪の曲者敵もだん正味方もだん正」。	たをやめ(冠十郎)、北条氏とく(千次郎)、三郎かげかつ(冠三)、うら上左衛門(才治)、武田信玄(千四)、しづのかた(東蔵)、直江山しろ介・じひ蔵(音五郎)、こし元八つはし(虎蔵事 辰造)、井上俊左衛門・関兵衛(音五郎)、よこ蔵(千四)、長尾けんしん(三吾)、みのさく(才治)、武田かつより(三吾)、いたがき刑部(冠三)、こし元ぬれ絹(冠十郎)、高坂女房から織(三吾)、こしな女房いくへ(虎蔵事 辰造)、高坂だん正(音五郎)、こしなだん正(千四)、おかね(虎蔵事 辰造)、よこ蔵はゝ(冠十郎)、八重かき姫(虎蔵事 辰造)。
一八〇七	文化4	4/25~	伊勢 いせ古市常大芝居	本朝廿四孝	初(序要、中筆、口光、切千賀)、弐(口友、奥要、中錦、切磯)、三(口友、奥筆、中千賀、切氏)。 ※角書「武田信玄／越後謙信」。	たおやめ御せん(元吉)、氏とき(友八)、かけかつ(元五郎)、村かみ(元五郎)、しんげん(鬼市)、しづの方(源蔵)、じひ蔵(冠四)、新左衛門(冠四)、よこぞう(国五郎)、けんしん(巳之助)、みのさく(冠二)、かつより(巳之助)、ひやうぶ(国五郎)、ぬれきぬ(東十郎)、からおり(元吉)、いりへ(鬼市)、こうさか(国五郎)、やりたん正(冠二)、おたね(冠二)、勘介はゝ(東十郎)。
△ 一八〇七	文化4	5/5~	伊勢 古市	(本朝廿四孝 大序より 三段目迄)	※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
一八〇八	文化5	3 中旬~	伊勢 勢州中の地蔵 大芝居	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 種=三二、中重=熊治郎、口百合=力三郎、切宮戸=蟻鳳)、二段目(口淀=才市、次染=力三郎、中鐘=宗六、切内匠=弥七)、三段目(口重=才一、次鐘=宗六、中染=宗六、切政=蟻鳳)、四段目(口百合=熊治郎、次千賀=宗六、中宮戸=弥七、切麓=三二)、五段目(常=力三郎)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝良の白小袖色かを残す老女のぐんばいはしなのゝ品者それは山かつこれは山もと／氷の上の通ひちは狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはすはの曲者敵もだん正味方もだん正」。 ※番付書込みは「文化五辰三月中旬」とするものと「文化五年三月十八日」とするものあり。	たをやめごせん(正三)、北条氏とき(弥三郎)、三郎景勝(元五郎)、村上左衛門(国八)、武田信玄(東十郎)、しづのかた(元吉)、直江山城之介・慈悲ぞう(冠四)、こしもと八つ橋(新六)、関兵衛・道三(文蔵)、よこ蔵(三郎兵衛)、長尾けん信(国八)、みのさく(三郎兵衛)、武田勝頼(伊四郎)、板がき兵部(冠四)、ぬれきぬ(東十郎)、高坂女房唐織(正三)、こし元入江(東十郎)、高坂だん正(三郎兵衛)、こしなたい正(冠四)、おたね(文蔵)、よこ蔵はゝ(東十郎)、八重がきひめ(文蔵)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一〇	文化7	11/1~	御霊境内	本朝廿四孝 大序より 三段目迄	初段(大序 鷲、嵐、序中 定、口 新、切 筆)、貳段目(口 由良、お く 伊達、中 綾、切 弥、鐘)、三段目(口 千代、おく 伊達、中 筆、 切 土佐)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ(才九郎)、北条氏時(定吉)、か げかつ(本五郎)、村上左衛門(本五郎)、 たけだしんげん(重五郎)、静のかた(源 三)、直江山しろ・じひぞう(豊吾)、八ツ 橋(三吾)、井上新左衛門・内藤道三(三 吾)、よこぞう・山本勘介(紋蔵)、長尾け ん信(猪三郎)、みのさく(猪三郎)、たけ だかつより(正三)、板がき兵部(冠四)、 ぬれぎぬ(東十郎)、からおり(才九郎)、 こし元入江(源三)、高坂だい正(正三)、 こし名だい正(重五郎)、おたね(三吾)、 かん介ばゝ(東十郎)。
一八一〇	文化7	11/16~	市の側芝居	本朝廿四孝	初段(大序 鷲、嵐、序中 定、口 新、切 筆)、貳段目(口 由良、お く 伊達、中 綾、切 弥、鐘)、三段目(口 千、おく 伊達、中 筆、切 土佐)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ(才九郎)、北条氏時(定吉)、か げかつ(本五郎)、村上左衛門(本五郎)、 たけだしんげん(重五郎)、静のかた(源 三)、直江山しろ・じひぞう(豊吾)、八ツ 橋(三吾)、井上新左衛門・内藤道三(三 吾)、よこぞう・山本勘介(紋蔵)、長尾け ん信(猪三郎)、みのさく(猪三郎)、たけ だかつより(正三)、板がき兵部(冠四)、 ぬれぎぬ(東十郎)、からおり(才九郎)、 こし元入江(源三)、高坂だい正(正三)、 こし名だい正(重五郎)、おたね(三吾)、 かん介ばゝ(東十郎)。
一八一―	文化8	2/19~	名古屋 稲荷御社地大 操芝居	本朝廿四孝	三段目(重、中)。	かけかつ(元五郎)、慈悲ぞう(冠四)、横 ぞう(文蔵)、からおり(才九郎)、女房お たね(伝七)、横そうはゝ(重三郎)。
一八一二	文化9	2/18~	奈良 南都瓦堂芝居	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 品、口 三保、切 伊勢)、二段目(口 由良、中 鶴、切 梶)、三段目(口 入、中 梶、切 時)、四段目(口 伊勢、由良、中 入、切 麓)、五段目(三保)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御ぜん(東十郎)、北条氏時(勘 平)、景かつ(才治郎)、村上左衛門(猪三 郎)、武田しんげん(冠二)、賤の方(勘十 郎)、山城之介・慈悲ぞう(猪三郎)、関兵 へ・道三(冠二)、横ぞう・勘介(虎造)、 長尾けんしん(清二)、みの作(才治郎)、 武田勝より(虎造)、板がき兵部(清二)、 濡ぎぬ(勘十郎)、からおり(勘十郎)、高 坂だん正(虎造)、越名だん正(猪三郎)、 おたね(冠十郎)、勘すけ母(東十郎)、八 重がきひめ(冠十郎)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一二	文化9	6頃	伊勢 松坂愛宕町芝居	本朝廿四孝 三段目迄	初段(常、仮名)、二段目(口三保、千賀、中氏、切土佐、八重)、三段目(口千賀、中氏、切中)。	たおやめ姫(与吉)、氏時(源吾)、かげ勝(与吉)、村上左右衛門(与吉)、信玄(佐造)、じひ蔵(弥三郎)、道三(冠作)、横蔵(音五郎)、けんしん(三吾)、みの作(与十郎)、かつ頼(与十郎)、兵部(文二)、ぬれきぬ(十五郎)、からおり(十五郎)、入江(源三郎)、高坂弾正(冠作)、こしな弾正(伊作)、おたね(金吾)、勤助母(重三郎)。
一八一三	文化10	4/1~	いなり境内	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 関、口 雛、切 町)、貳段目(口 都、おく 君、中 吾、切 時)、三段目(口 町、中 筆、切 宮戸)、四段目(口 道、おく かけ 合 君・道、中 吾、次 時、切 巴)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは恩義と見ゆる朝貞の白小袖色かを残す老女のぐんはいはしなのゝ品者それは山かつこれは山本／氷の上の通ひぢは狐と見ゆる菊畠の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはすはの曲者敵もたい正味方もだい正」。	かをやめの方(喜十郎)、北条氏時(竹吉)、三郎景勝(大五郎)、村上左衛門(兵吉)、たけ田しんげん(小六)、しづのかた(勢蔵)、慈非蔵(金吾)、こし元八つはし(九二八)、井上新左衛門・関兵へ・道三(与十郎)、よこ蔵(新吾)、長尾けんしん(紋子)、みの作(新吾)、たけだかつより(大五郎)、板がき兵部(紋子)、こし元ぬれ絹(九二八)、からおり(東蔵)、こしな女房入江(喜十郎)、高坂だい正(兵吉)、こしなだい正(小六)、おたに(九二八)、勤介母(勢蔵)、八重がき姫(金吾)。
一八一五	文化12	1/13~	稲荷社内	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 淀、八尾、口 筆、切 重)、貳段目(口 菊、おく 源、中、口 綾、切 八重)、三段目(口 巴、中 重、切 中)、四段目(口 式、おく 綾、口 勝、中 八重、切 巴)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たおやめのかた(勢蔵)、北条氏時(元五郎)、かげかつ(大五郎)、村上左衛門(金四)、信玄(小六)、しひ蔵(金吾)、八つはし(国八)、井上新左衛門(与十郎)、横蔵(新吾)、口口けんしん(新吾)、みの作(兵吉)、勝より(大五郎)、板垣兵部(元五郎)、ぬれぎぬ(国八)、からおり(小六)、こし口入江(勢蔵)、高坂だい正(与十郎)、こし名だい正(兵吉)、おたね(国八)、横蔵母(勢蔵)、八重垣姫(金吾)。
					初段(大序 虎、菊、口 筆、切 重)、貳段目(口 菊、おく 要、中 綾、切 染)、参段目(口 要、中 重、切 中)、四段目(口 式、おく 綾、口 式、中 染、切 巴、重)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※前項の興行の別番付。配役が大幅に違う。	たをやめのかた(八十郎)、北条氏時(一二)、かげかつ(東十郎)、村上左衛門(小六)、しんげん(小六)、しづのかた(源三郎)、慈悲蔵(与十郎)、八つはし(国八)、井上新左衛門(与十郎)、横ぞう(冠四)、けんしん(冠四)、みの作(兵吉)、勝より(東十郎)、板垣兵部(富三郎)、ぬれ絹(勢蔵)、からおり(小六)、こし名女房入江(勢蔵)、高坂だい正(与十郎)、こし名だい正(兵吉)、おたね(国八)、勤介老母(勢蔵)、八重垣姫(国八)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一八	文化15	1/24~	いなり社内	本朝廿四孝 五段物	初段(序泉、十七、口勝、切重)、式段目(口房、要、中源、切筆)、三段目(口むら、中重、切中)、四段目(中要、次筆、切巴)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※「雪の中の箏は恩義と見ゆる朝貞の白小袖色香を残す老女の軍配はしなのゝ品者それは山がつこれは山本／氷の上の通ひぢは狐と見ゆる菊畠の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはずはの曲者敵もだい正味方もだい正」。	たおやめのかた(千柳)、北条氏時(仙助)、景かつ(冠三)、村上左衛門(東十郎)、武田信玄(千次郎)、しづのかた(とら蔵)、慈悲蔵(千次郎)、井上新左衛門・関兵へ(音五郎)、よこ蔵(千四)、長尾鎌信(千四)、みの作(兵吉)、かつより(兵吉)、板垣兵部(冠三)、濡絹(新二)、唐おり(東十郎)、女房入江(新二)、高坂だいい正(音五郎)、こし名だいい正(兵吉)、おたね(辰五郎)、かん介母(音五郎)、八重垣姫(辰五郎)。
一八一八	文政1	11	京 錦天神芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序(口菅、奥九賀、中巴、口勝、切錦)、二ツ目(口広、奥宮戸、中品、切八重)、三ツ目(口錦、中綱、切宮戸)、四ツ目(口峰、奥紋、中勝、次八重、切巴=猪左衛門)。 ※角書「甲斐信玄／越後謙信」。	たをやめござん(十三郎)、北条うぢまさ(林三郎)、かげかつ(大五郎)、むらかみ左衛門(金四)、かいの信げん(千治郎)、しづのかた(勢造)、じひ蔵(金吾)、さいとう道三(千治郎)、よこ蔵(新吾)、けん信(与十郎)、みのさく(才治)、かつより(才治)、いたがき兵部(林三郎)、ぬれぎぬ(金吾)、からをり(国八)、入江(金吾)、かうさかだん正(与十郎)、こしなだん正(金四)、おたね(才治)、かん介はゝ(十三郎)、八重かきひめ(国八)。
一八一九	文政2	4/8~	江戸 結城座	本朝廿四孝	序(大序宮、中鳴、切律)、二(口千賀、奥氏、中律、切下り絹)、三(口鳴、奥律、中若、切氏)、四(口美代、中下り絹、切若)、五(惣カケ合)。	たをやめ御前(清左)、うじ時(甚蔵)、景勝(冠十)、むら上(巳之介)、信玄(伊三良)、しづの方(安五良)、直江山城・慈悲蔵(東作)、斎藤道三(伝七)、横蔵・勘介(伊三良)、鎌信(力蔵)、みのさく(東作)、勝より(東作)、いたがき(冠十)、ぬれぎぬ(新七)、唐織(清左)、いり江(新七)、高坂弾正(伝七)、鑓弾正(伊三良)、おたね(伝七)、勘介はゝ(新七)、八重垣姫(伊三良)。
一八二〇	文政3	4/8~	いなり境内	本朝廿四孝 式だん目より 四だんめまで	式段目(口久、おく音、中重、切染)、三段目(口むら、中染、切中)、四段目(口入、おく梶、中音、次時、切重)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	長尾かげかつ(新治)、村上左衛門(新治)、たけ田信玄(冠三)、慈悲蔵(千治郎)、関兵衛(九孝)、横蔵(千四)、長尾けん信(千治郎)、みの作(才治)、かつより(才治)、板垣兵部(政右衛門)、こし元ぬれ絹(東十郎)、唐おり(才治)、こし元入江(千柳)、高坂だいい正(千四)、越名だいい正(千助)、おたね(辰五郎)、勘助母(九孝)、八重垣姫(辰五郎)。



「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八二二	文政5	10/14	阿波 東 林 村	(本朝廿四孝 (ママ))	※『元木家記録』に「一 東林村二而十月十四日より源之丈芝居出来、同十二日二字三郎見物、本朝廿四孝」とあるに拠る。	
	一八二三	文政6	4/16~	御 霊 社 内	本 朝 廿 四 孝 五 段 つ ど き	初段(大序 伊、鳴、口 泉、切 綾)、貳段目(口 菅、中 季代、おく 中、中 勝、切 時)、三段目(口 鐘、中 巴、おく 生駒、中 時、切 中)、四段目(口 式、おく 生駒、口 綾、中 筆、切 巴)、五段目 (文字)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝良の白小袖色香を残す老女 のぐんはいはしなのゝ品者それは山がつこれは山もと／氷の上の通ひぢ は狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいばいはすはの曲者敵も だい正味かたもだい正」。	みだいたをやめ(辰二)、北条氏時(田 吉)、三郎かげ勝(源十郎)、村上左衛門 (金四)、たけ田信玄(朝右衛門)、しづの かた(東五郎)、慈悲蔵(新治)、井上新左 衛門・関兵へ(冠四)、よこぞう(新吾)、 長尾けん信(金吾)、みのさく・かつより (新治)、かつより(金吾)、いたがき兵部 (田吉)、こし元ぬれ絹(東十郎)、からおり (国八)、越名女房入江(辰二)、高坂弾 正(東十郎)、こし名弾正(金四)、おたね (金吾)、よこ蔵母(冠四)、八重垣ひめ (国八)。
	一八二三	文政6	9	京 四条北側大芝 居	本 朝 廿 四 孝 大序より 三段目迄	大序(八尾、浦)、序切(口 式、切 むら)、二ノ口(口 菅、次 咲、 奥 中)、二ノ切(中 綱、切 筆)、三ノ口(口 巴、奥 綾)、三ノ切 (中 むら、切 中)、四ノ口(口 鐘、奥 咲・ツレ 鐘)、四ノ切(中 勝、次 筆、切 巴)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たおやめごぜん(東五郎)、氏とき(冠 吉)、三郎景勝(朝右衛門)、浦上左衛門 (金四)、武田信玄(朝右衛門)、しづの方 (一山)、慈悲蔵(金吾)、こし元八つ橋 (辰二)、関兵へ・佐藤道三(金吾)、よこ 蔵(冠四)、謙信(冠四)、みのさく(金 四)、かつより(金四)、板がき兵部(田 吉)、ぬれきぬ(金吾)、唐おり(才治)、 だん正妻入井(辰二)、高坂だん正(田 吉)、こし名だん正(十九蔵)、おたね(辰 五郎)、勘介はゝ(国八)、八重がき姫(国 八)。
		文政前 半	9/6~	江戸 八幡宮御社地 内	本 朝 廿 四 孝 大序より 三段目迄	大序(九竜)、義治館の段(口 盛、次 豊、おく 力、切 鳴戸)、諏訪 社御百度の段(口 沢、おく 多賀)、信玄館の段(口 家、切 紋)、桔 梗か原のだん(口 九竜、おく 多賀)、山本勘助住家の段(口 鳴戸、 切 此)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前(磯五郎)、北条氏時(善次 郎)、景勝(新七)、村上左衛門(新五 郎)、武田信玄(冠重)、賤の方(庄吉)、 慈悲蔵(兼吉)、斎藤道三(平五郎)、横 蔵・山本勘介(清五郎)、謙信(新五郎)、 蓑作(新七)、勝頼(新七)、板垣兵部(兼 吉)、こし元ねれ衣(音五郎)、からおり (磯五郎)、おたね(新七)、勘介母(冠 重)。
△		文政前 半		江戸 結 城 座	(本朝廿四孝)	※安田喜代門蔵、伊勢屋喜助版六行抜本の表紙に「本朝廿四孝 三段目 の口／結城座 竹本此太夫／大西東造」とあるに拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二四	文政7	3/11~	いなり社内	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 筑、中島、口広、切吾)、二段目(口式、おく中、口文字、切湊)、三段目(口重、おく島、中吾、切中)、四段目(口佐賀、おく島・ツレ広、中文字、次湊、切重)、五段目(筑)。	たをやめごぜん(東五郎)、北条氏時(源十郎)、かげかつ(十九造)、村上左衛門(十九造)、信玄(鬼市)、しづのかた(源三郎)、慈悲蔵(熊蔵)、八つはし(辰助)、道三(熊蔵)、よこ蔵(兵吉)、けん信(政右衛門)、みの作(兵吉)、かつより(才治)、いた垣兵部(源十郎)、ぬれきぬ(辰造)、からおり(源十郎)、こし元入江(東五郎)、にげだん正(政右衛門)、やりだん正(辰造)、おたね(辰五郎)、かん介母(鬼市)、八重垣姫(辰五郎)。
一八二四	文政7	閏8	北の新地芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序(浜)、初段(口房、切生駒)、二段目(口宮子、おく半、中房、切君)、三段目(口巴、頼、中君、切若)、四段目(口半、おく生駒・ツレ房、口頼、中君、切巴、切大道具御てんせり上ケ／人形惣出つかいにて相勤申候)。 ※角書「長尾謙信／武田信玄」。	たをやめ御ぜん(東三)、氏時(重造)、長尾三郎景勝(朝右衛門)、村上佐右衛門(田吉)、竹田信玄(朝右衛門)、賤のかた(きち二)、慈悲蔵(金四)、花守関兵衛・斎藤道三(金吾)、横ぞう(金吾)、長尾謙信(東十郎)、みのさく・竹田勝頼(金四)、竹田勝頼(新四)、板垣兵部(田吉)、こし元濡衣(辰治)、唐おり(新四)、弾正女房入江(辰治)、高坂だん正(勢造)、こし名弾正(東十郎)、おたね(国八)、勘介はゝ(東十郎)、八重垣ひめ(国八)。
一八二五	文政8	10/2~	座摩境内芝居	本朝廿四孝 五段続	初段(大序 喜久、口常、中 杣、切長門)、二段目(口広、おく三根、中長門、切島)、三段目(口春、中島、切播磨大掾)、四段目(口広、おく三根・ツレ杣、中長門、切春)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前(新四)、氏時(冠三)、景かつ(鬼市)、村上左衛門(谷三郎)、しんげん(三左衛門)、しづの方(三十郎)、慈悲蔵(谷三郎)、八つはし(三吾)、斎藤道三(冠四)、横ぞう(新吾)、けんしん(新吾)、みの作(新四)、かつより(新四)、板垣兵部(鬼市)、ぬれぎぬ(三吾)、唐をり(三吾)、入江(三十郎)、高坂弾正(新四)、越名弾正(冠三)、おたね(三吾)、勘介母(三左衛門)、八重がきひめ(三吾)。
△ 一八二五	文政8	10/29~	三州 御油宿	(二十四孝)	十種香(岬)。 ※山本まち蔵「角力番付外二芝居番付」(『御津町史文書目録』ノ命名)に拠る。	
一八二五	文政8	11/1~	座摩境内芝居	本朝廿四孝	初段(大序 喜久、口常、中 杣、切長門)。	たをやめ御前(新四)、景かつ(鬼市)、なを江山白(谷三郎)、八つはし(三吾)、井上新左衛門(冠四)、けんしん(新吾)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二七	文政10	10/20~	いなり社内芝居	本朝廿四孝 五段つき	大序(口新、おく亀)、初段(中和佐、口左馬、切磯)、二段目(口佐賀、おく湊、中谷、切長門)、三段目(口春、中長門、切湊)、四段目(口和佐、中磯、切春)、五段目(跡喜久、泉)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝かほの白小袖いろ香を残す老女のくんばいはしなの品者それは山かつこれは山もと／氷の上の通ひちは狐と見ゆる菊はたけの大振袖恋に此世を捨子のさいばいはずはの曲者敵もたん正味方も弾正」。	たをやめひめ(三十郎)、北条氏時(冠三)、かげかつ(岩五郎)、村上左衛門(東造)、武田しん玄(よ十)、しづのかた(三左衛門)、慈悲蔵(よ十)、八つはし(辰五郎)、関兵衛・斎藤道三(冠四)、よこ蔵(才治)、長尾けん信(三左衛門)、みの作(岩五郎)、かつより(才治)、板がき兵部(三左衛門)、ぬれぎぬ(松次郎)、からをり(三吾)、こしもと入江(松次郎)、高坂だん正(冠三)、こし名だん正(よ十)、おたね(辰五郎)、勘介母(冠四)、八重がき姫(辰五郎)。
△一八二七	文政10	10	江戸土佐座	(本朝廿四孝)	※安田喜代門蔵、西村幸助版六行抜本の表紙に「本朝廿四孝 三ノ中／豊竹若大夫／鶴沢市造」、奥書に「名代 土佐虎之助／座元 竹本金蔵／ゆか頭取 竹本生駒太夫／人形頭取 吉田冠二／人形方 西川伊三郎」「東都堺町御操 文政十丁亥口月吉日改」とあるに拠る。	
一八二八	文政11	3/3~	名古屋 名古屋若宮御 社内大芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四つ目まで	大序(木蘇、岩)、序切(中寿、喜久、切鐘)、二だんめ(口七、跡綱、中つる、切文字、春)、三段目(口阿蘇、中文字、切綱)、四だんめ(口七、中筆、切春)。	たおやめ御ぜん(東五郎)、氏時(松次郎)、かげかつ(辰造)、村上右衛門(こま吉)、しげん(与吉)、しづの方(こま吉)、ぢひぞう(与吉)、道三(与吉)、よこぞう(弥三郎)、けんしん(弥三郎)、みの作(松次郎)、めくらかつより(三吾)、いたかき(東造)、ぬれぎぬ(辰造)、からおり(辰造)、入江(こま吉)、高坂だん正(与吉)、こしなだん正(弥三郎)、おたね(伝七)、勘介母(三吾)、八重がき姫(三吾)。
一八二八	文政11	4	伊勢 勢州古市芝居	本朝廿四孝 大序より	大序(木蘇、岩)、序切(中叶、喜久、切鐘)、二だんめ(口七、阿蘇、中つる、切文字)、三段目(口阿蘇、中文字、切綱)、四段目(口七、中筆、切春)。	たおやめ御ぜん(東五郎)、氏時(松次郎)、かげかつ(勝造)、村上右衛門(こま吉)、しんげん(与吉)、しづの方(こま吉)、ぢひぞう(与吉)、道三(与吉)、よこぞう(弥三郎)、けんしん(弥三郎)、み之さく(松次郎)、めくら勝より(三吾)、板垣(東造)、ぬれぎぬ(勝造)、からおり(勝造)、入江(こま吉)、高坂だん正(与吉)、こしなだん正(弥三郎)、おたね(伝七)、かん介は(三吾)、八重垣姫(三吾)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二九	文政12	1/19~	御霊社内	本朝廿四孝 五段続	初だん(大序口名田、おく亀、口関、おく節、口歌門、中絹、切綾)、貳段目(口道、おく佐賀、中頼、切湊=百蔵事伊左衛門)、三段目(口勝、おく鐘、中長門、切筆)、四段目(口谷、おく久・ツレ房・弥宗・日出、中和佐、次生駒、切重)、五段目(かけ合数馬・頼母・工賀)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝良の白小袖色かを残す老女のぐんばいはしなのゝ品者それは山がつこれは山もと／氷の上の通ひちは狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはすはの曲者敵も弾正味方もだん正」。	たをやめ御ぜん(勢造)、北条氏政(右造)、長尾景勝(朝右衛門)、村上左衛門(金四)、武田信玄(源吾)、しづのかた(右造)、慈悲蔵(金吾)、斎藤道三(金吾)、横ぞう(金四)、長尾謙信(小六)、みの作(金四)、武田勝頼(新四)、板垣兵部(朝右衛門)、こしもと濡衣(小六)、高坂女房唐をり(小六)、越名女房入江(新四)、高坂弾正(金吾)、越名弾正(金四)、おたね(国八)、勘助母(小六)、八重がきひめ(国八)。
一八三〇	文政13	4/10~	名古屋 清寿院御境内 芝居	本朝廿四孝 引わけせりあげ	御てんのだん(口頼母、おく長門、切重、跡谷)。	かけ勝(与吉)、道三(金四)、勘介(東造)、けんしん(金助)、みのさく(清七)、ぬれきぬ(喜十郎)、八重垣姫(三吾)。
一八三〇	文政13	4	北ほり江市の 側芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序(十五)、序中(雛)、初段(口巴枝、切手羽)、貳段目(口当賀、おくの、中巴勝、切登喜)、三段目(口十五、おく氏、跡の、中登喜、切組)、四段目(口当賀、おく手羽・ツレ巴枝、次雛、中和佐、切巴勢)。	たをやめ御ぜん(東三)、北条氏直(源吾)、景かつ(弥三郎)、村上左衛門(冠四)、武田信玄(門蔵)、しづのかた(文吾)、慈悲ぞう(門蔵)、斎藤道三(弥三郎)、横ぞう(千四)、甲斐ノ謙信(千四)、みの作(冠四)、かつより(弥三郎)、板がき兵部(源吾)、ぬれぎぬ(新四)、からをり(新四)、入江(勢蔵)、にげ弾正(弥三郎)、やりだん正(冠四)、おたね(国八)、勘助母(冠蔵)、八重がきひめ(国八)。
一八三〇	文政13	5/1~	名古屋 清寿院御境内 芝居	本朝廿四孝	三段目 勘助住家のだん(口長門、切むら)。 ※初日は『見世物雑誌』に拠る。	かけ勝(東造)、ぢひぞう(与吉)、横蔵(金四)、からおり(清七)、おたね(三吾)、ぢひぞう母(三吾)。
一八三〇	文政13	5/13~	名古屋 清寿院芝居	本朝廿四孝	御殿のだん(口頼母、切重、跡谷)。 ※「場一めんニ引わけせりあげ」(番付)。	かけかつ(与吉)、道三(金四)、勘介(東造)、けんしん(金助)、みのさく(清七)、ぬれきぬ(喜十郎)、八重垣姫(三吾)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三〇	文政13	7以前/5	江戸 芝神明社内	本朝廿四孝 大序ヨリ 五段目迄 相勤申候	大序(文)、序切(口入、切生駒)、貳段目(口浅、次実、中尾木、切門)、三段目(口袖、次要、中実、切染)、四段目(口生駒、切要)。 ※角書「甲斐信玄／越後謙信」。	たほやめ御前(定吉)、北条氏時(音五郎)、景かつ(兼吉)、村上左衛門(音五郎)、信玄(幸五郎)、しづのかた(磯五郎)、山城のすけ・じひ蔵(清五郎)、八つ橋(六三)、斎藤道三(兼吉)、横蔵・山もとかん介(幸五郎)、けんしん(音五郎)、みのさく(松五郎)、かつより(松五郎)、板垣兵部(巳之助)、ぬれ衣(力蔵)、からおり(力蔵)、入江(清左)、高坂だん正(清五郎)、こしだん正(松五郎)、おたね(六三)、かん助はゞ(力蔵)、八重かき姫(清五郎)。
一八三〇	文政13	10/15~	いなり境内	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序(口鶴、次勇、おく雛)、初段(口高、中八木、切三根)、貳段目(口八木、おく島、中淀、切浪)、三段目(口淀、中三根、切むら)、四段目(口島、中浪、切春)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝良の白小袖色香を残す老女のぐんばいはしなのゝ品者それは山がつこれは山もと／氷の上の通ひぢは狐と見ゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいばいはすはの曲者敵も大しやう味方も大将」。 ※「三段目切竹本むら太夫」の脇に「三味線 鶴沢勇三」の書込みをもつ番付と、貳段目「口竹本八木太夫／おく豊竹島太夫」の二行が「口豊竹島太夫」となっている別番付がある。	たをやめ御前(三左衛門)、北条氏時(才助)、かげ勝(多津助)、村上左衛門(才助)、武田信玄(朝右衛門)、しづのかた(朝之助)、慈悲蔵(岩五郎)、八つはし(辰治)、斎藤道三(よ十)、横蔵(才治)、長尾謙信(岩五郎)、みの作(辰造)、勝より(才治)、板垣兵部(三左衛門)、ぬれぎぬ(駒造)、唐をり(駒造)、いり江(重五郎)、高坂弾正(多津助)、越名弾正(辰造)、女房おたね(辰五郎)、勘助母(よ十)、八重がき娘(辰五郎)。
一八三一	天保2	1	京 四条南側大芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序(縫、園、桑)、切(口理、中藤、切綾、駒)、貳(口三根、綱、中浜、切春)、三(口梅、駒、岡、中重、切巴)、化物(シテ綾・ツレ喜代)、四(次頼、中巴、切重、跡岡)。 ※角書「甲斐信玄／越後謙信」。 ※初段・切を竹本頼母太夫とする別番付がある。	たおやめ(歌六)、氏とき(東三)、かけ勝(弥三郎)、浦上左衛門(清八)、かみしん玄(山吾)、しづのかた(喜十郎)、慈悲ぞう(文三)、斎藤道三(金吾事門蔵)、横ぞう(金四)、けんしん(新吾)、みのさく(金四)、かつより(文三)、板がき兵部(源吾)、ぬれぎぬ(清八)、からおり(門三郎)、高坂妻みさほ(清八)、高坂だん正(弥三郎)、やりだん正(金介)、女房おたね(新吾)、勘介母(山吾)、八重垣ひめ(山吾)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三二	天保3	3/12~	江戸 土佐座	本朝廿四孝 大序より 大切迄	初段(大序文、奥八つ、口園、切実)、二段目(口苦、奥染、中房、切紋)、三段目(口程、奥曾賀、中紋、切染)、四段目(口朝、奥シテ実・ツレ程、中曾賀、切房)、五段目(カケ合妻・梅)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ(専右衛門)、氏時(新次郎)、景勝(兼吉)、村上(冠十)、信玄(東九郎)、賤の方(兼吉)、直江山城・慈悲蔵(国五郎)、八つはし(冠造)、どふさん(東九郎)、横蔵・山本勘介(幸五郎)、鎌信(冠造)、みのさく(国五郎)、勝頼(兼吉)、いたがき(貫蔵)、ぬれ衣(専右衛門)、からおり(幸五郎)、入江(専右衛門)、越科弾正(国五郎)、こしな弾正(東九郎)、おたね(冠造)、横蔵母(冠造)、八重垣姫(幸五郎)。
△	一八三二	天保3	江戸 品川本宿川熊	(廿四孝)	化物やしき。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三二	天保3	江戸 品川本宿川熊	(廿四孝)	捨子。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三二	天保3	江戸 品川本宿川熊	(廿四孝)	三段目。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三三	天保4	名古屋 広小路神明	(廿四孝)	※『名陽見聞図会』に拠る。	
	一八三三	天保4	御霊社内	本朝廿四孝 大序より 三段目迄	大序(登志、巴三、今)、初段(口信、中常、切当賀)、二段目(口尾木、次鳴戸、おく若、中実、次巴津、切錦、跡当磨)、三段目(口信、次当能、おく当賀、中錦、切若)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝顔の白小袖色かを残す老女の軍配はしなのゝ品者それは山賤これは山本／氷の上の通ひ路は狐と見ゆる菊島の大振袖恋二此世を捨子のさいばいはずはの曲者敵も弾正味方も弾正」。	たをやめ御ぜん(伊十郎)、北条氏時(伊作)、長尾景かつ(源吾)、村上左衛門(文吾)、武田信玄(源十郎)、しづのかた(新三)、直江山城ノ介(東十郎)、八つはし(国八)、斎藤道三(東十郎)、横蔵(新吾)、長尾謙信(新吾)、みの作(喜十郎)、勝より(喜十郎)、板がき兵部(伊十郎)、濡きぬ(東十郎)、高坂妻唐をり(喜十郎)、越名妻入江(文吾)、にげ弾正(東十郎)、やり弾正(源十郎)、おたね(国八)、勘介母(源十郎)。
	一八三四	天保5	いなり境内	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序(巴満、巻、雛、成駒)、初段(中錦、切三根)、二段目(口さと、おく島、中三根、切氏)、三段目(口為、おく巴勢、中岡、切住)、四段目(島、三根、口錦、おく氏、切巴勢、むら)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝貞の白小袖色香を残す老女の軍配はしなのゝ品者それは山がつこれは山本／氷の上の通ひ路は狐と見ゆる菊島の大振袖恋二此世を捨子のさいばいはずはの曲者敵も大しやう味方も大将」。	たをやめ御前(猪三郎)、北条氏時(新五郎)、景かつ(徳蔵)、村上左衛門(徳蔵)、武田信玄(朝右衛門)、しづのかた(朝之助)、慈悲蔵(金四)、八つはし(門三)、花つくり関兵へ・斎藤道三(門蔵)、横蔵(門蔵)、けんしん(東十郎)、みの作(清七)、勝より(徳蔵)、板垣兵部(東十郎)、ぬれぎぬ(門三)、からをり(清七)、いり江(勢造)、こしもと入江(善太郎)、高坂だん正(清七)、越名だん正(徳蔵)、おたね(辰五良)、勘介母(東十郎)、八重がき姫(辰五良)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三六	天保7	4	播州 加古川芝居	本朝廿四孝 四の切	狐火のだん(頼母)。	関兵へ(東十郎)、けんしん(与十郎)、勝より(一橋)、こしもとぬれ衣(喜十郎)、八重がきひめ(三吾)。
一八三六	天保7	10/5~	江戸 薩摩座	本朝廿四孝 五段つゞき	大序(朔)、義晴館之段(口房、切島)、明神森之段(口民、ヲク染)、勝頼切腹之段(中房、切紋)、桔梗ヶ原之段(口朔、ヲク巴勢)、勘助住家之段(口島、切染)、謙信館之段(中紋、切巴勢)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	手弱女御せん(力蔵)、北条氏時(平三)、長尾景勝(新七)、村上よし清(久太郎)、武田信玄(兼吉)、賤のかた(京蔵)、慈悲蔵(新十郎)、花守関兵衛実(斎藤道三(幸五郎)、山本勘助(伊三郎)、長尾謙信(久太郎)、百性みの作(新七)、武田勝頼(新十郎)、板垣兵部(文治)、こし元濡衣(京蔵)、おく方唐織(大三郎)、おく方入江(文吉)、高坂弾正(兼吉)、越名弾正(文治)、女房おたね(幸五郎)、勘助はゞ(力蔵)、八重垣姫(伊三郎)。
一八三八	天保9	3/23~	稲荷社内東芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序(叶)、初段(口巴満、切咲)、三段目(口叶、おく大隅、中島、切勢イ見)、三段目(口琴、おく咲、中岡、切長門)、四段目(口島・ツレ叶、中越、次鞆、切重)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※語り「雪の中のたけのこは忠義と見ゆる朝貞の白小袖色香を残す老女のぐんばいはしなのゝ品者それは山がづは山本／氷の上の通ひ路は狐とみゆる菊皇の大振袖恋に此世を捨子のさいはいはずはの曲者敵もだん正味方もだん正」。	たをやめ御前(徳治郎)、北条氏時(門十郎)、長尾景勝(勝造)、村上左衛門(徳造)、武田信玄(東十郎)、直江大和守(金三)、慈悲蔵(門蔵)、こしもと八つはし(咲造)、斎藤道三(徳造)、横蔵(金四)、長尾謙信(門蔵)、美之作(辰造)、武田かつ頼(勝造)、板垣兵部(源造)、こしもと濡衣(百造)、高坂女唐唐おり(辰造)、こし名女房入江(百造)、高坂だん正(東十郎)、越名弾正(勝造)、慈悲蔵女房おたね(辰五郎)、勘助はゞ(東十郎)、八重垣姫(辰五郎)。
一八三九	天保10	9/29~	稲荷社内東芝居	本朝廿四孝 従大序 四段目迄	大序(十七、真島)、初段(口桂、切佐賀、岡)、三段目(口音、おく梶、中い、切勢イ見)、三段目(口はる、おく綱、中梶、切重)、四段目(口い、おく勢イ見、切岡・ツレはる)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前(重五郎)、北条氏時(文造)、長尾景勝(国五郎)、村上左衛門(新五郎)、武田信玄(源吾)、しづのかた(小辰)、慈悲蔵(勝造)、八つはし(徳治郎)、斎藤道三(徳造)、横蔵(兵吉)、長尾謙信(喜十郎)、百性みの作(辰造)、武田かつ頼(文造)、板垣兵部(国五郎)、こしもとぬれ衣(徳治郎)、高坂妻唐織(辰造)、こし名妻入江(徳治郎)、高坂だん正(喜十郎)、こし名だん正(新五郎)、慈悲蔵女房おたね(辰五郎)、勘介はゞ(徳造)、八重垣ひめ(辰五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三九	天保10	9	北之新地芝居	本朝廿四孝 大序より 三段目まで	初段(大序 ひな、増、口 巴磨、切 錦木)、忒段目(口 信、おく 筆戸、中 高来、切 茂)、三段目(口 当勇、おく 筆戸、中 錦木、切 筆)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たおやめごぜん(咲造)、北条氏時(芳三郎)、三郎景かつ(寅造)、村上左衛門(文四)、武田信玄(文三)、しづのかた(平吉)、慈悲蔵(文三)、八つはし(東三)、斎藤道三(文三)、横蔵(新吾)、長尾謙信(仙子)、みの作(清十郎)、武田勝より(清十郎)、板垣兵部(寅造)、こしもとぬれ絹(八蝶)、からおり(清十郎)、妻入江(咲造)、高坂だん正(寅造)、越名弾正(文三)、おたね(東三)、勘介はゞ(八蝶)。
一八四〇	天保11	3/3~	江戸 結城座	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序(口 亀、おく 喜久)、初段(中 久賀、切 由良)、忒段目(口 浪尾、おく 浪、中 泉、切 津瑠、額)、三段目(口 程、中 染、切 浪、泉、怪物早替り相勤申候 吉田千四)、四段目(口 津瑠、中 由良、切 染)。	弱手女ごぜん(大三郎)、北条氏時(吉五郎)、長尾景勝(久太郎)、村上左衛門(六二)、武田信玄(千四)、直江山城・慈悲蔵(文四)、花もり関兵へ・斎藤道三(新十郎)、よこぞう・山本勘介(冠二)、長尾謙信(六二)、百性みの作(文四)、武田勝頼(冠二)、板垣兵部(久太郎)、ぬれぎぬ(力蔵)、唐おり(大三郎)、いりえ(六三)、高坂弾正(新十郎)、越名弾正(兼三郎)、おたね(千四)、勘助母(伊三郎)、八重垣ひめ(伊三郎)。
一八四一	天保12	1/5~	天神社内中小 家芝居	本朝廿四孝 従大序 四段目迄	大序(常)、初段(口 勝、切 綾)、忒段目(口 錦木、中 勝、切 錦)、三段目(口 当能、中 綾、切 錦木)、四段目(口 綾、中 勝、切 富)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前(鬼十郎)、北条氏時(金花)、景かつ(源三)、村上左衛門(門十郎)、武田信玄(門十郎)、しづのかた(歌六)、慈悲蔵(門十郎)、斎藤道三(文吾)、横蔵(冠四)、越後謙信(冠四)、みの作(金花)、かつより(清十郎)、板垣兵部(冠蔵)、ぬれぎぬ(歌蔵)、唐おり(源三)、入江(歌蔵)、高坂だん正(文吾)、こしな弾正(門十郎)、おたね(清十郎)、勘助はゞ(冠蔵)、八重垣姫(清十郎)。



「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四一	天保12	閏1/29~	堀江市の側芝居	本朝廿四孝 五段つゞき	室町やかたのだん（口 督、奥 民）、誓ぐわんし茶店のだん（口 鹿、跡 当久）、室町おく御てんの段（口 源氏、切 磯）、下すわ明神のだん（口 三尾、奥 内匠）、信玄やかたのだん（口 高来、切 茂）、桔梗か原のだん（口 源氏、奥 茂）、山本住家のだん（中 錦木、切 筆）、村上屋しきのだん（口 錦、シテ 多満・源・ワキ 高来・三尾）、鎌信御てんのだん（口 源、中 錦木、切 三光斎）。 ※角書「武田信玄／長尾鎌信」。	たおやめ御前（八蝶）、北条氏時（猪造）、長尾景勝（朝右衛門）、村上左衛門（国五郎）、武田信玄（文三）、しづのかた（小辰）、慈悲蔵（冠四）、八つはし（国八）、斎藤道三（冠蔵）、横蔵（文三）、長尾鎌信（新吾）、みの作（冠四）、武田勝頼（徳次郎）、板垣兵衛（朝右衛門）、ぬれ絹（小辰）、唐おり（八蝶）、入江（小辰）、高坂だん正（国五郎）、越名だん正（猪造）、おたね（国八）、勘助母（新吾）、八重かき姫（国八）。
一八四一	天保12	10/4~	座摩西の芝居	本朝廿四孝 大序より 四だん目迄	大序（巴枝）、初段（口 辰、美和、切 琴）、貳段目（口 当久、おく 淀、中 八百、切 八重）、三段目（口 勝、おく 琴、中 頼母、切 咲＝広作）、四段目（口 勝、中 八重、切 茂、跡 峰）。 ※角書「大将の見参は鉾楯の発端／英雄の軍配は北国の凱歌」。	たをやめ御前（国助）、北条氏時（福之助）、上杉景勝（国五郎）、村上左衛門（仙枝）、武田信玄（朝右衛門）、しづのかた（福之助）、慈悲蔵（新吾）、八つはし（光蔵）、花作り関兵衛・斎藤道三（新吾）、横蔵（文三）、越後鎌信（光蔵）、みの作（文蔵）、武田勝頼（文蔵）、板垣兵衛（光蔵）、こしもと濡衣（国五郎）、から織（仙枝）、入江（光蔵）、高坂だん正（文三）、こし名だん正（文蔵）、おたね（国八）、勘助はゞ（朝右衛門）、八重垣姫（国八）。
一八四一	天保12	11	京 因幡薬師芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目マテ	大序（三隅、百合）、序切（口 三隅、中 真島、切 高来）、貳段目（口 仁尾、奥 淀、中 八百、切 茂、千賀）、三段目（口 高来、奥 富、口 千賀、切 大隅、跡 大和）、四段目（口 八百、中 千賀、切 茂）。	たおやめこせん（国助）、北条氏時（福之助）、上杉かげかつ（国五郎）、武田新源（朝右衛門）、しづかた（福之助）、しひぞう（新吾）、八つはし（国三郎）、関兵へ・さい当堂三（新吾）、横ぞう（文三）、けんしん（光蔵）、みのさく（文蔵）、竹田勝頼（文蔵）、板垣兵部（光蔵）、ぬれぎぬ（国五郎）、からおり（仙枝）、幸坂団正（文三）、こしなたん正（文蔵）、おたね（国八）、かん介はゞ（朝右衛門）、八重垣ひめ（国八）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四二	天保13	9	堺 新地芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序（口市、ヲク志賀）、足利館の段（口綾、次要、切時）、訪 誠明神段（八十）、信玄館の段（中緑、切勢見、越）、桔梗ヶ原の段 （口要、ヲク錦）、勘介住家段（中時、切染）、鎌信館の段（口 綾、中美の、切岡）。	たをやめ御前（咲造）、北条氏時（国五 郎）、長尾かけかつ（国五郎）、村上左衛門 （咲造）、武田信玄（源吾）、しづのかた （卯之助）、直江山城之介・慈悲蔵（文 三）、花造関兵へ（文三）、よこ蔵・山本か ん介（金四）、長尾鎌信（源吾）、花造みの 作（辰造）、武田勝頼（辰造）、板かき兵部 （国五郎）、こし元ヌレ絹（咲造）、妻唐を り（辰造）、妻入江（寿五郎）、高坂弾正 （源吾）、こし名弾正（咲造）、おたね（辰 五郎）、かん介はゞ（寿五郎）、八重垣姫 （辰五郎）。	
一八四二	天保13	9	西宮 西之宮芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目まで	大序（緑）、初段（口虎、切勝、内匠）、弐（口弥蘇、おく梶、中 巴枝、切琴）、三（口勝、中春、切梶）、四（口緑、中琴、切 春）。	たをやめ御前（藤治）、氏時（宗十郎）、か げかつ（国五郎）、村上（八十八）、信げん （朝右衛門）、しづのかた（吉之助）、慈悲 蔵（冠四）、斎藤道三（冠四）、横蔵（国五 郎）、けんしん（冠十郎）、みのさく（国五 郎）、かつより（国五郎）、板がき兵部（国 五郎）、ぬれぎぬ（宗十郎）、にげ弾正（国 五郎）、やりだん正（八十八）、おたに（冠 十郎）、勘介はゞ（清十郎）、八重がき姫 （清十郎）。	
△	一八四二	天保13	11/17	紀州 佐野芝居	（廿四孝）	三（梶）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八四二	天保13	11/22	紀州 とうげ花会	（廿四孝）	三（梶）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四三	天保14	2	名古屋	本朝廿四孝 大序より 四の切迄	足利館のだん（輝）、百度参りのだん（和）、力石のだん（真島）、桔 梗原のだん（綾）、勘助住家段（咲）、十種香のだん（むら）。 ※素浄瑠璃カ。	
△	一八四三	天保14	3/20~21	丹後 丹後宮津芝居 北国屋	（廿四孝）	三段目（梶）、四段目（橘）、桔梗原（増）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四三	天保14	4/2~	北堀江市之側芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目まで	大序(口 柏、広)、序中(おく 紅梅)、足利館の段(口 勇、切 春)、百度参りの段(口 時)、力石の段(奥 染)、村上使者の段(中 恵)、勝頼切腹の段(切 勢イ見、岡)、桔梗ヶ原の段(口 土和、奥 春)、駒下駄の段(中 氏)、勘助物語の段(切 染)、化物屋敷の段(口 得、奥 越)、鉄炮渡しの段(口 喜代、中 時)、十種香の段(切 勢イ見)、奥御てんの段(跡 越)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※「村上使者の段」の竹本恵太夫を竹本恵見太夫とする別番付がある。	たをやめ御前(咲造)、北条氏時(猪造)、長尾かげ勝(金三)、村上左衛門(喜十郎)、武田信玄(源吾)、しづのかた(卯之助)、直江山城・慈悲蔵(徳蔵)、こしもと八つはし(冠三)、井上新左衛門・花造り関兵へ・斎藤道三(徳蔵)、よこ蔵・山本勘介(金四)、長尾謙信(重五郎)、花造美濃作(辰造)、武田かつより(門十郎)、板垣兵部(国五郎)、こしもと濡ぎぬ(咲造)、妻からをり(辰造)、妻入江(冠三)、高坂だん正(源吾)、こし名弾正(重五郎)、おたね(辰五郎)、勘介はゞ(喜十郎)、八重がき姫(辰五郎)。
一八四三	天保14	閏9/11~	兵庫	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序(梶)、序(口 弘、切 錦)、二段目(口 弘、中 八十、切 時)、三段目(口 梶ト、中 時、切 梶)、四段目(口 美の、切 岡)。	たをやめ御前(冠三)、氏時(徳十)、景勝(辰造)、村上左衛門(徳十)、信けん(重五郎)、賤ノ方(重五郎)、ぢひ蔵(徳蔵)、姉八つはし(徳十)、斎藤道三(徳蔵)、横そう(文三)、みの作(辰造)、かつより(冠三)、板がき兵部(重五郎)、ぬれ絹(重八)、妻からをり(辰造)、妻入江(重八)、高坂弾正(文三)、越名弾正(冠三)、おたね(辰五郎)、勘介母(重八)、八重がき姫(辰五郎)。
一八四三 頃	天保14 頃		江戸 薩摩座カ	本朝廿四孝	狐火の段(口 佐賀、かけ合 中・吾妻=市太郎)。	
一八四四	天保15	3	道頓堀若太夫芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序(住の江、桐、秀、三輪)、義てるやかたの段(口 梶の、中 巴枝、切 時)、すわ明神の段(口 弘、次 勇)、信玄館ノ段(中 八十、切 勢イ見、瑠璃)、桔梗ヶ原の段(口 綾、次 勇、おく 時)、勘助住家段(中 春、切 巴)、村上やしきノ段(口 三輪、おく 時・ツレ巴枝)、御殿の段(中 八十、次 口、切 氏=勝造)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※大序の役割を(和、弦)、「義てるやかたの段」を「義はるやかたの段」、「村上やしきノ段・口」の役割を(梶の)、「御殿の段」を(中 八十、次 勇、切 春=源吉)とする別番付がある。	たをやめ御前(徳十)、北条氏時(冠三)、長尾景勝(金三)、村上左衛門(猪造)、武田信玄(国五郎)、賤の方(重五郎)、慈悲蔵(文三)、こしもと八つはし(徳十)、斎藤道三(徳造)、横蔵(金四)、長尾謙信(文三)、みの作(辰造)、武田勝より(咲造)、板垣兵部(猪造)、ぬれきぬ(冠三)、からをり(辰造)、入江(国五郎)、高坂弾正(新五郎)、越名弾正(金四)、おたね(辰五郎)、勘助母(重五郎)、八重がき姫(辰五郎)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四四	天保15	3	道頓堀竹田芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	室町館のたん(口米、次今、おく若尾)、誓願寺茶店のたん(口広、跡多賀)、室町奥御殿のたん(口小、中当久、切当能)、下すは明神の段(口広、おく咲)、信玄館のたん(中多賀、切茂)、桔梗が原のたん(口是、おく大登)、勤助住家ノ段(口咲、切若)、村上やしきのたん(口浅香、おく多満・ツレ絹)、謙信御殿の段(口浅香、中当能、切三光齋=吉兵衛)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。 ※「桔梗が原のたん」の役割を(口小、次是、おく大登)とし、齋藤道三の人形役割を吉田喜十郎とする別番付がある。	たをやめ御前(国三郎)、氏時(門治)、景勝(虎造)、村上左衛門(国三郎)、甲斐信玄(虎造)、慈悲蔵(国八)、八つはし(清十郎)、井ノ上新左衛門(文吾)、関兵へ・齋藤道三(門蔵)、横ぞう(門蔵)、長尾謙信(文吾)、みの作(正三)、勝より(金吾)、板垣兵部(文吾)、ぬれぎぬ(国三郎)、唐をり(正三)、入江(国三郎)、高坂弾正(虎造)、越名弾正(金吾)、おたね(清十郎)、勤助母(喜十郎)、八重がき姫(国八)。	
一八四四	天保15	4/15	西宮 西ノ宮今在家 芝居	廿四孝	三ノ口(弘)。 ※「夏げしきみどりの見台」の内。		
一八四四	天保15	4	京 宮川町芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序(むめ、曾根、秀、賀)、松原之たん(口桐、おく政の)、室町館之段(口蔦、中亀、切中)、諏訪明神之段(口綾、おく巴)、勝頼切腹之段(口志賀、中長登、切音羽)、桔梗ヶ原之段(口綾、次山登、おく実)、勤介住家之段(中むら、切巴)、化物屋舗之段(中・ワキ綾・ツレ政の)、御殿之たん(口美和、中田組、切山登)。 ※「御殿之たん・口」を豊竹播満太夫とする別番付がある。	たおやめ御前(徳十)、氏時(玉蔵)、影勝(国五郎)、浦上左衛門(文五郎)、信玄(虎造)、しづのかた(友八)、慈悲蔵(冠四)、齋藤道三(才治)、横ぞう(新吾)、謙信(冠四)、みのさく(辰之介)、勝頼(玉蔵)、ぬれ絹(徳十)、唐おり(虎造)、高坂弾正(才治)、越名弾正(金三)、おたね(辰蔵)、勤介ばゝ(一枝)、八重垣姫(辰蔵)。	
一八四四	天保15	5/5~	江戸 結城座	本朝廿四孝	四段目(口辰、切富)。	かけ勝(吉五郎)、関兵衛(六二)、けんしん(荒吉)、勝より(千助)、ぬれぎぬ(金助)、八重垣姫(千四)。	
△	一八四四	天保15	10/18	阿波 撫養林崎	(廿四孝)	三中(梶戸=松之助)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八四四	天保15	10/20	阿波 撫養林崎	(廿四孝)	(梶太=広作)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八四五	弘化2	2/1~	西横堀浜	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目マデ	大序(美尾、むめ、賀=猿之助)、松原ノ段(梶戸=庄次郎)、足利館の段(口蔦=源治、中志賀=広三郎、切津賀=辰造)、諏訪明神の段(口輝=松之助、次叶=伝四、奥梶=広作)、勝頼切腹の段(口政の=伝四、中むら=源吉、切咲=豊吉)、桔梗ヶ原のたん(口蔦=猿之助、次政の=伝四、おく志賀=広三郎)、勤助住家の段(中咲=豊吉、切梶=広作)、化物屋舗の段(叶、輝、幾世=松之助、卯之吉)、十種香の段(中梶戸=源治、切むら=源吉)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。		
一八四五	弘化2	4/2~	四ツ橋南へ入 浜	廿四孝	四(岬)。 ※「みどり浄るり番組」の内。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四五	弘化2	10	名古屋 若宮御社内	廿四孝	四ノ中(梅)。	
一八四六	弘化3	3/1~	甲府 亀屋座	本朝廿四孝 四段目	鎌信館の段(口志磨、切越)。 ※「三月十日より」とある書写番付もある。	花作関兵衛(国五郎)、長尾謙信(新一郎)、花作みの作(六二)、武田勝頼(六二)、こし元濡衣(六三郎)、長尾姫八重垣姫(伊三郎)。
一八四六	弘化3	4/10~	甲府 亀屋座	本朝廿四孝 四段目	鎌信館の段(口志磨、切越)。 ※前項興行の二の替り。	
一八四六	弘化3	5/9~	京 左女牛北側芝居	廿四孝	三ノ口(亀)。	
△	一八四七	弘化4	江戸 茅場町高松亭	(廿四孝)	三。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四八	弘化5	1 若太夫芝居	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目迄	大序(都、住戸)、義晴館の段(口勝、中千代、切島)、すわ明神の段(口桐、おく綱)、信玄館の段(中三根、切大登)、桔梗ヶ原の段(口伊達、おく大住)、勘介住家の段(中島、切綱)、村上やしきの段(口勝、巴枝事町)、鎌信館の段(三根、中大登、切大住=清八)。 ※角書「武田信玄ノ越後謙信」。 ※『浄瑠璃大系図』には「正月九日より」とある。	たをやめ御前(冠十郎)、氏時(猪造)、村上左衛門(玉造)、信玄(文三)、しづのかた(門十郎)、慈悲蔵(徳造)、八つはし(徳十)、斉藤道三(門蔵)、横ぞう(文三)、けん信(徳造)、みの作(新五郎)、勝頼(冠十郎)、板がき兵部(門十郎)、濡衣(冠三)、唐をり(冠三)、入江(徳十)、逃だん正(新五郎)、鎗だん正(猪造)、おたね(辰造)、勘介母(門蔵)、八重垣ひめ(辰造)。
	一八四八	嘉永1	3/3~ 名古屋 清寿院	本朝廿四孝	四段目(小浪=寛吾)。 ※子供浄瑠璃。	
△	一八四八	嘉永1	10月上旬 伊勢 古市	(廿四孝)	二ノ口(玉賀)。 ※子供浄るり。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
	一八四九	嘉永2	1/2~ 江戸 結城・薩摩座	本朝廿四孝 大序より 三段目迄	大序(平尾=清太郎)、義晴館の段(口久我、切豊=伝三)、百度石のたん(口初、ヲク朝=文駒)、信玄館の段(口平尾、切八十=富蔵)、桔梗が原のたん(久我=米太郎)、勘助住家の段(中豊、切和田=吉兵衛)。	
	一八四九	嘉永2	3 西横堀清水町 浜	本朝廿四孝 大序より 大切まで	大序(菊=朝造、津戸=団八、三千=吉六)、足利館のだん(口淀木=栄二郎、次田喜=団玉、切当久=仙八)、諏訪明神の段(口萩=由三郎、奥梶=燕三)、信玄館のだん(中梶さ=広八、切津島=重蔵)、桔梗が原のだん(田喜=燕二)、勘助住家のだん(中津島=重蔵、切梶=燕三)、謙信館のだん(中若=団平、切富司=清四)。	
△	一八四九	嘉永2	10前半 松山 松山城下五穀 神境内	(廿四孝)	三ノ切、四ツ目(掛け合)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五〇	嘉永3	1/3~	西横堀御池ばし	廿 四 孝	三中(今)。 ※「緑浄留里」の内。	
△ 一八五〇	嘉永3	2後半	伊予 銅山敷場役所	(廿 四 孝)	三口(稲=楠六)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八五〇	嘉永3	8/15~	文楽小 家	廿 四 孝	二の中(喜の=梅吉)。 ※「みどり浄瑠璃」の内。	
一八五〇	嘉永3	11	道頓堀竹田芝居	本朝廿四孝 大序より 三段目まで	大序(三木、森)、義晴やかたの段(口市、中 和国、切 中)、諏訪 明神ノ段(口市、中 菅、おく 田組)、信玄やかたの段(口 佐賀、切 湊=勝右衛門)、桔梗ヶ原の段(口 和国、次 富司、おく 喜代)、 勘輔住家段(口 中、切 越前大掾)。 ※人形役割の氏時・入江・濡きぬを吉田新五郎、高坂弾正・みのさくを 吉田玉造、勘介母・武田勝頼を吉田文三とする別番付がある。	たをやめ御前(大次郎)、氏時(市松)、村 上左衛門(文五郎)、武田信玄(文三)、賤 の方(大次郎)、直江山広ノ守・慈悲そう (玉造)、関兵へ・斎藤道三(文五郎)、横 蔵・山本勘介(文三)、長尾謙信(文五 郎)、みのさく(兵吉)、武田勝頼(喜十 郎)、板垣兵部(玉造)、濡きぬ(市松)、 唐をり(新五郎)、入江(市松)、高坂弾正 (兵吉)、越名弾正(玉造)、おたね(辰 造)、勘介母(喜十郎)。
一八五一	嘉永4	8/1~	清水町浜	廿 四 孝	三之中(喜久=団助)。	
一八五一	嘉永4	11	塚 [ ] 芝居	廿 四 孝 四だん目	御てんのだん(小浪)。 ※「一 狐ひめノ一 くも介ノ一 やつこノ一 すわ明神ノ一 白ひやうし ノ此所大道具にて人形出つかひ早かわりにて吉田文三相勤申候」(番 付)。 ※「大あやつり子供浄るり」の内。	たをやめ御前(政吉)、かげかつ(冠十 郎)、竹田しん玄(友造)、どうさん(冠十 郎)、山本勘介(大次郎)、けんしん(文五 郎)、竹田かつより(寅造)、ぬれぎぬ(大 次郎)、かん作母(寅造)、八重垣姫(三 吾)。
一八五二	嘉永5	1	清水町浜小 家	廿 四 孝	二ノ口(当名)、三ノ口(種)。 ※素浄瑠璃。	
一八五二	嘉永5	2以後 7以前	京 寺町寅やくし カ	廿 四 孝	三ノ中(竹久米)。 ※「かげゑ」浄瑠璃。	
一八五二	嘉永5	4/16~	清水町浜	廿 四 孝	三ノ口(咲美=重太郎)。 ※「みどり浄瑠璃」の内。	
一八五二	嘉永5	7/15~	新築地清水町 浜小 家	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	初段(大序 咲美、緑、口 塚、中 田喜、切 当久)、二段目(口 梶 さ、次 三国、奥 染、中 久、切 咲)、三段目(口 田喜、奥 むら、中 当久、切 染=仙太郎事 仙糸)、四段目(口 三国、次 咲、切 む ら)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。	
一八五二	嘉永5	8/16~	京 寺町道場南新 小 屋	廿 四 孝	三ノ口(登勢)。	
一八五二	嘉永5	9/15~	法 善 寺	廿 四 孝	百度(大房=竹松)。	
△ 一八五二	嘉永5	11/1	法 善 寺	(廿 四 孝)	二(大房)、四(津戸)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△ 一八五二	嘉永5	11/11	摂州 魚崎	(廿四孝)	※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五四	嘉永7	1	西横ばり御池 ばし東づめ	本朝廿四孝	四だん目(梶虎、伊豆)。	
一八五四	嘉永7	8	伊勢 勢州市芝居	本朝廿四孝	四段目(口島戸、切伊豆)。	斎藤道三(松朝)、長尾謙信(朝右衛門)、 武田勝頼(新三)、ぬれ絹(勢造)、八重垣 姫(三吾)。
一八五四	嘉永7	9	稻荷社内東小 家	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	初段(大序 咲左=豊右衛門、権六、友=平三、延吉、口 咲美=権八、 中 津=庄太郎、切 八十=鶴太郎)、二段目(口 咲美=弥市、次 二見 =豊四、おく 染=仙糸、口 津=咲造、中 磯=歌助、切 咲=豊吉、越 =米助)、三段目(口 梶虎=広三郎、次 磯=歌助、おく 八十=鶴太 郎、中 喜代=豊造、切 染=仙糸)、四段目(中 磯=歌助、次 喜代= 豊造、切 三光斎=権右衛門・ツ琴(ママ) 鶴太郎)。 ※角書「武田信玄/長尾謙信」。	
一八五五	安政2	8/13~	京 四条北側芝居	廿四孝	四(巴未=庄吉)。	
一八五五	安政2	9/9~	京 寺町道場境内 新席	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序(杣=駒吉)、義晴館之段(口 蔦=伝造、山登=魯助)、諏訪明 神之段(房=伝造)、信玄館の段(中 蔦=安次郎、切 寿=為造)、桔 梗ヶ原の段(口 杣=駒吉、奥 房=伝造)、勘助住家の段(中 浜=吉 之助、切 山城掾=広左衛門)、化物屋敷の段(小津賀=為造)、十種 香の段(口 房=伝造、切 山登=庄二郎)。 ※「かけ糸」浄瑠璃。	
一八五六	安政3	11	堺 新地北芝居	廿四孝	四段目(錦=当吉)。	けん信(徳三郎)、勝より(文七)、ぬれ衣 (兼枝)、八十垣姫(兼枝)。
一八五六	安政3	12	兵庫 兵庫定芝居	本朝廿四孝 大序より 三段目迄	大序(辰、小松)、室町御殿のだん(口 曾根、中 二見、切 多満)、 下すは明神のだん(口 小松、おく 津)、信玄屋かたのだん(口 鳴 瀬、切 弥)、桔梗がはらの段(口 曾根、おく 富司)、山本住家の段 (中 二見、多満、切 染)。	たをやめ御前(辰助)、氏時(小光)、かげ 勝(才蔵)、村上(才蔵)、しんげん(新五 郎)、しづの方(筆三郎)、じひ蔵(玉 蔵)、八つはし(筆三郎)、井上新左衛門 (文治)、道三(清七)、横蔵(新五郎)、 けんしん(文次郎)、みの作(徳十)、勝よ り(才三郎)、板がき(文治)、ぬれきぬ (竹吉)、からをり(辰助)、入江(竹 吉)、にげたん正(文治)、やりだん正(才 蔵)、女房おたね(光蔵)、勘介はゞ(徳 十)。
一八五七	安政4	9/24~	京 四条寺町道場 北新席	廿四孝	四(久我)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五七	安政4	10	横堀周防町浜 小家	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目まで	大序(浪子、磨津、浪の)、序切(口妻、中千歳、切塚)、二段目(口伊磨、おく秀、中緑、切錦)、三段目(口稲、おく泉、中錦、切筑前)、四段目(口伊磨、次秀、中い、切富、跡浜)。 ※角書「武田信玄／甲斐謙信」。	
一八五七	安政4	11上旬	名古屋 若宮	本朝廿四孝 四段目	狐火の段(津=弥七・ツレ 小兵・琴直吉)。	
一八五九	安政6	1	法善寺丑若小 屋	本朝廿四孝	四だん目(口小巴=小作、次文字=吉吾、勝より一筑前・ぬれきぬ一 生駒・八重垣ひめ一山登=吉兵衛・琴才吉)。	
一八五九	安政6	1	京 四条南側大芝 居	廿四孝	三段目(政の=燕治郎)。	
一八五九	安政6	7/29~	稲荷社内東芝 居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 大広間の段(和、岩戸、勝見、千鳥)、誓願寺のだん(音賀)、 足利館のだん(中百合、次喜志、おく当久)、諏訪明神のだん(口 和国、おく氏)、勝頼切腹の段(中佐賀、切咲)、桔梗が原のだん (口音賀、おく多満)、勘介住家のだん(中むら、切染)、謙信館 のだん(中実、次当久、切春)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前(小才)、北条氏時(才三 郎)、景勝(金花)、村上左右衛門(種 吉)、武田信玄(文三)、しづの方(文 蝶)、慈悲蔵(清七)、八つ橋(新五郎)、 関兵衛・斎藤道三(文三)、横蔵(玉造)、 長尾謙信(清七)、美濃作(玉造)、武田勝 頼(才蔵)、板垣兵衛(金花)、こし元濡衣 (竹吉)、唐織(兵花)、入江(小才)、高 坂弾正(清七)、越名弾正(玉造)、お種 (新五郎)、勘介母(兵吉)、八重垣姫(兵 吉)。
一八六〇	安政7	1/2~	京 寺町道場北小 家	本朝廿四孝 四段目	狐火六段乱(カケ合 山城掾・宮戸・浜・長柄・巴代・阿蘇・大江=江 戸上り 弥七・ツレ 亀助・兵吉・庄吉・伝造・弥吉・弥市・琴弥 造)。	
一八六〇	安政7	2/1~	法善寺境内	本朝廿四孝 大序より 四だん目迄	大序(栄)、花見之段(梶の)、足利館の段(口梶木、切百合、 浪)、諏訪明神の段(口浪子、次品、奥岩美)、勝頼切腹の段(口 加賀、切二見)、桔梗原の段(口百合、奥浪)、勘助住家のだん (中錦、切梶)、鉄炮渡しのだん(岩美=団九郎、謙信一梶・勝頼一 岩美・小文治一梶木・八重垣姫一錦・ぬれ衣一二見=叶・ツレ 六三 郎・琴鶴助)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	
一八六二	文久2	3	座摩裏門	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	室町御所の段(口伊摩、中菊、奥艶)、更科のだん(旭、小町)、 義晴館のだん(口曾我、中吾妻、切綱登、町)、諏訪明神の段(口 小町、奥綱登)、信玄館のだん(口氏戸、中浪、切鰻)、桔梗ヶ原 のだん(口吾妻、奥常盤)、勘助住家の段(中鰻、切染)、鎌信御 殿の段(口氏戸、中伊達、切春)。 ※語り「雪の更科濃路に山本勘介が六とう三略の大義を定る／越後の出 城諏訪湖ではれ軍勝部はごかくと長尾景勝」。 ※「更科のだん」豊竹旭太夫を竹本幾世太夫とする別番付がある。	たおやめ御前(冠三郎)、氏時(友造)、景 かつ(金花)、村上(源十郎)、信玄(松 楽)、慈悲そう(兵吉)、道三(松楽)、横 そう(門蔵)、けん信(門蔵)、みの作(兵 吉)、めくら勝頼(冠十郎)、板がき兵部 (門蔵)、ぬれ絹(兵花)、唐折(冠十 郎)、入江(鹿造)、高坂だん正(松楽)、 やりだん正(兵吉)、おたね(兵花)、勘介 母(辰造)、八重がき姫(辰造)。



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六二	文久2	10	堺 大 寺	本 朝 廿 四 孝 大序より 四段目まで	大序(宇佐、幾せ、田美)、義晴館の段(口三好、中鶴尾、切其)、力石の段(口尾上、おく浪)、信玄館の段(中文、切内匠)、桔梗か原の段(口尾木、おく二見)、勘助住家の段(中浪、切染)、謙信館の段(中鶴尾、切若)。 ※語り「雪の更科信濃路二六韜三略の奥義を定る山本勘助／越後の出城諏訪の湖で晴軍勝負は五格と長尾景勝」。	たをやめ(新造)、宇治時(源十郎)、景勝(金花)、村上三右衛門(兵三郎)、信玄(兵三郎)、しつのかた(小金)、慈悲蔵(勇造)、道三(勇造)、横蔵(兵吉)、謙信(与市)、簗作(与市)、勝より(小兵吉)、板かき兵部(金花)、ぬれきぬ(小兵)、唐をり(小兵)、入江(辰之助)、高坂弾正(与市)、越名弾正(源十郎)、おたね(辰造)、横蔵はゝ(与市)、八重かき姫(辰造)。
一八六三	文久3	2	京 四条南側大芝 居	本 朝 廿 四 孝 大序より 四段目迄	大序(辰、園、室)、室町館之段(口直、次勝、中淀、切山城掾)、諏訪明神ノ段(口谷、ヲク小賀)、勝頼切腹ノ段(口勝、切宮戸)、桔梗ヶ原の段(口直、ヲク阿蘇)、勘介住家ノ段(中宮戸、切大住)、化ものやしきノ段(小津賀)、十種香の段(口曾我、中淀、切春)。	たおやめ御前(小玉)、氏時(新造)、景勝(辰十郎)、村下左衛門(冠三郎改友造)、武田信玄(門十郎)、しづのかた(玉十郎)、慈悲蔵(門蔵)、八つはし(兵花改歌録)、斎藤道三(門十郎)、横ぞう(文三)、けん信(門蔵)、みの作(文三)、勝より(小玉)、板垣兵部(冠十郎)、ぬれ絹(徳三郎)、からおり(徳三郎)、入井(辰十郎)、高坂だん正(文三)、越名弾正(門蔵)、おたね(兵花改歌録)、勘介はゝ(門十郎)、八重垣姫(兵花改歌録)。
一八六四	文久4	1/29~	京 和泉式部北向	廿 四 孝	三ノ中(津賀子=市松)。 ※素浄瑠璃。	
一八六四	元治1	3頃	広島カ	廿 四 孝	きつねひ(春=吉兵衛)。	
一八六四	元治1	9/6~	天満戎門	本 朝 廿 四 孝 大序より 四段目迄	大序(河内、岡登)、義晴館の段(伊東、尾上)、百度参りの段(富田羽)、力石の段(品)、勝頼切腹の段(谷、佐渡)、桔梗が原の段(尾上)、勘介住家の段(中鳴門、切津賀)、鎌信やかたの段(口谷、中鶴尾、切伊達=燕四)。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	
一八六四	元治1	9	御霊うら門	本 朝 廿 四 孝 四段目	鎌信館の段(中富、切若)。	斎藤道三(源十郎)、けん信(文三)、勝より(小兵吉)、ぬれきぬ(小兵)、八重かき姫(兵吉)。
一八六五	元治2	3/23~	京 四条道場北ノ 小家	廿 四 孝	三段目(山城掾=弥七)。	
△	一八六五	慶応1	名古屋 清寿院本小屋	(本朝廿四孝)	※『小寺玉臈記録』に拠る。	
一八六五	慶応1	6/20~	京 四条道場北ノ 小家	廿 四 孝	四段目(伊達=吉兵)。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六五	慶応1	11	天満戎門	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序(弥千代)、義晴館のたん(口い寿、中直、切千鳥)、百度参ノ段(い寿)、カ石ノだん(品)、勝頼切腹の段(口春栄、切富司)、桔梗か原ノ段(直、千鳥)、勘助住家ノ段(中鳴戸、切若)、鎌信館のだん(口品、中富司、切氏)。	たをやめ御前(徳三郎)、氏とき(奈良吉)、景かつ(辰之助)、村上三左衛門(奈良吉)、武田信玄(米三郎)、しづノかた(市造)、慈悲蔵(小兵吉)、斎藤道三(源十郎)、横蔵(松江)、鎌信(松江)、みの作(小兵吉)、勝より(辰之助)、板かき兵部(歌録)、ぬれ絹(徳三郎)、からをり(徳三郎)、入江(米三郎)、高坂弾正(歌録)、幸綱大正(源十郎)、おたね(松江)、横蔵母(源十郎)、八重かき姫(辰造)。
一八六六	慶応2	3/18~	稲荷社内東芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 大広間の段(咲代、直、津溜、三喜、左馬)、誓願寺の段(口理久、奥和)、足利館のだん(中浪登、次田組、切多満)、諏訪明神の段(口常、奥実)、勝頼切腹之だん(中中、切湊)、桔梗ヶ原の段(口浪登、奥長枝)、勘助住家の段(中弥、切染=叶)、山狩のだん(口和、奥田組、吉田玉造/此所出遣イ早替りニて相勤申候)、鎌信館の段(中中、次実、切春)。 ※角書「武田信玄/長尾鎌信」。 ※「鎌信館の段」の後に「奥御殿の段 竹本弥太夫」を加えた別番付がある。	たをやめ御前(小玉)、北条氏時(玉之助)、長尾景勝(新五郎)、村上左衛門(玉造)、武田信玄(松江)、賤のかた(徳三郎)、直江山城之介・弟慈悲蔵(玉三郎)、こしもと八つ橋(小玉)、花守関兵衛・斎藤道三(松江)、兄横蔵・山本勘介(玉造)、長尾鎌信(才治)、花造り箕作(玉三郎)、武田勝頼(玉三郎)、板垣兵へ(小玉)、ぬれ絹(玉蝶)、妻唐織(玉蝶)、妻入江(徳三郎)、高坂大膳(新五郎)、越名大膳(玉之助)、女房おたね(松江)、勘介母(喜十郎)、八重垣姫(玉造)。
一八六六	慶応2	6/18~	京 四条北側大芝居	廿四孝	勘介住家段(染=叶)、十種香ノ段(春=吉兵衛・琴常吉)。	
一八六七	慶応3	3/27~	京 四条道場北ノ 小家	本朝廿四孝 大序ヨリ 四段目マデ	大序(登茂=芳松)、室町やかたのだん(此母=小兵、政の=燕勝、寿=団六)、諏訪明神ノ段(此母=芳松、紋=吉兵)、勝頼切腹ノ段(春戸=常吉、生駒=歌女造事 時造)、桔梗ヶ原の段(蒿=小兵、むら=喜代七)、勘介住家ノ段(山城掾=庄次郎、対馬=吉弥)、化物やしきノ段(寿=団六)、十種香のだん(春戸=吉兵、紋=時造、三光斎=豊吉・ツレ 吉兵・小熊・琴常吉)。 ※角書「武田信玄/長尾鎌信」。	
一八六七	慶応3	3	名古屋 清 寿 院	廿四孝	捨子の段(小土佐=口吉)、下駄のだん(組枝=団寿)、勘助物語のだん(土佐=庄兵衛)、狐火のだん(掛ヶ合=庄兵衛・団寿、豊松清十郎人形出つかいニて相勤申候)。	
一八六七	慶応3	5上旬	名古屋 清寿院御境内	廿四孝	四段目狐火段迄(かけ合 土佐・若、豊松清十郎/出つかいニ而相勤申候)。	たおやめ(宗吉)、斎藤道さん(藤助)、関兵衛(才九)、鎌信(才九)、かつより(文七事 清七)、濡衣(清治)、八重垣姫(清十郎)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六九	明治2	9	京都 和泉式部芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序(綱尾、友、鉄尾)、室町やかたの段(みどり事 橋、和石軒)、 諏訪ノ森ノ段(鹿子)、朝かほのたん(浪)、勝頼切腹ノ段(一日替り さがみノ大内)、馬草苺之段(橋)、桔梗ヶ原ノ段(一日替り 大内ノ さがみ)、景勝下駄ノ段(和石軒)、勘介住家ノ段(戸佐)、鉄砲渡し ノ段(鹿子)、十種香ノ段(勢見)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。	たおやめ御前(岸次郎)、北條氏時(佐 七)、かげ勝(喜代吉)、村上左衛門(林 吉)、武田信玄(紋兵衛)、慈悲蔵(岸之 助)、関兵衛(嶋五郎)、山本勘介(松 蔵)、けんしん(春吉)、みのさく・かつよ り(金三)、板垣兵部(理吉)、ぬれぎぬ (喜市)、からおり(喜市)、入江(久太 郎)、高坂だん正(由太郎)、越名弾正(し げ吉)、おたね(筆五郎)、かん介母(幾右 兵衛)、八重垣姫(筆五郎)。
一八六九	明治2	11	竹田芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	室町御所の段(住江、雛)、更科の段(越摩)、義晴館の段(口三 保、中三国、切文字)、諏訪明神の段(口富佐、奥国)、信玄館の 段(中真喜、切生駒)、桔梗ヶ原の段(口駒尾、三国、奥対馬)、 勘助住家段(中鞞、切越)、謙信御殿の段(中国、切大住)。	たをやめ御前(千助)、氏時(千助)、景か つ(千次郎)、村上左工門(光造)、武田信 玄(門造)、慈悲蔵(小兵吉)、道三(光 造)、横蔵・山本勘介(兵吉)、謙信(千次 郎)、みの作・勝より(小兵吉)、ぬれきぬ (文三)、唐おり(小辰)、入江(千柳)、 高坂弾正(東十郎)、越名弾正(光造)、お たね(門造)、勘介母(東十郎)、八重かき 姫(兵吉)。
一八六九	明治2	12/10~	京都 北側大芝居	廿四孝	十種香(越路)。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記述が見当たらないが、出演者 の改名等の情報から、ここでは仮に明治2年のこととした。	
一八七〇	明治3	5	御霊芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	室町御所のだん(入、瓢子、巴儀、隅江)、義晴館の段(口隅江、中 額、切嶋)、諏訪明神の段(口巴儀、中鞞見、奥三国)、信玄館の 段(口咲尾、切鞞)、桔梗ヶ原の段(口梅、中越戸、奥理)、勘 助住家の段(次嶋、中戸佐、切綱)、謙信御殿の段(口額、切 久、此所出つかひ早かはりにて相つとめ申候 豊松清十郎)。 ※角書「武田信玄ノ越後謙信」。	景勝(新七)、村上(専右工門改 専十)、信 玄(新七)、賤のかた(金二)、慈悲蔵(歌 録)、道三(金四)、横蔵(金四)、勝より (歌録)、板かき兵部(新七)、濡きぬ(清 次郎)、からをり(東助)、入江(清次 郎)、高坂弾正(金旭)、越名弾正(金 四)、おたね(清十郎)、勘介母(専右工門 改 専十)、八重垣姫(清十郎)。
一八七〇	明治3	6	京都 四条道場芝居	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	室町御所ノ段(陸)、義晴やかたのたん(口小寿賀、中須廣、切井 勢)、諏訪明神ノ段(口蔦、奥寿)、信玄やかたノ段(口津、中佐 賀美、切長尾)、桔梗ヶ原ノだん(口越、奥紋)、勘介住家ノ段 (中浜、切山四郎)、十種香のたん(口寿、切駒=吉弥)。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。	たおやめ御ぜん(清次郎)、北条氏時(作 平)、長尾景勝(専十)、村上左衛門(金 四)、武田信玄(専十)、しつのかた(清 七)、慈悲蔵(歌録)、ハツはし(東助)、 斎藤道三・井上新左衛門(万治)、横蔵(金 四)、長尾謙信(新七)、みの作(歌録)、 板坂兵部(新七)、ぬれ衣(清次郎)、唐お り(専十)、入江(才三郎)、高坂弾正(東 助)、越名弾正(金四)、おたね(清十 郎)、勘介はゞ(新七)、八重垣姫(清十 郎)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七二	明治5	1/2~	京都 北側大芝居	廿 四 孝	三段目（山四郎＝弥七）。 ※素浄瑠璃。	
一八七二	明治5	3	松嶋千代崎町 芝居	本 朝 廿 四 孝	桔梗ヶ原の段（口 春戸、奥 浪）、勘助住家の段（中 実、切 春）、山狩のだん（口 町、奥 棍、此所出遣い早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、謙信館のだん（中 三根、次 中、切 越路）、奥御殿の段（むら）。 ※「三月廿四日ヨリ五月廿日マデ四十六日間」（『竹本撰津大掾』『野沢の面影』）、「三月十五日ヨリ」（『木谷蓬吟遺稿』）。	長尾景勝（光造）、村上左エ門（玉造）、直江山城守・慈悲蔵（玉治）、花守関平・斎藤道三（玉之助）、兄横蔵・山本勘介（玉造）、長尾謙信（清七）、武田勝頼（玉助）、濡衣（鹿造）、妻唐をり（鹿造）、妻入江（小玉）、高坂弾正（清七）、越名弾正（光造）、女房おたね（辰五郎）、勘介母（辰造）、八重垣姫（辰造）、狐八重垣姫（玉造）。
一八七三	明治6	2	堀江芝居跡新 席	廿 四 孝	（松鳳軒）。 ※素浄瑠璃。	
一八七三	明治6	5	堀 江 新 席	〔廿 四 孝 三段目 四段目〕	桔梗ヶ原の段（春戸＝新三郎）、景勝下駄の段（文字＝高麗造）、勘介住家の段（切 山四郎＝弥七）、狐火の段（松鳳軒＝広助）。 ※素浄瑠璃。	
一八七四	明治7	5/1~	京都 新京極町四条 上ル東亀の家 席	廿 四 孝	十種香之段（茂＝時造）。	
一八七四	明治7	11/21~ 12/4	名古屋 末 広 座	廿 四 孝	十種香ノ段（茂）。 ※浄瑠璃身振。 ※初日と千種楽は『勾欄類見聞』に拠る。	
一八七五	明治8	2	竹 田 芝 居	本 朝 廿 四 孝 大序より 四段目迄	大序（織栄、田尾、宮、田古、浜の）、誓願寺茶店のたん（嶋戸、越の）、義晴館の段（口 小浜、中 織尾、切 嶋）、諏訪明神の段（鞆 栄、額）、信玄館の段（口 織の、中 茂、切 文字）、茂さの／馬鹿平内のだん、桔梗ヶ原のだん（十三、春子、津）、勘介住家の段（中 呂、切 浜）、十種香の段（中 嶋、切 古鞆）、奥御殿の段（呂）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	とうやめ御せん（寛四）、北條氏時（栄造）、長尾景勝（門蔵）、村上左エ門之丞（光造）、武田信玄（門蔵）、しづの方（新三郎改 松江）、直江山城守・慈悲蔵（門蔵）、八つはし（辰太郎）、井上新左エ門・花守関兵へ・斎藤道三（東十郎）、勘介・横蔵（光造）、長尾謙信（寛四）、花造みの作（兵三）、武田影勝（新三郎改 松江）、板垣兵部（勢造）、ぬれ絹（辰太郎）、から織（辰太郎）、女房入江（新三郎改 松江）、高坂弾正（勢造）、鎗弾正（兵三）、勘介の母（喜十郎）、八重垣姫（辰造）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七五	明治8	3	京都 四条南側演劇	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序（仙、田古）、義晴館の段（口 浜の、中 織尾、切 嶋）、諏訪明神の段（靱栄、額）、信玄館の段（口 小浜、中 織の、切 文字）、茂佐の／馬鹿平笑之段、桔梗ヶ原ノ段（十三、春子）、勘介住家の段（中津、切 浜）、謙信館の段（中 嶋、切 古靱）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	とうやめ御前（寛四）、北条氏時（栄造）、長尾景勝（門蔵）、村上左衛門之丞（光造）、武田信玄（門蔵）、しづの方（松江）、慈非蔵（門蔵）、井上新左衛門・花守関兵衛・斎藤道三（東十郎）、横蔵（光造）、長尾謙信（寛四）、花造みの作（兵三）、武田頼勝（松江）、板垣兵部（勢造）、ぬれきぬ（辰太郎）、から織（辰太郎）、女房入江（松江）、高坂弾正（勢造）、鎗弾正（兵三）、女房お谷（東十郎）、勘介の母（喜十郎）、八重垣姫（辰造）。
一八七五	明治8	5	松嶋文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大広間のだん（越栄、氏栄、鳶、越代、宇佐、栄、袖、弥の）、誓願寺の段（田喜、越の）、足利館のだん（口 春馬、中 長子、次 須磨、切 三根）、諏訪明神の段（口 須磨、奥 実）、信玄館のだん（中 春栄、切 弥、住）、桔梗ヶ原のだん（口 南部、奥 組）、勘介住家の段（中 氏、切 重）、山狩のだん（三根、此所出遣ひ早替りにて御覧入申候 吉田玉造）、謙信館の段（中 組、次 中、切 越路）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※「五月十五日ヨリ卅二日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	手弱女御前（辰吉）、北条氏時（辰治）、長尾景勝（玉之助）、村上左工門義清（玉造）、武田晴信（辰治）、武田信玄（兵吉）、賤の方（兵吉）、直江山城守・弟慈悲蔵（玉治）、こしもと八ツはし（玉之助）、井上新左工門・花守関平・斎藤道三（玉治）、兄横蔵・山本勘介（玉造）、長尾謙信（小兵吉）、花造養作（玉助）、武田勝頼（小兵吉）、板垣兵部（玉之助）、こしもと濡衣（小玉）、妻唐織（小兵吉）、妻入江（小玉）、高坂弾正（玉之助）、越名弾正（玉助）、女房お種（玉之助）、勘介母（玉助）、八重垣ひめ（玉造）。
一八七六	明治9	1/1～	天満大工町芝居	廿 四 孝	四（三国）。桔梗ヶ原（広勝）。 ※「浄瑠璃緑りの鉢植」の内。	
一八七六	明治9	4	座摩裏門新席	廿 四 孝	四段目（茂＝勝鳳・ツレ 清治郎・琴 仙太郎）、奥庭の段（雛、大切出遣い早替りにて入御覧に候）。 ※浄瑠璃人形糸繰、東京下り・山本三の助一座。	
一八七六	明治9	5	元長州屋敷小家	本朝廿四孝 四段目	謙信館之段（田右、浜靱）。 ※浄瑠璃身振。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七六	明治9	12	大江ばし席	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 都御所の段（津矢、七重、桂、巴江）、義晴館の段（朝、栄、切 富司）、諏訪明神の段（静、若靱）、信玄館の段（中 阿蘇、次 六つ、切 津）、桔梗が原の段（司、富司）、勤助住家の段（中 津、切 靱）、謙信館の段（口 袖、中 六つ、切 若）。 ※角書「甲斐の信玄ノ越後の謙信」。	たをやめ御前（辰之助）、長尾景勝（兵三）、村上左衛門（笑吉）、武田信玄（辰治）、直江山城守・慈悲蔵（金四）、八つ橋（辰之助）、花造関兵へ（金四）、横蔵・山本勘介（才治）、長尾謙信（才治）、花造蓑作・武田勝頼（辰十郎）、武田勝頼（兵三）、濡衣（辰太郎）、女房唐織（国三郎）、女房唐織（鹿造）、女房入江（辰枝）、高坂弾正（辰十郎）、鎗弾正（小光）、女房おたね（辰太郎）、勘介母（兵吉）、八重垣姫（辰造）。
一八七七	明治10	2/13~	弁天座	廿四孝	三（曾我）。 ※「過し日のノ其年月もめぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	1/1~	京都 道場芝居北隣 松楽軒席	廿四孝	百度参り（綾の=福松）。 ※素浄瑠璃。	
一八七九	明治12	3	松嶋文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 大広間の段（梶代、延寿、七五三、葉、の、弥津）、誓願寺の段（曾我）、足利義晴館の段（中 靱登、次 和、切 実）、諏訪明神の段（口 袖、奥 氏）、武田信玄館の段（中 田喜、切 津、久）、桔梗ヶ原の段（口 喜代、奥 弥）、勤助住家の段（中 津、切 梶改 染=*叶）、化物屋敷の段（三根、吉田玉造ノ此所出つかひ早替りにて御覧に入申候）、上杉謙信館の段（中 多門、次 実、切 住=勝七）。 ※角書「武田信玄ノ上杉謙信」。 ※「三月五日ヨリ四月廿七日マデ五十四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	たをやめ御前（小玉）、北条氏時（玉太郎）、長尾景勝（辰吉）、村上義清（玉太郎）、村上左工門（玉造）、武田信玄（紋十郎）、賤の方（玉亀）、直江山城守・慈悲蔵（玉助）、井上新左衛門・花森関兵衛・斎藤道三（玉治）、兄横蔵・山本勘介（玉造）、上杉謙信（小兵吉）、花造蓑作（玉助）、武田勝頼（小兵吉）、板垣兵部（辰吉）、こしもと濡衣（鹿造）、妻唐織（鹿造）、妻入江（小玉）、高坂弾正（玉治）、越名弾正（玉助）、おたね（紋十郎）、勤助母（東十郎）、八重垣ひめ（紋十郎）、狐八重垣姫（玉造）。
一八八〇	明治13	10/1~	京都 せいぐわんじ 本堂前定席 夷谷座	本朝廿四孝 大序より 大切迄	桔梗か原之段（操=玉助）、下駄の段（寿广=源次）、横蔵住家の段（生熊=玉助）、謙信館の段（寿广=源次）、十種香ノ段（君=時造）。 ※浄瑠璃身振。	
一八八二	明治15	9（下旬） ~	名古屋 真本座	本朝廿四孝	狐火の段（惣掛合）。 ※浄瑠璃身振。 ※初日の推定は「愛知新聞」（9月21日）に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八三	明治16	9/1~	京都 四条北側演劇	本朝廿四孝 三段目 四段目	桔梗ヶ原のだん（口 常子、奥 むら）、勘助住家ノ段（中 組、切 染）、鎌信館のだん（中 袖、次 時、切 越路）。	たをやめ御前（幸三郎）、長尾景勝（紋三郎）、直江山城守・弟慈悲蔵（玉治）、花守関兵衛（玉治）、兄横蔵（玉助）、山本勘介（玉造）、上杉鎌信（兵三）、花造養作・武田勝頼（玉七）、こしもと濡衣（紋之助）、妻唐織（玉五郎）、妻入江（玉亀）、高坂弾正（紋三郎）、越名弾正（亀松）、おたね（紋十郎）、勘介母（鹿造）、八重垣ひめ（紋十郎）。
一八八三	明治16	9	堀江芝居	本朝廿四孝	大序（豊）、百度参りの段（小浜）、信玄館ノ段（口 吉の、切 出羽）、桔梗ヶ原の段（律）、勘介住家ノ段（口 出羽、切 小浜、此所出遣ひにて御覧に入申候）、十種香の段（口 豊、切 吉の、此所上埜勝之助出遣ひ早替りにて奉御覧に入候）、奥御殿の段（律、此所大道具仕かけ合にて御覧二入申候）。 ※角書「武田信玄ノ植杉謙信」。	たをやめ御前（広七）、北条氏時（音二郎）、長尾景勝（茂三郎）、村上右門（政五郎）、武田信玄（新左衛門）、慈悲蔵・直江山城守（和和）、花守関兵衛・斎藤道三（玉之助）、兄横蔵後二山本勘介（新左衛門）、長尾謙信（重太郎）、花作養作（卯三郎）、武田勝頼（慶太郎）、板垣兵部（政五郎）、濡衣（広七）、唐織（広七）、入江（滝造）、高坂弾正（慶太郎）、越名弾正（重太郎）、女房おたね（滝造）、母越路（勝之助）、八重垣姫（勝之助）。
一八八四	明治17	6	松嶋文楽座	本朝廿四孝	諏訪明神の段（岡）、桔梗ヶ原のだん（口 谷、奥 路）、山本勘助住家のだん（中 むら、切 弥）、鎌信館のだん（中 春栄、次 長登、切 越路）、奥御殿の段（切 染）。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。 ※「六月三日ヨリ六月廿五日マデ廿三日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	たをやめ御前（小友）、長尾三郎景勝（玉七）、直江山城守・弟慈悲蔵（亀松）、花守関兵衛（玉治）、横蔵・山本勘介（玉助）、長尾謙信（紋三郎）、花造養作・武田勝頼（玉助）、ぬれ絹（鹿造）、妻唐織（鹿造）、妻入江（紋之助）、高坂弾正（玉助）、保科弾正（玉造）、女房おたね（紋十郎）、勘助母（玉造）、八重垣ひめ（紋十郎）。
一八八五	明治18	1/1~	彦六座	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序 西八条のだん（組尾、住香、操、勇、富士子、鹿、源氏、住保、組路、朝尾、隅勢、登勢）、誓願寺のだん（鷹、組子）、義晴館のだん（中 信、次 生嶋、切 町=* 吉三郎）、百度参りの段（芳）、力石のだん（若鞆=* 友松）、信玄館のだん（中 山登、切 千駒、雛）、桔梗ヶ原のだん（口 隅栄=* 友松、奥 富司）、勘助住家の段（中 雛、切 組）、謙信館のだん（中 歳、次 田喜、切 大隅）。 ※角書「武田信玄ノ長尾謙信」。 ※「一月一日ヨリ廿四日マデ廿四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	たをやめ御前（喜市）、北條氏時（伝吉）、影勝（兵吉）、村上左衛門（才治）、武田信玄（栄造）、志づのかた（小三）、直江山城守・慈悲蔵（亀松）、八つはし（玉松）、井上新左衛門・花売関兵衛・斎藤道三（三吾）、兄横蔵・山本勘介（辰五郎）、長尾謙信（兵三）、花売養作・武田勝頼（玉松）、勝頼（栄寿）、板垣兵部（友造）、ぬれ絹（亀松）、女房唐織（松江）、女房入江（喜市）、高坂弾正（栄造）、越名弾正（兵三）、女房おたね（三吾）、勘介母（才治）、八重垣ひめ（辰五郎）。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八五	明治18	11/21~30	東京 猿若町一丁目	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序（陸路、尾上=叶七、広橋）、足利館の段（中 競=叶七、切 路=玉助）、百度石の段（春栄=友松）、信玄館の段（中 競=福太郎、次谷=鶴太郎、切 呂=広助）、桔梗ヶ原の段（中 多門=吉八、奥 南部=玉助）、勘助住家の段（中 路=鶴太郎、切 津=才治）、謙信館の段（中 多門=吉八、次 田喜=友松、切 住=勝七、此処出遣ひ宙のり早替りにて御覧に入候）。 ※角書「甲斐の信玄／越後の謙信」。 ※三味線役割は『中西仁智雄コレクション 浄瑠璃番付写真集』に、千種楽は演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	景勝（玉亀）、村上三右衛門（玉松）、信玄（玉亀）、慈悲造・直江山しろ（玉七）、道三・井上新右衛門・関兵衛（玉五郎）、横蔵・山本勘助（玉助）、謙信（玉治）、勝頼（玉助）、板垣兵部（幸三郎）、ぬれ衣（鹿造）、からおり（紋之助）、入江（玉五郎）、高坂弾正（玉枝）、保科弾正（辰枝）、女房おたね（玉治）、勘助母（鹿造）、八重垣姫（紋十郎）、狐八重垣姫（玉造）。
一八八六	明治19	5/8~	彦 六 座	本朝廿四孝 四段目	狐火のだん（中 袖、次 氏、切 柳適、此所出つかひにて御覧に入申候）。	長尾景勝（卯三郎）、花造関兵衛（才治）、長尾謙信（兵吉）、武田勝頼（玉松）、こしもと濡衣（門造）、八重垣ひめ（亀松）。
一八八六	明治19	11/1~	彦 六 座	本朝廿四孝 四段目	狐火のだん（中 袖、次 氏、切 柳適、此所出つかひにて御覧に入申候）。 ※「（前略）先般替り狂言弥陀本願三信記（注・彦六座5月興行の建狂言）を御見聞に相備へ候所殊の外御意に相叶ひ初日より大入大繁昌仕り有之候所ふ斗流行病のために去る五月廿五日諸興行共に停止仰付られ永らく休業仕居候所今般御解停候間当月より開場仕候（後略）」（番付の口上）。 ※「返り初日十一月一日ヨリ廿三日マデ廿三日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	長尾景勝（卯三郎）、花造関兵衛（才治）、長尾謙信（兵吉）、武田勝頼（玉松）、こしもと濡衣（門造）、八重垣ひめ（亀松）。
一八八七	明治20	2	御霊文楽座	本朝廿四孝 三段目より 大切まで	三郎景勝雪中駒下駄のだん（織）、山本勘助物語のだん（長尾）、景勝上使の段（春栄）、鉄砲渡しの段（呂）、十種香のだん（津、此所人形出つかひ早替りにて御覧に入申候 桐竹紋十郎）、奥御殿のだん（谷）、和田別荘化粧のだん（織、吉田玉造／此所人形出つかひ早替りにて御覧に入候）、神徳繁栄の段（梶栄）。 ※角書「武田信玄／越後謙信」。 ※「二月四日ヨリ三月五日マデ廿八日間」「二月十七日文楽翁歿ノ爲三日間休、廿日返り初日」（『義太夫年表 明治篇』）。	景勝（玉松）、村上左衛門（玉造）、慈悲蔵（玉七）、こしもと八ツ橋（玉造）、関兵衛・斉藤道三（玉治）、兄横蔵（玉造）、長尾謙信（玉之助）、武田勝頼（玉七）、濡衣（紋之助）、唐をり（玉亀）、おたね（紋十郎）、勘助はゞ（玉治）、八重垣姫（紋十郎）。
△	一八八八	明治21	名古屋 末 広 座	（本朝廿四孝）	狐火の段（越路=吉兵衛・ツレ 豊吉・琴 安治郎）。 ※越路太夫・吉兵衛らによる素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八八	明治21	名古屋 千 歳 座	（廿 四 孝）	二段目（長尾=勝右衛門）。 十種香場より狐火迄（津=広助・ツレ 鶴太郎・小庄）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八八	明治21	11	彦六座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 西八条のだん（七々子、朝香、八重加、組登、朝の、七五三）、 誓願寺のだん（弥鳳、鹿、越磨）、足利義晴館のだん（中宝、次袖、 切若）、百度参りの段（八重）、力石のだん（氏）、斉藤道三閑居の だん（中芳、切越）、武田信玄館のだん（中山登、次田喜、切新 靱）、桔梗が原のだん（口一日替り 住次／七五三／生嶋、此所出つか ひにて御覧に入申候）、勘助住家の段（中新靱、切組、此所出つかひ にて御覧に入申候）、長尾謙信館のだん（中真砂、次此、切柳 適）、奥御殿のだん（山登）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。	たをやめ御前（東十郎）、北条氏時（亀 登）、足利使者実は長尾三郎景勝（兵吉）、 村上左工門（兵三）、武田信玄（才治）、賤 の方（鹿造）、直江山城守・弟慈悲蔵（亀 松）、奥使い八つ橋（三吾）、井上新左衛門 実は斉藤道三・花造り関兵へ（才治）、兄横 蔵・山本勘介（辰五郎）、長尾入道謙信（光 造）、車遣い蓑作実は武田勝頼（玉松）、武 田勝頼（亀鶴）、大垣兵部（門造）、こしも と濡衣（三吾）、妻唐織（玉米）、女房入江 （門造）、高坂弾正（玉枝）、越名弾正（光 造）、女房お種（三吾）、山本老母（鹿 造）、八重垣ひめ（亀松）。
△	一八八九	明治22	1/18	京都 北の劇場	（本朝廿四孝） 十種香の段（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	8/9	京都 北側演劇場	（本朝二十四 孝） 四ツ目（越路＝広助）。	
			8/14		（二十四孝） （高尾）。	
			8/16		三段目（巴勢）。	
			8/17		四ツ目（高尾）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	12/20	名古屋 千歳座	（廿四孝） 狐火之段（越路＝広助・ツレ 鶴太郎）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九〇	明治23	2	御霊文楽座	本朝廿四孝 諏訪明神のだん（口高尾、奥綾）、景勝上使のだん（緑り）、鉄炮渡 しのだん（長尾）、十種香のだん（切越路、此所出遣い早替りにて御 覧に入申候 桐竹紋十郎）、殿中のだん（調）、怪物やしきのだん （氏、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉助）。 ※「二月十五日ヨリ三月九日マデ」（『義太夫年表 明治篇』）。	手弱御前（玉五郎）、長尾三郎景勝（金之 助）、村上左工門（玉助）、庵守関兵衛・斎 藤道三（玉造）、横蔵・山本勘介（玉朝）、 上杉謙信（玉朝）、武田勝頼（玉助）、こし もと濡衣（玉五郎）、八重垣ひめ（紋十 郎）。
△	一八九〇	明治23	2/21	名古屋 千歳座	（廿四孝） （朝代）。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	3/20	京都 南劇場	（二十四孝） 四段目（伊達＝助三郎・[ ]・松三郎）。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	4/22	名古屋 千歳座	（二十四孝） 四段目（伊達）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九一	明治24	1/2~	彦六座	本朝廿四孝 大序より 四段目大詰迄	大序 西八條のだん（組尾、阿蘇、朝路、朝の）、義晴館のだん（中鹿、嶋、切山登）、百度参りの段（菅）、力石のだん（生嶋）、信玄館のだん（中春子、切源）、桔梗が原のだん（口朝路、奥此）、勘助住家の段（中七五三=*友松、切越=*吉三郎、新靱、此所出つかひにて御覧に入申候）、化物やしきの段（芳、桐竹亀松/此所中釣出つかひ早替りにて御覧に入申候）、謙信館のだん（中菅、次田喜=*友松、切大隅=団平、此所惣出つかひにて御覧に入申候）、奥庭のだん（阿蘇）。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。	たをやめ御前（門造）、北条氏時（鶴松）、長尾三郎景勝（亀松）、村上左工門（宗十郎）、武田信玄（亀当）、賤のかた（紋之助）、弟慈悲蔵后二直江山城守（玉松）、奥女中八ツ橋后二女房お種（鹿造）、斎藤道三（玉松）、兄横蔵后二山本勘介（光造）、長尾入道謙信（宗十郎）、花造り蓑作・武田勝頼（玉米）、勝頼（光栄）、板垣兵部（門造）、こしもと濡衣（紋之助）、妻唐織（巳之助）、女房入江（光栄）、高坂弾正（門造）、越名弾正（玉米）、山本老母（門造）、八重垣ひめ（亀松）。
△	一八九一	明治24	1/13	名古屋末広座	（廿四孝） 狐火まで（越路=広助・ツレ小庄）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/16 8/20	京都北座	（本朝二十四孝） 四段目狐火迄（越路=広助・ツレ小庄）。 勘助住家（調）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九二	明治25	2	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 大切まで 大序 室町御前大広間のだん（角、呂和、富栄、綾免、津満、相寿、谷路）、誓願寺門前のだん（呂瀬、尾上、寿）、足利館のだん（口鶴尾、中品尾、次調、切むら）、諏訪明神のだん（口さの、奥谷）、武田信玄館のだん（口咲代、中高尾、切相生、路）、桔梗ヶ原のだん（口久、奥さの）、三郎景勝駒下駄の段（綾）、勘介物語の段（切呂）、景勝上使のだん（文）、鉄砲渡しの段（谷）、十種香のだん（切津=*吉兵衛、此所出つかひにて御覧に入申候 桐竹紋十郎）、奥御殿のだん（相生）。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。 ※「二月四日ヨリ三月九日マデ」（『義太夫年表 明治篇』）。	手弱御前（玉亀）、北条氏時（兵三）、長尾三郎（金之助）、村上左工門義清（卯三郎）、武田信玄（兵吉）、賤のかた（紋治郎）、直江山城之介・慈悲蔵（玉助）、八つはし（紋十郎）、井上新左工門・関兵衛・斎藤道三（玉治）、横造・山本勘助（玉造）、上杉謙信（玉朝）、蓑作・武田勝頼（玉助）、武田勝頼（卯三郎）、板垣兵部（玉朝）、濡きぬ（玉五郎）、妻唐織（玉五郎）、妻入江（金之助）、高坂弾正（兵吉）、越名弾正（玉朝）、女房おたね（紋十郎）、勘介の母（玉治）、八重垣ひめ（紋十郎）。
△	一八九二	明治25	7/26 7/31	名古屋千歳座	（本朝廿四孝） 十種香の段（高尾=安次郎）。 （小隅=宗太郎）。 ※文楽・彦六両座合併。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/13 8/24	京都北座	（本朝二十四孝） 三段目（呂=勝鳳）、四段目 狐火迄（越路=広助・ツレ小庄）。 （二十四孝） 四ツ目（むら）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九二	明治25	8/17	名古屋 笑福座	(廿四孝) 四段目(高尾)。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/20	名古屋 千歳座	(廿四孝) 桔梗が原の段(朝子=小作)。 ※竹本朝太夫・豊竹新朝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/5	名古屋 末広座	(本朝廿四孝) 狐火まで(越路=広助)。	
8/10					(廿四孝) 四段目(むら=竹三郎)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/15	京都 南座	(二十四孝) 狐火の段(越路=広助)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九三	明治26	名古屋 音羽座	(本朝廿四孝)	狐火(惣かけ合=弥七・ツレ四人)。	
				(廿四孝)	桔梗ヶ原(綱登=芳三郎)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	10/15~	東京 新声館	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序(呂鳳、呂子、津摩)、明神森百度石段(綾路、播尾)、信玄館之段(袖、新呂)、桔梗ヶ原之段(識予、和佐)、景勝下駄之段(新呂)、勘助住家之段(識、織)、鉄砲渡シ之段(三輪)、謙信館之段(播磨=紋左衛門)。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。	たをやめ御前(新五郎)、長尾景勝(幸吉)、村上左衛門義清(小新)、武田信玄(国八)、じひ蔵・直江山城(国八)、斎藤道三(国五郎)、横蔵・山本勘助(文吾)、長尾けん信(新五郎)、みの作・勝頼(国三郎)、板垣兵部(国三郎)、ぬれきぬ(国三郎)、からおり(文四)、越名女房入江(小新)、高坂たん正(新五郎)、越名弾正(国三郎)、女房おたね(幸吉)、母越路(国五郎)、八重垣姫(国五郎)、狐八重垣姫(幸吉)。
△	一八九三	明治26	11/2	名古屋 音羽座	(廿四孝) 十種香と狐火(惣かけ合=弥七)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/3・6	京都 南座	(二十四孝) 三段目(呂)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2	御霊文楽座	本朝廿四孝 景勝上使の段(高尾)、鉄砲渡しの段(綾)、十種香の段(切越路)、殿中の段(調)。 ※「二月十日ヨリ三月六日マデ廿三日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	長尾三郎景勝(幸三郎)、花守り関兵衛・斎藤道三(玉治)、山本勘介晴幸(玉助)、上杉越後入道謙信(玉朝)、花造養作・武田勝頼(紋十郎)、こしもと濡衣(玉助)、八重垣ひめ(玉造)。
△	一八九四	明治27	名古屋 新守座	(本朝廿四孝)	四段目(鶴尾=吉松)。	
				(廿四孝)	四ツ目(高尾=芳三郎)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	7/23	名古屋 宝生座	(廿四孝) 四段目(高尾)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	12/19	京都 南座	(二十四孝) 四段目(浪友)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九五	明治28	4/12~	稲荷座	本朝廿四孝 四段目	謙信館のだん（八重垣姫一伊達・勝頼一春子・ぬれ衣一大隅・謙信一新 頼・白須賀六郎一此・原小文次一生嶋＝団平・ツレ友松・琴豊沢門人 中・吉子、此所人形出つかひにて御覧に入申候）。 ※角書「武田信玄／越後謙信」。	上杉謙信（栄寿）、武田勝頼（栄三）、こし もと濡衣（清十郎）、八重垣姫（玉米）。
△	一八九五	明治28	名古屋 千歳座	（廿四孝）	四段目（叶）。 四段目（鶴尾）。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	名古屋 千歳座	（廿四孝）	狐火（高尾）。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九五	明治28	浪花座	廿四孝	三（新靱＝森助）。 ※稲荷座総一座。素浄瑠璃。	
△	一八九六	明治29	名古屋 千歳座	（本朝廿四孝） （廿四孝）	狐火（菅＝森助）。 筍堀り（新靱＝仙昇）。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	名古屋 千歳座	（本朝廿四孝）	狐火の段（菅）。 ※竹本越太夫一座による素浄瑠璃。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	京都 南座	（本朝二十四 孝）	四段目 狐火の段（越路＝広助）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九六	明治29	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序 室町御所評定のだん（房、呂子、越登、谷勢、越見、綾寿、越 目、津代、谷栄）、誓願寺のだん（越江、綾免、越尾）、足利館のだん （口呂嶋、中殿母、次尾上、切むら）、武田信玄館のだん（口登 勢、中叶、切谷）、桔梗ヶ原のだん（口津ばめ、奥綾）、長尾景勝 駒下駄の段（路）、山本勘助住家の段（切呂）、三郎景勝上使の段 （鶴尾）、鉄砲渡しのだん（むら）、十種香のだん（切津＝*勝 七）。 ※角書「武田信玄／上杉謙信」。 ※「十月廿四日ヨリ十一月廿四日マデ卅一日間」（『義太夫年表 明治 篇』）。	手弱御前（玉亀）、北条氏時（金之助）、長 尾三郎景勝（文三）、村上義晴（助太郎）、 武田晴信（玉朝）、賤の方（紋之助）、直江 山城介兼続・弟慈悲蔵（玉助）、こしもと八 つ橋（紋十郎）、井上新左工門・花造関兵衛 （玉朝）、兄横蔵・山本勘助晴幸（玉造）、 上杉謙信（玉五郎）、花造り衰作・武田四郎 勝頼（玉助）、武田勝頼（文三）、板垣兵部 （玉亀）、こしもと濡衣（金之助）、唐おり （玉五郎）、妻入江（助太郎）、高坂弾正 （玉助）、越名弾正忠政（文三）、女房おた ね（紋十郎）、勘介老母（金之助）、八重垣 ひめ（紋十郎）。
△	一八九六	明治29	名古屋 音羽座	（廿四孝）	十種香（泉）。 ※土佐太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	名古屋 音羽座	（廿四孝）	十種香（綾＝大七）。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九七	明治30	3/14	名古屋 音羽座	(二十四孝) 十種香の段(綾=大七)。 ※竹本相生太夫一座。前項の二の替り。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/10	名古屋 千歳座	(本朝廿四孝) 狐火(朝=松太郎)。 ※竹本組太夫・住太夫・朝太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/25 8/3	京都 南座	(廿四孝) 四段目 狐火迄(越路=広助・ツレ 叶・琴 豊之助)。 三段目(呂)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	11/3	京都 南座	(二十四孝) 狐火の段(高尾)。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九八	明治31	1	稲荷座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序 大広間のだん(住喜、常、弥瑠、小野)、足利義春館のだん(口 隅栄、中一、切 柳適、菅)、諏訪明神のだん(口 源子、奥 長子)、武田信玄館のだん(中 雛、切 此)、桔梗ヶ原のだん(口 弥生、奥 春子)、勘助住家のだん(口 生嶋、切 弥)、上杉謙信館のだん(中 菊、中 伊達、切 大隅=団平)、御殿のだん(菅)。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。	たをやめ御前(三十郎)、長尾景勝(簗助)、村上左衛門(鶴松)、弟慈悲蔵・直江山城守(玉米)、腰元八ツ橋(清十郎)、井上新左衛門・斎藤道三・花造関兵衛(玉松)、兄横蔵・山本勘介(駒十郎)、上杉謙信(宗七)、花造簗作・武田勝頼(栄三)、武田勝頼(友造)、腰元濡衣(簗助)、妻唐織(簗助)、高坂弾正(栄三)、越名弾正(駒十郎)、女房お種(清十郎)、山本勘介母(門蔵)、八重垣姫(玉松)。
△	一八九八	明治31	1	東京 新声館	(二十四孝) ※『吉田栄三自伝』に拠る。	横蔵(冠治)、八重垣姫(兵吉)。
△	一八九八	明治31	5/14	名古屋 宝生座	(二十四孝) 十種香(鶴尾=大三郎)。 ※路太夫・山城太夫・鶴尾太夫・団六・大三郎・卯三郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/7	京都 南座	(廿四孝) 十種香(むら)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/18 8/23	名古屋 御園座	(本朝廿四孝) 狐火(高尾=大三郎、琴入)。 (廿四孝) 十種香(むら=卯三郎)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一八九八	明治31	9/5	中劇場	(二十四孝) 狐火(高尾)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	12/12・22	名古屋	(本朝廿四孝) 桔梗ヶ原(一=松吉)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		12/13	御園座		十種香より狐火まで（朝＝松太郎・ツレ 団之助）。 ※大阪大隈（ママ）太夫一座・東京朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八九九	明治32	1	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 大切まで	大序 室町御所大広間評議の段（越廣、綾路、谷登、谷代、津直）、誓願寺花見の段（越可、呂子、越登、呂嶋、巴勢）、足利御所鉄砲伝授の段（口 小富、中 源子、次 殿母、切 源）、諏訪明神鳥居前の段（口 小さの、奥 文）、武田信玄館四郎勝頼切腹の段（中 登勢、次 叶、切 文字、染）、桔梗ヶ原両執権争論の段（口 司、奥 七五三）、三郎景勝下駄の段（染）、山本勘助物語の段（切 呂＝勝鳳）、三郎景勝上使ノ段（高尾）、鉄砲渡しの段（文字）、十種香の段（切 越路＝*吉兵衛）、大広間斎藤道三切腹の段（祖）。 ※「一月二日ヨリ二月十二日マデ」（『義太夫年表 明治篇』）。	手弱御前（三吾）、北条氏時（助太郎）、長尾三郎景勝（玉松）、村上左工門義清（玉朝）、武田信玄（玉松）、賤の方（玉亀）、直江山城之介兼次・慈悲蔵（玉助）、こし元八ツ橋（紋之助）、井上新左工門・花造り関兵へ・斎藤道三（金之助）、兄横蔵・山本勘助晴幸（玉造）、上杉謙信（玉治）、花造り簗作・武田四郎勝頼（玉助）、武田勝頼（栄三）、板垣兵部（玉朝）、こし元濡衣（玉五郎）、妻唐織（玉五郎）、妻入江（栄三）、高坂弾正（金之助）、越名弾正忠政（助太郎）、女房お種（紋十郎）、勘助の母（金之助）、八重垣姫（紋十郎）。
△	一八九九	明治32	1/15	京都南座	（二十四孝） 四（角）。 ※柳適太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	3/14	名古屋末広座	（本朝廿四孝） 狐火（菅＝森助）。 ※大阪稻荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	4/25	名古屋西栄座	（本朝廿四孝） 狐火（角）。 ※大阪若手浄瑠璃。春子太夫・新左衛門一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/19 7/30	京都南座	（本朝廿四孝） 狐火の段（越路＝吉兵衛・ツレ 吉作・琴 吉兵）。 二十四孝 三段目（呂）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	8/5	京都岩神座	（廿四孝） 四段目（むら）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	12/21	京都南座	（二十四孝） 十種香（南部＝吉作）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇〇	明治33	7/1~	明楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目まで	大序 大広間のだん（達路、佐、生栄、千歳、津子、此路、小達）、誓願寺のだん（此路、隅尾、弥珪）、足利義晴館のだん（口津子、中弥雲、切隅次）、百度参りのだん（弥珪）、力石のだん（隅尾）、武田信玄館のだん（中菊、切此）、桔梗ヶ原のだん（口隅尾、奥鋳）、勘介住家のだん（中菊、切生嶋）、上杉謙信館のだん（口隅次、中鋳、切伊達=*友松）。 ※角書「武田信玄／上杉謙信」。	たをやめ御前（兵枝）、北条氏政（友造）、長尾景勝（玉治郎）、村上左右兵衛（小友）、武田信玄（門造）、妾賤の方（兵子）、直江山城守・弟慈悲蔵（栄三）、こし元八ツ橋（兵之助）、井上新左衛門・花守関兵衛・斎藤道三（光ル）、兄横蔵・山本勘介（門造）、上杉謙信（清十郎）、花造り蓑作・武田勝頼（栄三）、盲目勝頼（兵之助）、稲垣兵部（光ル）、こし元濡衣（玉治郎）、妻唐織（兵枝）、妻入江（友造）、高坂弾正（兵三）、越名弾正（兵之助）、女房おたね（清十郎）、勘介の母（玉五郎）、八重垣姫（玉松）。
△	一九〇〇	明治33	京都南座	(本朝廿四孝) 廿四孝	狐火の段（越路）。 四段目（むら）。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	名古屋末広座	(本朝廿四孝)	十種香（南部）。 十種香（むら）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	京都南座	(本朝廿四孝 謙信館より 狐火まで)	※「素黒入混ぜ太夫に大阪文楽座の玉造・紋十郎一座の人形遣ひにて開場」（「京都日出新聞」8月23日）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	勝頼（玉輔）、八重垣姫（紋十郎）。
△	一九〇〇	明治33	京都千本座	(二十四孝)	狐火。 ※「狐火は、玉松の人形にて大道具大仕掛の由」（「京都日出新聞」9月8日）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(玉松)。
△	一九〇〇	明治33	名古屋末広座	(廿四孝)	三段目（隅尾=団友）。 桔梗ヶ原（隅尾=団友）。	
		12/8		(本朝廿四孝)	十種香（春子=新左衛門）。	
		12/11		(廿四孝)	力石（生栄=新三）。	
		12/13			鉄砲渡し（子友=叶吉）。	
		12/15			※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都弁天座	(本朝廿四孝 四幕)	※玉造・玉助一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	長尾景勝（兵三）、武田信玄（玉二）、弟慈悲蔵・直江山城守（蓑助）、花造り関兵衛・斎藤道三（玉二）、兄横蔵（玉助）、上杉謙信（兵三）、蓑作・武田勝頼（蓑助）、坂部兵部（玉二）、高坂弾正（兵三）、母越路（兵吉）、八重垣姫（スケ玉造）。



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇一	明治34	名古屋 千歳座	(廿四孝)	下駄場(千歳)。	
					十種香(谷路)。	
					三ノ口(此路)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋 歌舞伎座	(本朝廿四孝)	四段目(越路=吉兵衛)。	
				(廿四孝)	四段目(むら)。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都 南座	(廿四孝)	十種香(越路)。	
					四段目(高尾)。	
					十種香(むら)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都 幾代亭	(二十四孝)	三(組代)。	
					十種香(小隅)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋 末広座	(廿四孝)	三段目(加賀)。	
					桔梗原(加賀)。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	名古屋 末広座	(本朝二十四孝)	狐火の段(朝=松太郎・ツレ 猿之助)。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	京都 布袋座	(二十四孝)	下駄(路代)。 ※七五三太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	東京 歌舞伎座	(本朝廿四孝)	桔梗ヶ原(加賀=伊之助)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	京都 南座	(本朝廿四孝)	十種香(南部=寛次郎)。 ※鶴沢紫騰追善浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	名古屋 御園座	(廿四孝)	十種香の場(南部=寛次郎)。 ※大阪文楽座、文字太夫・吉弥一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	名古屋 末広座	(廿四孝)	十種香(一)。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・三味線 豊沢新左衛門・仙十郎・外十数名。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇二	明治35	5/30	京都 岩神座	(二十四孝) 十種香(南部=寛次郎)。 ※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/7 8/10	京都 南座	(廿四孝) (南部)。 (むら)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8	東京 明治座	(本朝廿四孝) 十種香。 ※桐竹紋十郎一座に東京の伊達太夫、常磐津林中が加わった興行。 ※『明治座評判記』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/26 8/27	京都 歌舞伎座	(廿四孝) 桔梗ヶ原(生勢)。 十種香(角)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/30 9/5	京都 岩神座	(廿四孝) 十種香(角)。 三(生勢)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	9/9	(不明)	(本朝廿四孝) 十種香(越路)。 ※小松宮、伏見宮台臨御前演奏。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/7~	神戸 朝日座	廿四孝 御殿より狐火まで(南部=寛治郎、此所吉田玉造出遣イ早替りにて御覧に入候)。 ※「芸題二日目替りにて御覧に入申候」(番付)。	上杉謙信(三吾)、武田勝頼(助太郎)、こし元濡衣(栄三)、八重垣姫(玉造)。
△	一九〇二	明治35	12/21	名古屋 千歳座	(廿四孝) 十種香(富)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	3/2~	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序 室町御所大広間のだん(今路、三滝、千代、文字子、桂、須磨、いさ、字久、広、南勢、津磨)、誓願寺のだん(越喜、常子、津ばさ、津国、谷登、津直、越可、豊)、足利館のだん(口さ路、中登勢、次山城、切むら)、諏訪明神のだん(口富、奥叶)、武田信玄館のだん(中殿母、次司、切染)、桔梗ヶ原のだん(口源子、奥文)、長尾三郎下駄のだん(七五三)、山本勘介の母閑居のだん(切津)、長尾景勝上使のだん(津ばめ)、鉄砲渡しのだん(むら)、十種香のだん(切春)、殿中のだん(南部)。 ※角書「武田の結納／上杉の花嫁」。 ※「三月二日ヨリ四月廿三日マデ五十三日間」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※第5回内国博覧会にて大入り。5月の摂津大掾受領芝居のため打ち上げる(『吉田栄三自伝』に拠る)。 ※栄三齒を病み、御殿の出遣いを代わってもらう(『吉田栄三自伝』に拠る)。	たおやめ御前(栄三)、北条氏時(紋太郎)、長尾三郎景勝(玉朝)、村上左衛門(玉朝)、武田入道信玄(紋十郎)、賤の方(政亀)、直江山城守・弟慈悲蔵(多為蔵)、井上新左衛門・花守閔兵衛・斎藤道三(玉造)、兄横蔵・山本勘介(玉助)、上杉謙信(紋之助)、花造り蓑作(玉助)、武田勝頼(多為蔵)、板垣兵部(三吾)、こしもと濡衣(助太郎)、妻唐織(栄三)、妻入江(玉六)、高坂弾正(多為蔵)、越名弾正(玉朝)、妻お種(助太郎)、山本勘介の母(玉造)、八重垣姫(紋十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇三	明治36	8/12	名古屋 御園座	(廿四孝) 四段目(南部=寛次郎)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇三	明治36	8/30	京都 南座	(本朝廿四孝) (廿四孝)	十種香(南部)。 (むら)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/10	京都 千本座	(廿四孝)	(むら)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/25	京都 夷谷座	(本朝廿四孝)	十種香(章=金吾)。 ※平安徳義会孤児院新築費へ寄付の為の慈善浄瑠璃大会。竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	12/3	名古屋 千歳座	(廿四孝)	十種香(角)。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	7/18	名古屋 御園座	(廿四孝)	桔梗ヶ原(源子)。 四(南部)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
		7/20					
△	一九〇四	明治37	7/31	京都 歌舞伎座	(二十四孝)	四(南部)。	
		8/2	(廿四孝)		三口(南勢)。		
		8/3	(二十四孝)		四(むら)。		
		8/11	(本朝廿四孝)		十種香(むら)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇四	明治37	8/12	京都 千本座	(二十四孝)	四段目(むら)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12/13	東京 歌舞伎座	(廿四孝)	狐火(摂津大掾=吉兵衛・琴+ツレ 吉弥)。	
		12/14	狐火(摂津大掾=吉兵衛・ツレ 寛治郎・琴 常造)。				
		12/18	桔梗ヶ原(越喜=勝太郎)。				
		12/21	十種香(むら=吉松)。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。				
△	一九〇五	明治38	1/18	京都 朝日座	(本朝廿四孝)	十種香(角)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇五	明治38	名古屋 新守座	(廿四孝)	狐火の段(時)。		
		2/19			桔梗ヶ原(文字子)。		
		2/24			四段目(むら)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇五	明治38	京都 岩神座	(二十四孝)	四(葉)。		
		6/5			(本朝廿四孝カ)		駒下駄(弥名)。
		6/8			(本朝廿四孝)		狐火(伊達)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	名古屋 新守座	(廿四孝)	四段目(葉)。		
		7/9			7/11		桔梗ヶ原(いさ)。 ※竹本文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇五	明治38	東京 歌舞伎座	(廿四孝)	(静=春太郎)。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。		
	一九〇五	明治38	9/17~	堀江座	本朝廿四孝	三郎景勝上使のだん(一)、鉄砲渡しのだん(角)、十種香のだん(切伊達=*市治郎、此所人形出遣いにて御覧に入候)、奥御殿のだん(三笠)。	長尾景勝(光ル)、関兵衛(冠四)、長尾謙信(兵吉)、蓑作実(勝頼(簗助)、こし元ぬれ衣(玉治)、八重垣姫(玉松)。
△	一九〇五	明治38	12/15	京都 明治座	(二十四孝)	駒下駄(静)。 ※撰津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	京都 南座	(二十四孝)	(文字子)。		
		2/7			2/10		狐火(時)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九〇六	昭和39	2/12	京都 南座	(二十四孝)	四(むら)。 ※故紫福七回忌追悼の浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇六	明治39	3	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 足利大広間のだん（千鳥、の、富子、喜、津路、いさ、字久、広見、須磨）、誓願寺のだん（広、千代、葉、谷登、越可、谷栄）、足利御所のだん（口 南勢、中 津直、次 登勢、切 勢見）、諏訪明神のだん（口 静、奥 津ばめ＝＊綱造）、信玄館のだん（中 越喜、次 富、切 染）、桔梗ヶ原のだん（口 津磨、奥 南部）、長尾三郎下駄のだん（七五三）、勤助物語りのだん（切 大隅＝清六）、景勝上使のだん（津ばめ＝＊豊之助）、鉄砲渡しのだん（七五三）、十種香のだん（切 摂津大掾）、殿中のだん（源子）。 ※角書「武田信玄／上杉謙信」。 ※「三月一日ヨリ四月九日マデ卅九日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	手弱御前（玉六）、北条氏時（玉亀）、長尾三郎景勝（多ゐ蔵）、村上左工門義晴（玉治郎）、武田晴信後に武田信玄（門造）、賤の方（紋之助）、直江山城之介・慈悲蔵（栄三）、こし元八つ橋（玉五郎）、井上新左工門・花造関兵衛・斎藤道三（多ゐ蔵）、兄横蔵・山本勘介（玉助改 二代目玉造）、上杉謙信（三吾）、花造り簀作実は武田勝頼（政亀、四段目＝紋十郎）、武田勝頼（栄三）、板垣兵部（三吾）、こし元濡衣（玉五郎）、妻唐織（門造）、妻入江（玉六）、高坂弾正（多ゐ蔵）、越名弾正（玉治郎）、妻おたね（玉五郎）、山本勘介の母（紋十郎）、八重垣姫（玉助改 二代目玉造）。
△	一九〇六	明治39	6/29	天満座	（二十四孝） 十種香（一子）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	7/30 8/2	京都 歌舞伎座	（本朝廿四孝） 桔梗ヶ原（広見）。 桔梗ヶ原（南勢）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/6 8/7	名古屋 末広座	（廿四孝） 四段目（むら）。 三の口（いさ）。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/6 8/10	名古屋 歌舞伎座	（廿四孝） 四御殿（一子）。 二の中（敷島）。 ※竹本津ばめ太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	12/8	名古屋 末広座	（本朝廿四孝） 十種香（朝＝松太郎）。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座による「合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	8/7 8/9	京都 南座	（二十四孝） 狐火（摂津大掾＝広助）。 （南芳＝山作）。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇七	明治40	8/26~9/1	京都南座	(本朝二十四孝 大序より四段目迄) 大序(南次、住登、鳴尾、叶栄、南芳)、百度石の段(里)、桔梗ヶ原の段(南勢)、駒下駄の段(米)、勘助住家(さの)、物語の段(源)、景勝上使の段(南勢)、鉄砲渡の段(米)、十種香の段(南部)。 ※「京都日出新聞」(8月28日)劇評の人形役割は、勘助(玉治郎)、山城(勘太郎)、勝頼(玉六)、濡衣(玉五郎)とある。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事、『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	長尾景勝(玉六)、花造関勝(門造)、兄横蔵(助太郎)、長尾謙信(紋之助)、武田勝頼(玉治郎)、腰元濡衣(玉六)、高阪弾正(栄三)、越名弾正(玉治郎)、女房お種(紋之助)、横蔵の母(門造)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九〇七	明治40	11/15~	堀江座	本朝廿四孝 大序より四段目まで 大序 室町御所大広間評定のだん(隅子、隅泉、隅栄、柴、初音、小国)、足利御所鉄砲伝授のだん(口敷嶋、中吉野、次里、切一)、諏訪明神鳥居前のだん(口筑、奥司)、武田信玄館四郎勝頼切腹のだん(中隅の、次三笠、切菅)、桔梗ヶ原のだん(口静、奥角)、三郎景勝下駄のだん(長子=*八助、此所人形出遣いにて御覧に入候)、山本勘助物語のだん(切春子、此所人形出遣いにて御覧に入候)、三郎景勝上使鉄砲渡しのだん(司)、十種香のだん(切伊達=*市治郎、此所人形出遣いにて御覧に入候)。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。 ※「十一月十五日ヨリ三十日迄」(『義太夫年表 明治篇』)。	たおやめ御前(小兵吉)、北条氏時(東吉)、長尾景勝(紋三)、村上新左工門(光ル)、武田信玄(紋三)、賤の方(東助)、慈悲蔵(玉松)、八つはし(亀松)、井上左門・斎藤道三(光ル)、兄横造・山本勘助(兵吉)、長尾謙信(兵吉)、花造叢作(政亀)、武田勝頼(玉市)、板垣兵部(冠四)、濡衣(小兵吉)、妻唐織(小兵吉)、妻入江(東助)、高阪弾正(政亀)、越名弾正(玉市)、女房おたね(亀松)、勘介母(兵三)、八重垣姫(玉松)。
△	一九〇七	明治40	12/11 12/13 12/14	名古屋御園座	(廿四孝) (本朝廿四孝) 三の口(南芳)。 百度参り(時勢)。 狐火(南部=重次郎)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・久太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/18	名古屋末広座	(本朝廿四孝) 十種香(富)。 ※「大阪文楽/堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	2/27	京都歌舞伎座	(二十四孝) 十種香(里)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/10 4/16	名古屋末広座	(二十四孝) (廿四孝) 桔梗原の段(絹=団丈)。 百度参の段(小国=仙左)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	7/12 7/13	名古屋御園座	(二十四孝) (廿四孝) 桔梗原(南勢=広太郎)。 三の口(むら=芳之助)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/9	中座	(本朝廿四孝) 十種香(伊達)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇八	明治41	9/14	京都 岩 神 座	(二十四孝) 四(里)。 ※文大夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/10	名古屋 御 園 座	(廿 四 孝) 下駄場(柴=勝若)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/25	京都 歌 舞 伎 座	(二十四孝) 十種香(千代=大之助)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	2/18 2/20	京都 南 座	(二十四孝) 百度石(文字子)。 三(文字子)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8/17 8/22	名古屋 御 園 座	(二十四孝) (源路)。 四段目(むら)。 ※大阪文楽座、越路大夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/5	京都 南 座	(本朝廿四孝) 十種香(南部=寛二郎)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	9/10~	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目まで 大序 足利大広間のだん(津雲、南次、源路、南登、柴、富次、桐、文次、福、時尾、南芳、文字子、富子)、誓願寺のだん(喜、広、津留、須広、染代、谷登、越可)、足利館のだん(口 越見、津国、中 其、次谷、切 叶)、諏訪明神のだん(口 淀、奥 むら)、信玄館のだん(中 鶴尾、次 富、切 七五三)、桔梗ヶ原のだん(口 常子、奥 古靱)、景勝下駄の段(文)、勘助物語りのだん(切 染)、景勝上使の段(源)、鉄砲渡しの段(七五三)、十種香のだん(切 撰津大掾)、殿中のだん(斎藤道三一文・山本勘介一時・上杉謙信一葉・長尾景勝一古靱・武田勝頼一越喜)。 ※角書「武田信玄／上杉謙信」。 ※「九月十日ヨリ十月廿四日マデ四十四日間」(『文楽興行書入手帖』)、「九月十日ヨリ四十五日間」(『古靱太夫床年譜』)。 ※桐竹紋十郎休演のため、八重垣姫を吉田栄三が代演(『吉田栄三自伝』に拠る)。	たおやめ御前(紋之介)、北条氏時(亀三郎)、長尾景勝(玉治)、村上義清(紋三)、武田信玄(門造)、磯の方(亀三郎)、弟慈悲蔵后に直江山城守(玉治郎)、こし元八ツ橋(助太郎)、花造関兵へ実は斎藤道三(玉治郎)、兄横蔵后に山本勘介(栄三)、上杉謙信(三吾)、花造養作実ハ武田勝頼(三左衛門)、二段目武田勝頼(玉子)、板垣兵部(紋三)、こし元濡衣(玉六改 玉七)、妻唐織(玉六改め 玉七)、妻入江(琴糸)、高坂弾正(助太郎)、越名弾正(玉治)、女房おたね(助太郎)、勘助の母(玉五郎)、八重垣姫(紋十郎)。
△	一九〇九	明治42	12/8	角 座	(本朝廿四孝) 十種香(角)。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	2/20	京都 明 治 座	(廿 四 孝) (南部=猿平)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一〇	明治43	5/1~	堀江座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 奥御殿まで	桔梗ヶ原のだん（口 隅の＝*竜市、奥 菅）、景勝下駄のだん（錦）、 勤助住家のだん（切 大隅＝*団平、此所人形出遣いにて御覧に入申 候）、景勝上使鉄砲渡しの段（三笠）、十種香のだん（切 春子＝*新 左衛門、此所人形出遣い早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、奥御殿 のだん（かけ合 三笠・里・薫・栄）。	たおやめ御前（玉米）、長尾景勝（政亀）、 慈悲蔵実（直江山城守（文五郎）、花造り関 兵へ・斎藤道三（東吉）、横蔵・山本勘助 （駒十郎）、長尾謙信（清吉）、花造り蓑作 （文五郎）、武田勝頼（文五郎）、ぬれ衣 （小兵吉）、妻唐織（玉吉）、妻入江（玉 米）、高坂弾正（政亀）、越名弾正（小兵 吉）、女房おたね（玉造）、勤助の母（兵 吉）、八重垣姫（玉造）。
△	一九一〇	明治43	7/7	名古屋 末広座	（廿四孝） 桔梗原（栄＝小団）。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/20	名古屋 御園座	（二十四孝） 四段目（むら＝友之助）。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/3 8/4 8/6	京都 南座	（本朝廿四孝） 十種香（むら＝兵三）。 （廿四孝） 竹の子（源路＝寛六）。 （文次＝勝若）。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/8	京都 末広座	（廿四孝） （小さな）。 ※さの太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/14	京都 国華座	（本朝廿四孝） 十種香（葉＝兵三）。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/23	京都 歌舞伎座	（本朝廿四孝） 十種香、狐火（南部）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10/19 10/22	京都 明治座	（廿四孝） （古金）。 十種香（むら）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/15 12/16	名古屋 御園座	（本朝廿四孝） 十種香（むら）。 （廿四孝） 百度石（文字子）。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古鞠太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/7 7/12	京都 歌舞伎座	（廿四孝） （源路＝猿三）。 （鶴尾＝勝若）。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一一	明治44	浪花座	(廿四孝)	狐火(南部)。 十種香(むら)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	京都南座	(廿四孝)	(源路=六三)。 十種香(むら=兵三)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一一	明治44	御霊文楽座	本朝廿四孝	三郎景勝下駄のだん(叶=*吉松)、勘助物語のだん(切 越路=吉兵衛)、三郎景勝上使のだん(源=*勝市)、十種香のだん(切 南部=*猿糸)。 ※「九月廿日より十月十七日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	三郎景勝(玉治郎)、武田信玄(福寿軒)、直江山城守・慈悲蔵(栄三)、花造り関兵衛・斎藤道三(紋三)、兄横蔵・山本勘助(文三)、上杉謙信(三吾)、花造り蓑作・武田勝頼(三左衛門)、こし元濡衣(玉七)、妻唐織(三左衛門)、勘助の母(多為蔵)、八重垣姫(栄三)。
△	一九一一	明治44	名古屋末広座	(廿四孝)	四ツ目(薫=新吾)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	名古屋御園座	(廿四孝)	狐火(南部)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	京都開盛座	(二十四孝)	狐火(鳴門)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	浪花座	(廿四孝)	狐火(南部=友次郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一二	大正1	近松座	本朝廿四孝四段目一冊	信玄館より奥庭狐火のだん(中 組栄=*竜市、次 綴=*吉作、切 伊達=*徳太郎・ツレ 団平・琴 小団、此所人形出遣ひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造)。 ※組栄太夫の役場、時間の都合で初日割愛、二日目から(『義太夫年表 大正篇』)。	三郎景勝(清吉)、花造り関兵衛実ハ斎藤道三(駒十郎)、山本勘介(玉造)、長尾謙信(兵吉)、花造り蓑作実ハ武田勝頼(玉市)、濡衣(小兵吉)、八重垣姫(玉造)。
△	一九一二	大正1	京都明治座	(本朝廿四孝)	十種香。 ※女義太夫呂昇一座に文楽座の人形出遣い。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	謙信(紋三)、勝頼(玉七)、濡衣(琴糸)、八重垣姫(栄三)。
△	一九一三	大正2	名古屋末広座	(本朝廿四孝)	十種香(桂=吉士郎)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	京都京都座	(本朝廿四孝)	十種香(南部)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一三	大正2	8/21~	第三芦辺倶楽部	(本朝二十四孝) 狐火(母思)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	(小兵吉)、(文五郎)。
	一九一三	大正2	10/31~ 11/17	近松座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序 室町御所大広間評議のだん(春花、小嶋、春雄、小司、小苗、雛栄、大登)、誓願寺花見のだん(春栄、初音)、百度参りのだん(春治)、諏訪明神のだん(薫)、草苺のだん(組栄)、桔梗ヶ原のだん(角=*新造)、山本勘助住家のだん(三笠=*吉作、弥=*八助)、上杉謙信館のだん(敷嶋=*新之助)、鉄炮渡しのだん(栄=*吉郎)、十種香の段より奥庭狐火のだん(菅=*竹三郎、此所人形出遣ひ早替りにて御覧二入申候 吉田玉蔵)。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。	たおやめ御前(玉米)、北条氏時(光ル)、長尾三郎景勝(政亀)、村上左衛門(兵三)、武田信玄(清吉)、賤の方(小伊三郎)、弟慈悲蔵実八直江山城守(文五郎)、こし元八ツ橋(小兵吉)、斎藤道三(東吉)、兄横蔵・山本勘介(玉蔵)、長尾謙信(兵吉)、花造り簀作実八武田勝頼(政亀)、武田四郎勝頼(玉市)、板垣兵部(冠四)、濡衣(小兵吉)、妻唐織(玉米)、妻入江(小伊三郎)、高坂弾正(清吉)、越名弾正(玉市)、女房おたね(小兵吉)、勘介母(兵吉)、八重垣姫(玉蔵)。
△	一九一三	大正2	11/8	名古屋 帝国座	(本朝廿四孝) 十種香(桂)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	11/22	京都 明治座	(本朝廿四孝) 狐火(南部=寛治郎)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/5	東京 新富座	(本朝廿四孝) 狐火(南部=寛治郎・ツレ 友之助・琴 友平)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/14	名古屋 御園座	(廿四孝) 狐火(南部=寛次郎・ツレ 友之助)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	2/10~3/15	御霊文楽座	本朝廿四孝 十種香のだん(伊達=猿治郎)。	直江山城守(福寿軒)、長尾謙信(駒十郎)、武田勝頼(玉治郎)、こし元濡衣(玉七)、八重垣姫(栄三)。
△	一九一四	大正3	7/11	京都 南座	(二十四孝) (むら)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/19 7/21	名古屋 御園座	(本朝廿四孝) (廿四孝) 桔梗ヶ原(源路)。 狐火(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一五	大正4	4/18~5/18	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 十種香の段迄	大序 足利大広間のだん（い、南海、めばゑ、南次、三滝）、誓願寺の だん（一日かわり 越穂、喜、和、小富、鶴尾、綱尾//路久、文字子、 九重、源路、鶴、津国、谷）、足利御所のだん（口 英、綾登、中 淀、 次 常子、切 呂）、武田信玄館のだん（中 越見、次 静、切 叶）、桔 梗ヶ原のだん（口 越代、奥 駒）、景勝下駄のだん（時）、山本勘助物 語りのだん（切 津）、景勝上使のだん（静）、鉄炮渡しのだん （駒）、十種香のだん（切 南部=寛治郎）。	手弱御前（政亀）、北条氏時（玉治郎）、三 郎景勝（文三）、村上義清（紋三）、武田入 道信玄（兵吉）、賤ノ方（亀三郎）、弟慈悲 蔵・直江山城守（玉蔵）、こし元ハッ橋（文 五郎）、花造り関兵衛（駒十郎）、兄横蔵・ 山本勘介（多為蔵）、上杉謙信（玉五郎）、 花造り襲作・武田四郎勝頼（栄三）、武田勝 頼（玉治郎）、板垣兵部（駒十郎）、こし元 濡衣（玉蔵）、妻唐織（玉七）、妻入江（琴 糸）、高坂弾正（駒十郎）、越名弾正（文 三）、女房お種（文五郎）、勘助の母（兵 吉）、八重垣姫（文五郎）。
△	一九一五	大正4	京都 南 座	(本朝廿四孝) (廿四孝)	桔梗原（源路）。 （源路）。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋 御園座	(廿四孝)	狐火（南部=寛次郎）。 桔梗ヶ原（源路）。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋 御園座	(廿四孝)	狐火（南部）。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	八重垣姫（栄三）。
△	一九一五	大正4	東京 新富座	(本朝廿四孝)	狐火の段（南部=寛治郎）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一五	大正4	名古屋 末広座	(廿四孝)	十種香より狐火迄（掛合）。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一六	大正5	名古屋 末広座	(本朝廿四孝)	十種香（薫=寛六）。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	京都 南 座	(廿四孝)	(むら=一弥)。 百度石の段（綾登=吉右）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	浪花座	(本朝廿四孝)	十種香（朝=松太郎・ツレ 新左衛門）。 ※近松座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	京都 明治座	(本朝二十四 孝)	(朝)。 ※竹本朝太夫一行。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一六	大正5	8/13	名古屋 末広座	(本朝廿四孝) 十八番の内 十種香(朝=松太郎・ツレ 新造・琴 芳太郎)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	9/23	名古屋 明治座	(廿四孝) (浪花)。 ※豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	12/3 12/4	東京 歌舞伎座	(二十四孝) 狐火(南部=寛治郎)。 三の口(鶴尾=友平)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	1/14	堀江座	(二十四孝) (総掛合)。 ※豊沢新之助改新三郎名披露会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一七	大正6	5/24~	京都 竹豊座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序 足利評定のだん(時の、亀、筆子、田見、鳴尾、角栄、時次)、 室町御所のだん(角代、南登)、諏訪明神百度参りのだん(伊達見=* 兵之助)、力石のだん(切 操=*喜代造)、武田信玄館のだん(中 時 次=*宗三郎、次 春登=*小兵、切 筆=*門造)、桔梗ヶ原のだん (口 古金=*宗之助、奥 三笠=*金吾)、景勝下駄のだん(海老=* 槌之助)、山本勘助物語りのだん(切 角=*弥七)、景勝上使のだん (春次=*新三郎)、鉄炮渡しのだん(薫=*団二郎)、十種薫のだん (切 時=*兵吉・ツレ *兵三・琴 *喜代之助、此所人形早替リニテ 相勤候 吉田小兵吉)。	たをやめ御前(東三郎)、北条氏時(兵 枝)、長尾景勝(兵枝)、村上左右衛門(松 江)、武田信玄(光ル)、賤ノ方(扇太 郎)、弟慈悲蔵実ハ直江山城守(紋太郎)、 村(ママ)上新左衛門・斎藤道三(光ル)、 兄横蔵実ハ山本勘介(辰五郎)、長尾謙信 (兵三)、花造り簗作実ハ武田勝頼(文 昇)、武田勝頼(玉米)、板垣兵部(兵 三)、こし元濡衣(兵次)、妻唐織(玉 米)、妻入江(兵次)、高坂弾正(扇太 郎)、越名弾正(松江)、女房お種(小兵 吉)、勘介ノ母(兵三)、八重垣姫(小兵 吉)。
△	一九一七	大正6	7/11	京都 南座	(本朝廿四孝) 十種香(むら=友之助)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/11	名古屋 末広座	(本朝廿四孝) 十種香(薫=新三郎)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/22	名古屋 蓬座	(本朝廿四孝) 十種香(薫=新三郎)。 ※竹本錦太夫・竹本角太夫・三味線 竹沢団六・豊沢兵吉。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一七	大正6	9/22~ 10/17	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 狐火の段まで	大序 足利大広間のだん（陸路、津若、南枝、越登、富栄、源福、小町、津花、南海、めばゑ＝*寛市）、誓願寺のだん（南治、三滝、越穂、九重、喜、谷登＝*三吉）、足利御所のだん（口 常子＝*小綱、中 鶴＝*友平、次 米＝*広栄／*吉助、切 菅＝*三二）、諏訪明神のだん（口 小富＝*吉雄、奥 八十＝*勇造）、武田信玄館のだん（中 越代＝*友之助、次 淀＝*燕四、切 叶＝*叶）、桔梗ヶ原のだん（口 鶴尾＝*勝平、奥 菅＝*広作）、景勝駒下駄のだん（駒＝*清六）、勘助住家のだん（切 津＝*友治郎）、三郎景勝上使のだん（八十＝*一弥／*団六）、鉄砲渡しのだん（駒＝*吉五郎）、十種香のだん（切 伊達＝吉三郎・ツレ *歌助・琴 *吉雄）。	手弱御前（玉七）、北条氏時（門治）、長尾三郎景勝（紋三）、村上義清（政亀）、武田入道信玄（文三）、賤の方（琴糸）、慈悲蔵・直江山城之助（玉松）、こし元八ッ橋（文五郎）、井上新左衛門・花造り関兵衛・斎藤道三（玉治郎）、兄横蔵後に山本勘助（栄三）、上杉謙信（玉五郎）、花造り簀作（実）は武田勝頼（玉蔵）、武田勝頼（玉七）、板垣兵部（紋三）、こし元濡衣（栄三）、妻唐織（政亀）、妻入江（玉五郎）、高坂弾正（紋三）、越名弾正（玉治郎）、女房お種（文五郎）、勘助の母（文三）、八重垣姫（文五郎）。
△	一九一七	大正6	12/20	名古屋 御園座	（廿四孝） 狐火の段（伊達＝吉三郎・ツレ 吉童・琴 吉雄、此処栄三出遣は早替り）。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（栄三）。
△	一九一八	大正7	7/22~	東京 有楽座	（本朝廿四孝） 足利御殿（辰＝清一）、桔梗原（吉野＝清二郎、英＝猿太郎）、勘助住家（静＝芳之助）、十種香（鏝＝徳太郎）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	八重垣姫（文五郎）。
△	一九一八	大正7	7/20	名古屋 御園座	（廿四孝） （津花）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	9/7	北 劇場	（二十四孝） （薫）。 ※文楽座太夫連による「涼み浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/1	名古屋 千歳座	（本朝廿四孝） 十種香（越登）。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/4 12/7 12/9	東京 歌舞伎座	（廿四孝） （本朝廿四孝） 十種香の段（伊達＝吉三郎）。 十種香（むら）。 桔梗ヶ原（源路）。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一八	大正7	12/10	名古屋 大黒座	（本朝廿四孝） 十種香（越登）。 ※文楽座、素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一九	大正8	1/1~	京都 竹豊座	本朝廿四孝 大序より 御殿の段まで	大序 足利大広間のだん（組雄、富久、多見、鳴尾、時の、亀、久米）、誓願寺のだん（角栄、千嶋）、諏訪明神百度参のだん（松重）、力石のだん（春美）、武田信玄館のだん（松重、古金、操）、桔梗ヶ原のだん（春美、三好）、景勝駒下駄のだん（組栄）、山本勘助住家のだん（時=*弥七）、三郎景勝上使の段（古金）、鉄砲渡しのだん（南登）、十種香のだん（簾=*広左衛門、此所人形早替りニテ相勤候 吉田小兵吉）。 ※「山本勘助住家の段」途中から竹沢弥七に代わり竹沢団二郎が代演（『義太夫年表 大正篇』）。	たをやめ御前（豊吉）、北条武時（光造）、長尾景勝（徳丸）、村上左右衛門（光造）、武田信玄（兵三）、賤の方（文吾）、弟慈悲蔵・直江山城守（扇太郎）、斎藤道三（光造）、兄横蔵実八山本勘介（辰五郎）、長尾謙信（兵三）、花造兼作（新三郎）、武田勝頼（新三郎）、板垣兵部（三郎）、こし元濡衣（玉米）、妻唐織（玉米）、妻入江（三郎）、高坂弾正（徳丸）、越名弾正（辰五郎）、女房おたね（小兵吉）、勘助の母（三郎）、八重垣姫（小兵吉）。
一九一九	大正8	4/23~5/22	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 狐火の段迄	大序 足利大広間のだん（伊達香、多満、播路、弥須、陸路、南枝、富栄、越登、辰、越名、つばめ、小町改メ 要）、誓願寺のだん（津花、豊嶋、三滝、越穂）、足利御所のだん（口 小町改め 要、中英、次 鶴尾、切 菅）、諏訪明神のだん（口 源路、奥 静）、武田信玄館のだん（中 鶴、次 鑊、切 弥）、桔梗ヶ原のだん（口 越代、奥 駒）、三郎景勝下駄のだん（源）、山本勘助物語のだん（切 津）、景勝上使のだん（八十）、鉄砲渡しのだん（駒）、十種香のだん（切 南部）。	手弱御前（政亀）、北條氏時（門治）、長尾三郎景勝（玉治郎）、村上義晴（玉八）、武田入道信玄（文三）、賤の方（亀三郎）、弟慈悲蔵後二直江山城之守（栄三）、こし元八つ橋（文五郎）、井上新左衛門・花造り関兵衛実八斎藤道三（紋三）、兄横蔵後二山本勘助（玉蔵）、上杉入道謙信（玉五郎）、花造り兼作実八武田四郎勝頼（玉蔵）、武田勝頼（玉七）、板垣兵部（冠四）、こし元濡衣（政亀）、妻唐織（玉七）、妻入江（琴糸）、高坂弾正（紋三）、越名弾正（玉治郎）、女房お種（文五郎）、勘助の母（文三）、八重垣姫（栄三）。
△	一九一九	大正8	7/7	京都 南座	（廿四孝） 十種香（南部=寛治郎・ツレ 友之助・琴 友衛門）。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	7/8	名古屋 御園座	（廿四孝） （掛合 英・常子・つばめ・辰）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
△	一九一九	大正8	8/1~6	東京 新富座	（本朝廿四孝） 大序から狐火まで。勘助住家の段（弥）、十種香の段（南部）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	慈悲蔵（紋三）、横蔵（文三）、勝頼（政亀）、濡衣（玉七）、越路（出遣い 玉蔵）、八重垣姫（栄三）。
△	一九一九	大正8	8/20 8/22	浪花 座	（本朝廿四孝） 桔梗ヶ原（越名）。 （越名）。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一九	大正8	9/13 9/17	名古屋 末広座	（本朝廿四孝） 桔梗ヶ原（弥=吉弥）。 十種香（駒=吉五郎）。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一九一九	大正8	11/7~	京都 竹豊座	本朝廿四孝	十種香の段（狐火まで 角=*広左衛門・ツレ *宗七）。	上杉謙信（光造）、武田勝頼（光之助）、こし元ぬれ衣（玉米）、八重垣姫（小兵吉）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一九	大正8	12/11	東京 歌舞伎座	(本朝廿四孝) 十種香(南部=寛治郎)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/23	名古屋 御園座	(廿四孝) 狐火(南部=寛次郎)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二〇	大正9	6/14~	東京 有楽座	(本朝廿四孝) 桔梗原の段、駒下駄の段(春次)、横蔵住家の段(越)、勘助物語の段(大嶋)、鉄砲渡の段、十種香の段(角)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	慈悲蔵(扇太郎)、横蔵(玉松)、八重垣姫(小兵吉)。
△	一九二〇	大正9	7/3	中座	(本朝廿四孝) 狐火(南部=寛治郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	7/28	名古屋 御園座	(廿四孝) (南部=寛次郎)。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二〇	大正9	8/6	京都 南座	(二十四孝) 狐火(南部=寛次郎)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二一	大正10	1/10~	京都 竹豊座	本朝廿四孝 大序より 狐火の段まで 大序 大広間のだん(喜智、富久、角登、多見、鳴尾、桑=□□□、外数名)、諏訪明神百度石のだん(千嶋=一日替 鱗三/六三郎/弥太郎)、桔梗ヶ原のだん(春若=兵弥、松重=弥十郎、嶋菊=兵之助)、景勝駒下駄のだん(春次=小兵)、山本勘介物語のだん(大嶋=仙之助)、景勝上使のだん(南登=宗三郎)、鉄砲渡しのだん(明石=喜代造)、十種香のだん(狐火まで 角=弥七・ツレ 喜代造・琴 金弥)。	たおやめ御前(富十郎)、長尾景勝(兵十郎)、村上左衛門(三郎)、武田信玄(兵十郎)、直江山城守・弟慈悲蔵(松江)、斉藤道三(兵三)、兄横蔵(玉松)、長尾謙信(兵三)、花作養作・武田勝頼(富十郎)、板垣兵部(冠造)、こし元濡衣(扇太郎)、妻からおり(兵次)、妻入江(登二郎)、高坂弾正(冠造)、女房おたね(扇太郎)、勘介の母(兵三)、八重垣姫(小兵吉)。
△	一九二一	大正10	3/10	天下茶屋南邸	(本朝廿四孝) 桔梗原(伊達男=吉寅)。十種香(越登=八造)。 ※大序会14回。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/20~24	東京 有楽座	(本朝廿四孝) 景勝下駄の段、勘助物語りの段、景勝上使の段、鉄砲渡しの段、十種香の段。 ※阪急池田文庫蔵新聞広告に拠る。	
△	一九二一	大正10	8/5	名古屋 御園座	(廿四孝) (南部=寛次郎)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二一	大正10	10/30~	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 狐火の段まで	足利大広間のだん（亀久、呂智、雀、津駒、南枝、清、淀路、陸路、富栄、辰、源福=*兵市）、誓願寺のだん（源福、文、越登、越名、三滝=*吉一郎）、足利御所のだん（口鏡=*清二郎、つばめ=*友二、中源路=*友作、次鶴尾、生駒=*友平、切駒=*錦糸）、諏訪明神のだん（口越穂、小富、奥八十=*燕四/*団六）、武田信玄館のだん（中常子、和泉、次録=*竹三郎、切叶=*叶）、桔梗ヶ原のだん（口相生=*芳之助/*友之助、奥古靱=*清六）、三郎景勝下駄のだん（源=*勝市）、山本勘助物語りのだん（切津=*友治郎）、景勝上使のだん（嶋=*浅造）、鉄砲渡しのだん（町=*歌助）、十種香のだん（切南部=*寛治郎・ツレ *勝平・琴 *友衛門）。 ※「二十五日間」（『義太夫年表 大正篇』）。	手弱御前（政亀）、北條氏時（伝之助）、長尾三郎景勝（玉治郎）、村上義清（徳丸）、武田入道信玄（辰五郎）、賤の方（亀三郎）、弟慈悲蔵後二直江山城守（栄三）、こし元八ツ橋（文五郎）、花造り関兵衛・斉藤道三（紋三）、兄横蔵後に山本勘助（文三）、上杉謙信（文三）、花作り蓑作実ハ武田四郎勝頼（玉蔵）、武田勝頼（玉八）、板垣兵部（門治）、こし元濡衣（玉七）、妻唐織（玉七）、妻入江（簗助）、高坂弾正（紋三）、越名弾正（玉治郎）、女房お種（文五郎）、勘助の母（玉蔵）、八重垣姫（栄三）。
△	一九二一	大正10	名古屋 末広座	（本朝廿四孝 ママ）	十種香（掛合）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	八重垣姫（文五郎）。
△	一九二二	大正11	御霊文楽座カ	（本朝廿四孝）	桔梗原（慈悲蔵一つばめ・越名一島・高坂一鏡・唐織一源路・入江一文=兵市）。 桔梗原（慈悲蔵一呂智・越名一清・高坂一（不明）・唐織一亀久・入江一淀路=喜代之助）。 ※研究劇。他日の配役は不明。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	慈悲蔵（玉八）、唐織（簗助）、入江（徳丸）、高坂（門造）、越名（玉徳）。 （不明）
△	一九二二	大正11	名古屋 末広座	（本朝廿四孝）	十種香（源路）。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
	一九二三	大正12	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄	大序 足利大広間のだん（千鳥、津若、駒登、照、亀久、播路、呂智、雀、南枝、淀路、陸路、富栄=*兵市）、誓願寺のだん（辰/源福/越登/文/越名=*寛市）、諏訪明神のだん（口越穂/常子=*友平/*小綱/*友若/*猿太郎、カケ合 鶴尾・和泉・源路・小富・三滝=*友之助/*友造）、桔梗ヶ原のだん（口嶋=*勝平//相生=*団六、奥駒=*燕四）、景勝下駄のだん（源=*勝市）、山本勘助物語りのだん（切津=*友治郎）、景勝上使のだん（町=*錦糸//淀=*歌助）、十種香のだん（切伊達=*吉三郎・ツレ *勝平・琴 *兵市）。 ※「二十三日間」（『義太夫年表 大正篇』）。	手弱御前（玉七）、三郎景勝（玉治郎）、村上義清（玉八）、武田信玄（玉徳）、賤の方（文作）、弟慈悲蔵後二直江山城守（栄三）、こし元八ツ橋後二女房お種（文五郎）、斎藤道三後二関兵衛（辰五郎）、兄横蔵後二山本勘助（文三）、上杉謙信（琴糸）、武田勝頼（玉蔵）、明神の蓑作（簗助）、板垣兵部（玉七）、こし元濡衣（政亀）、妻唐織（玉七）、妻入江（簗助）、高坂弾正（政亀）、越名弾正（玉松）、勘助母（辰五郎）、八重垣姫（栄三）。
△	一九二三	大正12	名古屋 御園座	（本朝廿四孝 大序より 狐火まで）	大序 足利大広間（辻子、播路=叶太郎、友吉、団伊三）、桔梗ヶ原（越登・和泉=八造・広太郎）、景勝下駄（静=吉弥）、勘助家（津=友治郎）、十種香より狐火（八重垣姫一叶・勝頼一町・濡衣一和泉・静・播路=広助改め 絃阿弥・琴 叶太郎）。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	慈悲蔵後に直江山城守（政亀）、横蔵後に山本勘助（玉蔵）、上杉謙信（琴糸）、武田勝頼（政亀）、濡衣（玉七）、妻唐織（玉七）、高坂弾正（玉松）、越名弾正（辰五郎）、女房お種（文五郎）、早替り 八重垣姫（玉蔵）。



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二四	大正13	1/1~16	京都 新京極文楽座	本朝廿四孝 諏訪明神より 十種香の段まで	諏訪明神のだん（口 亀久=団二郎、奥 越登=八造）、桔梗ヶ原のだん（口 辰=宗吉、奥 鏡=友之助）、三郎景勝下駄のだん（嶋=吉作）、山本勘助物語のだん（切 静=吉弥）、十種香のだん（切 鏡=新左衛門・ツレ 吉作・琴 団二郎）。	三郎景勝（兵十郎）、慈悲蔵后二直江山城守（簗助）、斎藤道三（光造）、兄横蔵后二山本勘助（辰五郎）、上杉謙信（辰五郎）、簗作・武田勝頼（小兵吉）、板垣兵部（三郎）、こし元濡衣（紋太郎）、妻唐織（紋太郎）、妻入江（簗助）、高坂弾正（兵十郎）、越名弾正（兵松）、女房お種（小兵吉）、母越路（三郎）、八重垣姫（文五郎）。
△	一九二四	大正13	2/28	竹本伊達太夫宅	（本朝廿四孝） 桔梗原（雀）。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/17	京都 南 座	（廿四孝） 桔梗ヶ原（つばめ=友衛門）。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九二四	大正13	12/6~	京都 新京極文楽座	本朝廿四孝 四段目	御殿より狐火まで（八重垣姫一越登・勝頼一和泉・濡衣一越名・謙信一鏡・白須賀一長子・原一弥生=仙糸・ツレ 吉五郎・清丸、此の所吉田文五郎人形出遣ひ早替りにて御覧に入れ申候）。	謙信（兵十郎）、武田勝頼（紋太郎）、濡衣（文之助）、八重垣姫（文五郎）。
一九二五	大正14	1/2~	御霊文楽座	本朝廿四孝 大序より 狐火まで	大序 足利大広間のだん（弥代、春若、津矢、伊達喜、駒尾、駒登、照、淀路、浜子、播路=*勝造）、誓願寺のだん（陸路/千駒/辰/源福=*友作）、諏訪明神のだん（口 千駒=*友衛門//辰=*玉勝、奥カケ合 鶴尾・富・源路・越名・千駒=*友造）、武田信玄館のだん（中 越穂=*猿二郎//三滝=*友若、次 相生=*友平、切 叶=*叶）、桔梗ヶ原のだん（口 嶋=*浅造、奥 八十=*団六）、景勝下駄のだん（駒=*才治）、山本勘助物語のだん（切 古鞆=清六）、景勝上使のだん（相生=*八助）、鉄砲渡しのだん（嶋=*広太郎）、十種香のだん（切 土佐=*吉三郎・ツレ *勝平・琴 *兵市）。 ※「二十四日間」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※豊竹古鞆太夫風邪の為、2日間「山本勘助物語のだん」前半を竹本八十太夫が代演（『義太夫年表 大正篇』に拠る）。	手弱御前（文作）、北條氏時（玉八）、長尾三郎景勝（玉松）、村上義清（玉幸）、武田信玄（玉徳）、賤の方（玉米）、弟慈悲蔵后二直江山城守（政亀）、こし元八橋後二女房お種（栄三）、斎藤道三後二関兵衛（玉次郎）、兄横蔵后二山本勘助（文三）、上杉謙信（琴糸）、花造り簗作実ハ武田勝頼（玉蔵）、武田勝頼（扇太郎）、板垣兵部（冠四）、こし元濡衣（玉七）、妻唐織（玉七）、妻入江（扇太郎）、高坂弾正（玉徳）、越名弾正（玉幸）、母越路（玉次郎）、八重垣姫（栄三）。
△	一九二五	大正14	1/27	竹本伊達太夫宅	（本朝廿四孝） 桔梗原（駒登=叶七）。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
一九二五	大正14	5/15~	京都 新京極文楽座	本朝廿四孝 諏訪明神より 十種香の段迄	諏訪明神のだん（鷹=友吉、吉貞、六之助、かけ合 越登・陸路・長子・亀久=猿二郎）、桔梗ヶ原のだん（口 浜子=新吉、奥 越穂=八助）、三郎景勝下駄のだん（相生=清二郎）、山本勘助物語りのだん（切 静=吉弥）、鉄砲渡しのだん（浜子=新吉）、十種香のだん（切 鏡=新左衛門・ツレ 友之助・琴 新之助）。	三郎景勝（兵十郎）、慈悲蔵（簗助）、斎藤道三（光造）、兄横蔵実ハ山本勘助（辰五郎）、上杉謙信（小兵吉）、簗作・武田勝頼（紋太郎）、板垣兵部（兵三）、こし元濡衣（文之助）、妻唐織（紋太郎）、妻入江（文之助）、高坂弾正（冠造）、越名弾正（兵松）、女房お種（文五郎）、母越路（冠造）、八重垣姫（文五郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二五	大正14	7/5~10	御霊文楽座	(本朝廿四孝) 大序から四段目まで。 ※第4回向上会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二五	大正14	7/8~9	神戸 松竹劇場	(本朝廿四孝) 桔梗原(鏡=友衛門)、下駄場(静=吉弥)、勘助(古靱=清六)、十種香(土佐=吉三郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
	一九二五	大正14	7/18~19	名古屋 御園座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原のだん(口 浜子=勝造、奥 鏡=友衛門)、景勝下駄のだん(静=吉弥)、山本勘助物語りのだん(切 古靱=清六)、景勝上使のだん(越名=団二郎)、十種香のだん(切 土佐=吉三郎・ツレ 友衛門・琴 団二郎)。	三郎景勝(玉幸)、慈悲蔵后ニ直江山城守(玉松)、花造り関兵衛(玉七)、兄横蔵后ニ山本勘助(玉蔵)、上杉謙信(辰五郎)、花造り蓑作・武田勝頼(玉次郎)、濡衣(政亀)、妻唐織(扇太郎)、妻入江(簗助)、高坂弾正(文作)、越名弾正(玉徳)、お種(文五郎)、母越路(辰五郎)、八重垣姫(栄三)。
	一九二五	大正14	7/26~29	東京 歌舞伎座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段(口 浜子=勝造、奥 鏡=友衛門)、景勝下駄の段(静=吉弥)、勘助物語の段(切 古靱=清六)、鉄砲渡しの段(越名=団二郎)、十種香の段(切 伊達改め 土佐=吉三郎・ツレ 友衛門・琴 団二郎、此処人形出遣ひ早替にて御覧に入申候)。	三郎景勝(玉幸)、慈悲蔵実ハ直江山城守(玉松)、花作関兵衛(玉七)、兄横蔵実ハ山本勘助(玉蔵)、長尾謙信(辰五郎)、花作蓑作・武田勝頼(玉次郎)、濡衣(政亀)、妻唐織(扇太郎)、妻入江(簗助)、高坂弾正(文作)、越名弾正(玉徳)、女房お種(文五郎)、母越路(辰五郎)、八重垣姫(栄三)。
△	一九二五	大正14	8/18	中座	(本朝廿四孝) 十種香(越登=浅造)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九二五	大正14	9/17~19	京都 南座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より狐火まで 桔梗ヶ原のだん(口 浜子=団伊三、奥 鏡=友若)、景勝下駄のだん(相生=浅造)、山本勘助物語りのだん(切 静=吉弥)、鉄砲渡しのだん(越登=団二郎)、十種香のだん(切 土佐=吉三郎・ツレ 浅造・琴 団二郎、此処人形出遣イ早替りにて御覧に入れ申候 吉田栄三)。	三郎景勝(玉幸)、慈悲蔵後に直江山城守(玉松)、兄横蔵後に山本勘助(玉蔵)、上杉謙信(辰五郎)、武田勝頼(玉次郎)、腰元濡衣(政亀)、妻唐織(扇太郎)、妻入江(簗助)、高坂弾正(玉市)、越名弾正(玉徳)、お種(文五郎)、母越路(辰五郎)、八重垣姫(栄三)。
	一九二五	大正14	10/1~	中座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より狐火まで 桔梗ヶ原のだん(口 長子/三滝/富/源路、奥 八十)、景勝下駄のだん(駒)、山本勘助物語りのだん(切 叶)、景勝上使のだん(鏡/嶋)、十種香のだん(切 土佐=*吉三郎)。 ※「二十日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	三郎景勝・長尾景勝(景勝下駄・景勝上使=玉幸、十種香=辰五郎)、弟慈悲蔵後ニ直江山城守(玉松)、花造り関兵衛(松江)、兄横蔵后ニ山本勘助(玉蔵)、長尾謙信(辰五郎)、花造り蓑作・武田勝頼(玉次郎)、濡衣(政亀)、妻唐織(簗助)、妻入江(扇太郎)、高坂弾正(玉徳)、越名弾正(玉幸)、女房お種(文五郎)、母越路(辰五郎)、八重垣姫(栄三)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二五	大正14	11/8	野沢吉弥宅	(本朝廿四孝) 十種香(稲丸=吉芳)。 ※第3回研究会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	1/29	京都 京都座	(廿四孝) 十種香(越名=友衛門)。 ※文楽座・竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。竹本文字太夫襲名披露興行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	1/30	竹本伊達太夫宅	(本朝廿四孝) 下駄場(常子)。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	11/5	文具倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香(八重垣姫一薫・謙信一栄・原一雛女・白須賀一近・濡衣一春次・勝頼一雛子=団伊三・ツレ 力丸・琴 龍二郎)。 ※近松会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二七	昭和2	3/1~23	弁天座	本朝廿四孝 大序より 四段目迄 大序 足利大広間の段(春若、静尾、駒司、三津、文字登、源左、源喜、源賀、長、武蔵、源平、叶美、常子、源子、小松、鷹、伊達喜、照、弥生、駒尾、駒登、淀路=稲丸、他)、誓願寺の段(播路/亀久/陸路/長子/干駒/辰/源福=友作、他)、諏訪明神の段(口 亀久/干駒/三滝=猿二郎/寛市/叶太郎、奥 かけ合 鶴尾・綾・富・源路・越穂=広太郎/綱右衛門/清二郎)、桔梗ヶ原の段(口 鏡/島/相生=友造/友平/浅造/友若/猿太郎/友衛門、奥 角=猿糸)、景勝下駄の段(文字=勝平)、山本勘助住家の段(切 源=仙糸、切 叶=叶)、景勝上使の段(和泉/町=友衛門/八助)、十種香の段(切 朝=松太郎・ツレ 団六・琴 団二郎)。 ※千種楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	手弱御前(玉米)、長尾三郎景勝(玉幸)、村上義清(玉市)、武田信玄(兵十郎)、賤の方(文之助)、弟慈悲蔵後に直江山城守(玉松)、花造関兵衛実は斎藤道三(兵十郎)、兄横蔵後に山本勘助(栄三)、上杉謙信(門造)、花造り蓑作実は武田勝頼(紋十郎)、板垣兵部(冠四)、こし元濡衣(政亀)、妻唐織(玉七)、妻入江(扇太郎)、高坂弾正(玉徳)、越名弾正(門造)、女房おたね(紋十郎)、母越路(小兵吉)、八重垣姫(文五郎)。
			3/23		本朝廿四孝 大序より 十種香迄 桔梗ヶ原(鏡、島、相生、角)、勘助住家(源、叶)、景勝上使(和泉、町)、十種香(朝=松太郎)。 ※奥丹後大地震義捐興行。 ※「大阪毎日新聞」大阪版(3月20日)、「大阪朝日新聞」(3月23日)に拠る。	
△	一九二七	昭和2	3/27	名古屋 御園座	(本朝二十四孝) 十種香の段(越名)。 ※「新愛知」(3月27~28日)、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九二七	昭和2	7/3~4	京都 南座	(本朝廿四孝 大序より 狐火まで) 足利館の段(伊達喜、隅栄=市之助)、桔梗ヶ原の段(口 伊達喜、隅栄=勝三郎、奥 鏡=綱右衛門)、景勝下駄の段(つばめ=勝市)、山本勘助住家の段(大隅=道八)、鉄砲渡しの段(播路、辰=叶太郎)、十種香の段(土佐=吉兵衛・ツレ 友衛門・琴 叶太郎)。 ※『昭和の南座』、「大阪朝日新聞」京都滋賀版(6月30日・7月3日の記事、7月5日の広告)、「京都日出新聞」(7月4日)に拠る。	
			7/11~12	神戸 八千代座	※「神戸新聞」(7月8日の広告)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		7/18~19	名古屋 新守座	(本朝廿四孝)	桔梗ヶ原の段(鏡=綱右衛門)、景勝下駄の段(つばめ=勝市)、山本勘助住家の段(大隅=道八)、十種香より狐火まで(土佐=吉兵衛)。 ※「新愛知」(7月11~20日の記事、7月13~18・20日の広告)に拠る。	(不明)	
		7/23	豊橋 東雲座	(本朝二十四孝)	桔梗ヶ原の段、景勝下駄の段、山本勘助住家の段(つばめ、相生)、十種香の段(綴)。 ※大阪文楽座巡業(7月1~23日、近畿・東海)の内。 ※「参陽新報」(7月19~21日)、「豊橋新報」(7月20~23日)、「豊橋日日新聞」(7月20~22日の広告)に拠る。	(不明)	
△	一九二七	昭和2	12/14	下関 弁天座	(本朝廿四孝)	※大阪文楽座巡業(12月1~16日、九州・中国)の内。 ※『文楽興行記録昭和篇』他に拠る。	
△	一九二七	昭和2	12/12	東京 宮戸座	(廿四孝)	狐火(津賀=猿之助)。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	
	一九二八	昭和3	1/2~8	京都 南座	本朝廿四孝 諏訪明神より 狐火まで	諏訪明神の段(かけ合辰・長子・播路・淀路=団伊三・新作)、桔梗ヶ原の段(口源路=猿二郎、奥相生=友衛門)、景勝下駄の段(文字=勝平)、山本勘助住家の段(切源=仙糸)、鉄砲渡しの段(和泉=綱右衛門)、十種香の段(切朝=猿糸・ツレ友之助/八助・琴勝三郎)。 ※千種楽は「京都日出新聞」(1月8日)、『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	長尾三郎景勝(玉徳)、弟慈悲蔵後に直江山城守(玉松)、斉藤道三・花造関兵衛実(齊藤道三(兵十郎)、兄横蔵後に山本勘助(栄三)、長尾謙信(玉次郎)、武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(政亀)、妻唐織(玉七)、妻入江(文之助)、高坂弾正(門造)、越名弾正(玉幸)、女房お種(紋十郎)、母越路(小兵吉)、娘八重垣姫(文五郎)。
△	一九二八	昭和3	3/4~6	神戸 八千代座	(本朝二十四孝)	桔梗ヶ原の段(鏡=友之助)、十種香の段(切綴=新左衛門・ツレ友衛門・琴新之助)。 ※「神戸新聞」(2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告)に拠る。	勝頼(万次郎)、濡衣(小兵吉)、八重垣(紋十郎)。
			3/16	名古屋 御園座	(本朝廿四孝)	桔梗ヶ原の段(相生=芝之助)、十種香の段(綴=新左衛門)。 ※大阪文楽座巡業(3月1~20日、神戸・名古屋・広島)の内。 ※『御園座七十年史』に拠る。	慈悲蔵(玉松)、勝頼(扇太郎)、濡衣(小兵吉)、八重垣姫(紋十郎)。
△	一九二八	昭和3	6/24	神戸 八千代座	(廿四孝)	桔梗ヶ原(長=小庄)。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(6月23~25日の記事、6月23~26日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	7/12~16	東京 新橋演舞場	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで	桔梗ヶ原の段(口播路/辰=団伊三、奥越名=友衛門)、十種香の段(切朝=松太郎・ツレ芳之助・琴勝三郎)。	弟慈悲蔵(小兵吉)、武田勝頼(扇太郎)、こし元濡衣(政亀)、妻唐織(紋太郎)、妻入江(光之助)、高坂弾正(玉幸)、越名弾正(玉徳)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九二八	昭和3	8/17	浪花 花座	本朝廿四孝	十種香の段(八重垣姫一越名・勝頼一つばめ・謙信一相生・濡衣一島・白須賀+原小文治一和泉=友衛門)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二八	昭和3	9/1~7	京都 南座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで	桔梗ヶ原の段（口長＝福太郎、奥相生＝芳之助）、鉄砲渡しの段（播路＝勝三郎）、十種香の段（切鋸＝新左衛門・ツレ友衛門・琴小庄／新之助）。	弟慈悲蔵（市松）、花造り関兵衛（兵十郎）、長尾謙信（門造）、武田勝頼（扇太郎）、こし元濡衣（政亀）、妻唐織（光之助）、妻入江（文之助）、高坂弾正（玉市）、越名弾正（玉幸）、八重垣姫（文五郎）。
△	一九二八	昭和3	12/15	東京 三越ホール	（本朝廿四孝） 十種香の段（都＝新造）。 ※第2回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第300号、『浄瑠璃雑誌』第275号に拠る。	
一九二九	昭和4	1/5~7	神戸 八千代座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで	桔梗ヶ原の段（源路＝勝三郎//越名＝友衛門）、景勝上使の段（文字＝勝平）、十種香の段（切朝＝猿糸・ツレ清二郎・琴福太郎／小庄）。	長尾景勝（文作）、弟慈悲蔵（扇太郎）、花造り関兵衛（兵十郎）、長尾謙信（門造）、花造り簀作・武田勝頼（扇太郎）、こし元濡衣（玉七）、妻唐織（紋太郎）、妻入江（文之助）、高坂弾正（玉市）、越名弾正（玉幸）、娘八重垣姫（栄三）。
一九二九	昭和4	1/19~20	名古屋 御園座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで	桔梗ヶ原の段（源路＝勝三郎//越名＝友衛門）、景勝上使の段（文字＝勝平）、十種香の段（切朝＝猿糸・ツレ清二郎・琴福太郎／小庄）。	長尾景勝（文作）、弟慈悲蔵（扇太郎）、花造り関兵衛（兵十郎）、長尾謙信（門造）、花造り簀作・武田勝頼（扇太郎）、こし元濡衣（玉七）、妻唐織（紋太郎）、高坂弾正（玉市）、越名弾正（玉幸）、娘八重垣姫（栄三）。
△	一九二九	昭和4	1/25	豊橋 東雲座	（本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで） 桔梗ヶ原の段、景勝上使の段、十種香の段。 ※「参陽新報」（1月20~25日の記事、1月22・24日の広告）、「新朝報」（1月16・20~25日の記事、1月22・24日の広告）、「豊橋新報」（1月16・19~20・22・24~25日の記事、1月23~24日の広告）、「豊橋日日新聞」（1月16・20・22~23・25日の記事、1月22・24日の広告）に拠る。	
△	一九二九	昭和4	3以前	東京 報知新聞社講堂	（本朝廿四孝） 諏訪明神の段（米子）、百度石の段（米如）、馬草苺の段（米喜）、捨子の段（扇賀）、桔梗ヶ原の段（近衛）、下駄場の段（巴磨）、勤助住家の段（さの）、景勝上使の段（朝見）、十種香より狐火まで（津賀）。 ※人形芝居設立記念公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第278号に拠る。	長尾景勝（玉徳）、慈悲蔵（新三郎）、道三・関兵衛（玉蔵）、横蔵（新造）、謙信（玉蔵）、簀作・勝頼（新三郎）、兵部（小伊三郎）、濡衣（豊太郎）、唐織（徳三郎）、入江（豊太郎）、高坂弾正（玉徳）、越名（兵松）、お種（小兵吉）、勤助母（小伊三郎）、八重垣姫（小兵吉）。
△	一九二九	昭和4	2/5	岡山 岡山劇場	（本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで） 桔梗ヶ原の段（源路＝勝三郎、越名＝友衛門、切文字＝勝平）、景勝上使の段（鏡＝吉左）、十種香の段（中朝＝猿糸）。 ※「山陽新報」（1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告）に拠る。	（不明）
		2/7	広島 寿座	（本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 奥庭まで） 十種香（朝＝猿糸）。 ※大阪文楽座巡業（2月4~22日、中国・九州）の内。 ※「中国新聞」（2月7~8日の記事、2月5~8日の広告）に拠る。	（栄三）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	4/6	浅草 並木倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香より狐火の段(八重垣姫一和国・武田勝頼+原小文治一生駒・腰元濡衣+白須賀六郎一巖・上杉謙信一君=紋左衛門・琴 紋三郎・ツレ引 幸太郎)。 ※浄瑠璃研究会・歌声会春季合同大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第278号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	10/6	東京 並木倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香。 ※歌声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	10/8	朝日会館	(本朝二十四孝) 十種香の段(八重垣姫一角・勝頼一源・濡衣一町・六郎一鶴尾・小文治一綾・謙信一時=友次郎)。 ※竹本撰津大掾十三回忌追善浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	10/10	東京 三越ホール	(廿四孝) 十種香より狐火まで(掛合)。 ※第10回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	6/5~26	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 狐火まで 桔梗ヶ原の段(高坂弾正一駒・越名弾正一文字・妻唐織一町/鏡・妻入江一源路/文・慈悲蔵一長尾/貴鳳・草苺奴一長子・亀久=勝平/重造)、景勝下駄の段(つばめ=勝市)、勘助住家の段(鑿=新左衛門)、勘助物語の段(大隅=道八)、十種香の段(土佐=吉兵衛)、狐火の段(南部=吉弥・ツレ 友平/綱右衛門/清二郎・琴 勝三郎/団二郎)。	長尾三郎景勝(玉幸)、弟慈悲蔵後に直江山城守(玉松)、兄横蔵後に山本勘助(栄三)、長尾謙信(門造)、花造り衰作実は武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(政亀)、妻唐織(光之助)、妻入江(文之助)、高坂弾正(玉徳)、越名弾正(玉市)、女房お種(紋十郎)、母越路(小兵吉)、娘八重垣姫(文五郎)。
△	一九三〇	昭和5	7/24	聖天山下竹本 土佐太夫宅	(二十四孝) 桔梗ヶ原(土佐子=福太郎)。 ※第2回大序会。 ※『浄瑠璃雑誌』第294号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8/25	東京 東京劇場	本朝廿四孝 十種香の段(鑿=新左衛門)。 ※素浄瑠璃。	
	一九三〇	昭和5	10/22~25	名古屋 御園座	本朝廿四孝 十種香の段(越名改め 南部=吉弥・ツレ 吉左・琴 勝芳/吉貞)。 ※10月23日「十種香」NHK名古屋ラジオ中継(『文楽興行記録昭和篇』に拠る)。	長尾謙信(玉治郎)、武田勝頼(扇太郎)、こし元濡衣(小兵吉)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三一	昭和6	4/4	広島 豊屋町演舞場 〈竹本座〉	(本朝廿四孝) 十種香(角=新造)。 ※竹本角太夫一行巡業(4月3~12日、広島・博多)の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/3~4	京都 南座	本朝廿四孝 十種香の段(切 鑿=新左衛門・ツレ 歌助/友之助・琴 新之助)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(文五郎)。
	一九三一	昭和6	7/15~17	東京 明治座	本朝廿四孝 十種香の段(切 土佐=吉兵衛・ツレ 芳之助・琴 福太郎)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(扇太郎)、こし元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(文五郎)。
	一九三一	昭和6	8/1~19	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(小春=団六・ツレ 団二郎・琴 友駒)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(紋十郎)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三一	昭和6	10/8	広島 寿座	(本朝二十四孝) 十種香の段(小春=団六)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(10月1~18日、九州・中国・四国)の内。10月12日松山・国伎座、16日徳島・稲荷座で同公演あり。 ※「中国新聞」(10月2・9~10日の記事、10月2・6・8日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第306号、「海南新聞」(10月8・13日)、「大阪朝日新聞(徳島版)」(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15~17日)に拠る。	(不明)
△	一九三二	昭和7	1/22	堺 聚楽館 〈竹本座〉	(本朝廿四孝) 十種香(薫=新造)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九三二	昭和7	5/7~9	東京 東京劇場	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段(口播路=団伊三、奥呂=叶)、景勝下駄の段(つばめ=仙糸)、山本勘助物語の段(切大隅=道八)。	長尾三郎景勝(門造)、弟慈悲蔵・直江山城守(扇太郎)、兄横蔵・山本勘助(玉松)、妻唐織(文作)、妻入江(紋太郎)、高阪弾正(光之助)、越名弾正(玉市)、女房お種(紋十郎)、母越路(小兵吉)。
△	一九三二	昭和7	5/4 5/7	名古屋 御園座	(本朝廿四孝) 十種香(小春=団六)。 桔梗ヶ原(さの=新太郎)。 ※竹本鏗太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九三二	昭和7	7/8	姫路 山陽座 〈竹本座〉	(本朝廿四孝) 十種香(八重垣一敷島・濡衣一滝・勝頼一正・謙信一鷹・白須賀十原一春香=助三郎・新三郎・琴竜二郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/2	広島 寿座	(本朝廿四孝) 十種香(南部=吉左・ツレ福太郎・琴勝芳)。 ※大阪文楽座若手連巡業(12月1日~、広島・九州)の内。 ※「中国新聞」(11月27日の記事、11月23・30日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/13	四ツ橋文楽座	(本朝廿四孝) 十種香(町=歌助)。 ※英彦山国立公園運動寄附公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号に拠る。	
	一九三三	昭和8	1/17~	新世界通天閣 東入演舞場 〈竹本座〉	本朝廿四孝 諏訪明神の段(生島=竜吉)、桔梗ヶ原の段(錦江=富平、滝=新吉)、景勝下駄場の段(敷島=新三郎)、横蔵住家の段(鷹=団弥)、勘助物語の段(大島=新造)、景勝上使の段(春香=勝重)、十種香の段(八重垣姫一薫・勝頼一敷島・濡衣一滝・謙信一鷹・原小文治一弥国・白須賀六郎一錦江=助三郎)。 ※「大阪毎日新聞」(1月18日)には初日は18日とある。	景勝(冠造)、慈悲蔵(多三郎)、関兵衛(義孝)、横蔵(冠造)、謙信(長五郎)、養作実(勝頼(茂明)、濡衣(兵二郎)、唐織(寅市)、入江(兵二郎)、高阪弾正(多三郎)、槍弾正(茂明)、お種(徳三郎)、横蔵母(義孝)、八重垣姫(徳三郎)。
△	一九三三	昭和8	2/18	鶴橋劇場 〈竹本座〉	(本朝廿四孝) 勘助(大島)。 ※竹本座巡業(2月1~19日、大阪)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
	一九三三	昭和8	5/1~21	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(切土佐=吉兵衛・ツレ清二郎/吉左・琴団二郎)。	上杉謙信(門造)、武田勝頼(紋十郎)、腰元濡衣(小兵吉)、娘八重垣姫(文五郎)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三三	昭和8	高知 堀詰座	(二十四孝)	桔梗ヶ原(土佐子=市松)。 (廿四孝) 十種香(小春=重造・ツレ 団二郎・琴 勝芳)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22~26日、高知)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
	一九三三	昭和8	7/1~3 東京 東京劇場	本朝廿四孝	桔梗ヶ原の段(口 宮=吉貞、奥 つばめ=仙糸)、十種香の段(切 鑿=新左衛門)、狐火の段(南部=吉弥・ツレ 清二郎・琴 団二郎)。	慈悲蔵(玉松)、長尾謙信(門造)、武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(小兵吉)、妻唐織(光之助)、妻入江(文作)、高阪弾正(玉次郎)、越名弾正(玉幸)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三三	昭和8	7/24~25カ 神戸 松竹劇場	(本朝廿四孝)	十種香から狐火の段(小春)。 ※『松竹百年史』、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(不明)
	一九三三	昭和8	8/18~20 京都 南座	本朝廿四孝	十種香より狐火まで(小春=団二郎・ツレ 勝芳・琴 仙三郎)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(扇太郎)、腰元濡衣(小兵吉)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三三	昭和8	8/19 紀州田辺 常磐座	(二十四孝)	十種香(津喜=猿若)。 ※「紀伊新報」(8月12日)、『浄瑠璃雑誌』第326号に拠る。	
	一九三三	昭和8	12/4~6 東京 歌舞伎座	本朝廿四孝	十種香の段(切 鑿=新左衛門)、狐火の段(小春=綱右衛門・ツレ 友駒・琴 市松)。	上杉謙信(門造)、武田勝頼(玉幸)、濡衣(小兵吉)、八重垣姫(文五郎)。
△	一九三四	昭和9	2/14 東京 三越ホール	(廿四孝)	十種香より狐火迄(掛合)。 ※第37回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
	一九三四	昭和9	5/1~ 四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原より 十種香の段迄	桔梗ヶ原の段(口 播路=団伊三//千駒=八造//辰=団二郎、奥 つばめ=仙糸//呂=叶//相生=重造)、景勝下駄の段(文字=勝平)、山本勘助住家の段(切 古鞠=清六)、十種香より狐火まで(娘八重垣姫一小春・武田勝頼一役毎日替 相生/つばめ・こし元濡衣一役毎日替 つばめ/相生・白須賀六郎一和泉・原小文治一呂・長尾謙信一長尾=友次郎・ツレ 仙糸・琴 友駒)。	長尾三郎景勝(玉幸)、弟慈悲蔵後に直江山城守(玉松)、兄横蔵後に山本勘助(栄三)、長尾謙信(玉次郎)、武田勝頼(栄三)、腰元濡衣(文五郎)、妻唐織(扇太郎)、妻入江(光之助)、高阪弾正(門造)、越名弾正(玉市)、女房お種(文五郎)、母越路(小兵吉)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九三四	昭和9	8/1~2 東京 歌舞伎座	本朝廿四孝	十種香の段(武田勝頼一大隅・娘八重垣姫一小春・こし元濡衣一和泉・長尾謙信一相生・白須賀六郎一津の子・原小文治一宮=道八・ツレ 友衛門/吉左・琴 団二郎)。	謙信(玉次郎)、勝頼(文五郎)、濡衣(政亀)、八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三四	昭和9	8/27~29 朝日会館	(本朝廿四孝)	※女流義太夫の公演に文楽座人形陣が出演。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	八重垣(栄三)。
△	一九三四	昭和9	9/13 東京 歌舞伎座前木 村屋別館	(本朝廿四孝)	十種香(巴=文之助)。 ※鶴沢司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
	一九三四	昭和9	10/16~ 戎座 <竹本座>	本朝廿四孝 四段目	鉄砲渡しの段(春香=勝童)、十種香の段(切 角=新造・ツレ 新三郎・琴 竜二郎)、小手返しの段(生島=団弥)。	北条氏時(鶴太郎)、花作関兵衛(兵松)、長尾謙信(喜昇)、蓑作(兵吉)、武田勝頼(兵吉)、腰元濡衣(武夫)、八重垣姫(徳三郎)。
△	一九三五	昭和10	2/24~26 神戸 松竹劇場	(本朝廿四孝)	十種香より狐火まで。 ※「神戸新聞」(2月24日の記事と広告)に拠る。	(不明)



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三五	昭和10	6/4	博多大博劇場	(本朝二十四孝) 景勝下駄の段(つばめ=猿糸)、山本勘助住家の段(切古靱=重造)、十種香より狐火まで(南部=吉左・ツレ綱治・琴重次郎)。 ※豊竹古靱太夫一行巡業(5月28日~6月14日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	(不明)
	一九三五	昭和10	7/5~8	東京明治座	本朝廿四孝 十種香の段(切鏝=新左衛門)、狐火の段(後南部=吉弥・ツレ友衛門・琴綱治)。 ※6日は休演。	長尾謙信(玉幸)、武田勝頼(扇太郎)、こし元濡衣(小兵吉)、娘八重垣姫(文五郎)。
	一九三五	昭和10	9/23~24	京都南座	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(八重垣姫-南部・勝頼-つばめ・濡衣-小春・謙信-相生・白須賀六郎-辰・原小文治-隅栄=友次郎・ツレ猿糸・琴友駒)。	長尾謙信(玉次郎)、武田勝頼(玉幸)、濡衣(小兵吉)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九三五	昭和10	10/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(八重垣姫-南部・武田勝頼-つばめ・こし元濡衣-呂・長尾謙信-相生・白須賀六郎-辰/千駒・原小文治-小松/津の子=芳之助改め弥三郎・ツレ鶴太郎・琴綱治)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(玉幸)、腰元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九三五	昭和10	10/26	御影公会堂	本朝廿四孝 十種香の段より狐火の段まで(小春=芳之助改め弥三郎、源路=喜代之助・ツレ鶴太郎・琴綱治)。	長尾謙信(玉次郎)、武田勝頼(玉幸)、腰元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三五	昭和10	11/28	岡山岡山劇場	(本朝廿四孝 桔梗ヶ原より狐火まで) 桔梗ヶ原の段(口小松=新太郎、奥呂=友衛門)、景勝下駄の段(つばめ=猿糸)、山本勘助住家の段(切古靱=重造)、十種香の段(切鏝=新左衛門)、狐火の段(小春=弥三郎・団二郎・綱治)。 ※大阪文楽座巡業(11月27日~12月8日、岡山・名古屋・豊橋)の内。 ※「山陽新報」(11月23・26~29日)に拠る。	(不明)
△	一九三五	昭和10	12/5	東京並木倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香(相模=司好)。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	4/2~3	名古屋御園座	(本朝廿四孝) 十種香より狐火まで(鏝=新左衛門・ツレ新太郎・琴猿若)。 ※大阪文楽座巡業(4月2日~、東海)の内。 ※「新愛知」(3月26・28~29日・4月1~3・5・7日の記事、3月27・30~31日・4月1・6日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	(不明)
△	一九三六	昭和11	4/15~17	神戸松竹劇場	(本朝廿四孝) 十種香より狐火まで(切駒=清二郎・ツレ友駒・琴市松)。 ※「神戸新聞」(4月9・12・15~16日の記事、4月10・15日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	謙信(門造)、勝頼(玉幸)、濡衣(光之助)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九三六	昭和11	7/31~8/2	東京歌舞伎座	本朝二十四孝 十種香より狐火まで(娘八重垣姫-小春改め伊達・武田勝頼-相生・こし元濡衣-源路・長尾謙信-長尾・白須賀六郎-陸路・原小文治-播路=友次郎・ツレ寛市・琴友駒)。	長尾謙信(玉徳)、武田勝頼(玉幸)、こし元濡衣(文作)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三六	昭和11	10/10	釜山釜山劇場<新義座>	(本朝廿四孝) 十種香の段。 ※大阪文楽新義座巡業(10月10日~12月、満州・九州・中国・四国)の内。乙女人形入。 ※「大阪朝日新聞(朝鮮版)」(10月6日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三七	昭和12	2/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝	十種香の段（駒＝清二郎）、狐火の段（伊達＝友次郎・ツレ 友衛門・琴 鶴太郎／友駒）。 ※『浄瑠璃雑誌』第357号に拠る人形小割は次の通り。勝頼の左は吉田多三郎、足は吉田玉昇、濡衣の左は吉田玉七、足は吉田文枝、八重垣姫の左は吉田玉米、足は桐竹紋司。	長尾謙信（玉徳）、武田勝頼（玉幸）、こし元濡衣（政亀）、娘八重垣姫（紋十郎）。	
△	一九三七	昭和12	3/25	山口 山 口 座	（本朝廿四孝）	十種香より狐火まで。 ※竹本鏗太夫一行巡業（3月23日～、山口・広島）の内。 ※「防長新聞」（3月24日）、『浄瑠璃時報』第180号に拠る。	（不明）
△	一九三七	昭和12	3/28	四ツ橋文楽座	（廿四孝）	十種香（角＝吉季）。 ※故毛受辰蔵（輝頭）氏追善浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第358・359号、『浄瑠璃時報』第180号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/2	東京 飛行会館	（本朝廿四孝）	十種香（浪花＝猿三郎）。 ※日本帝都義太夫因会春季公演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、『浄瑠璃時報』第179号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/16	飯田市 大 松 座 〈新義座〉	（本朝廿四孝）	十種香（南部＝勝平）。 ※大阪新義座巡業（4月4～28日、東海・関東）の内。乙女人形入。4月20日名古屋・中座、4月26日静岡・若竹座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	5/5	東京 帝国ホテル演 舞場 〈新義座〉	（本朝廿四孝）	十種香（南部＝勝平・勝芳）。 ※「帝国ホテル演芸場にての公演直前、竹本南部太夫は盲腸炎を患って手術を受けたが、経過は良好で五月十三日退院」（『義太夫年表 昭和篇』）。 ※『浄瑠璃時報』第182号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	5/19	新町演舞場	（本朝廿四孝）	十種香の段（武田勝頼一照・腰元濡衣一駒若・白須賀六郎＋原小文治一隅若・上杉謙信一辰・八重垣姫一源＝叶太郎）。 ※鶴沢綱右衛門追善会。 ※『浄瑠璃雑誌』第361号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	6/29	大垣 日 吉 座 〈新義座〉	（本朝廿四孝）	狐火（南部＝勝平・他）。 ※大阪新義座巡業（6月1日～末、関東・東北・北海道・上越・北陸・東海）の内。乙女人形入。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	11/17	大紙倶楽部 〈竹本座〉	（本朝二十四孝）	四段目 十種香より狐火まで（角＝新造・ツレ 竜市）。 ※第1回昭和会。吉田光子人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第366号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	11/22	徳島 徳島温泉劇場 〈新義座〉	（本朝二十四孝）	（津磨）。 ※大阪新義座巡業（11月22日～12月1日、四国）の内。乙女人形入。 ※「徳島毎日新聞」（11月15・19～22日の記事、11月20日の広告）に拠る。	
△	一九三七	昭和12	11/28	京都 京都朝日会館	（本朝二十四孝）	十種香の段（伊達＝重造）。 ※古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（11月12・19日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三八	昭和13	2/21~23	京都 弥栄会館	(本朝廿四孝) 十種香の段(呂=叶)、狐火の段(源=重造・ツレ 吉左)。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「京都日出新聞」(2月12・18・20~21・23日)、「京都日日新聞」(2月21日)、「大阪朝日新聞(京都版)」(2月22日の記事、2月17日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三八	昭和13	3/15	東京 鈴木演芸場	(本朝廿四孝) 十種香(都=亀造)。 ※第3回義太夫会。 ※『太棹』第94号に拠る。	
	一九三八	昭和13	3/16~20	北陽演舞場	本朝廿四孝 十種香の段(呂=叶//伊達=重造)、狐火の段(呂=叶・ツレ 吉季・琴 友駒//伊達=重造・ツレ 一郎右衛門・琴 重次郎)。	長尾謙信(玉次郎)、武田勝頼(玉幸)、こし元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三八	昭和13	3/28	東京 歌舞伎座	(本朝二十四孝) 四段目(八重垣姫一都・勝頼一朝見・濡衣一駒登・謙信一麗・白須賀一近衛・小文治一巴=桑造)。 ※竹本津賀太夫引退披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第368・369号、『太棹』第93・94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4/21	台湾 栄座 〈新義座〉	(本朝二十四孝) 四段目 十種香の段(南部=勝平・ツレ 勝芳)。 ※大阪新義座巡業(4月20日~、台湾)の内。桐竹門造指導乙女人形入。 ※「台湾日日新報」(4月17・19~20日の記事、4月20日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第369号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/6	豊橋 豊橋劇場 〈新義座〉	(本朝廿四孝) ※「豊橋日日新聞」(6月4~5日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/22	高知 堀詰座	(廿四孝) 十種香より狐火まで(駒=清二郎・ツレ 吉季・琴 重次郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」(6月13・15~16・19~23日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	8/16	朝日会館	(廿四孝) 桔梗ヶ原(土佐夫=吉蔵)。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号、「大阪朝日新聞」(8月11・16日)に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/26	京都 京都朝日会館	(本朝廿四孝) 桔梗ヶ原の段(土佐男=吉蔵)。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「第5回秋季文楽浄瑠璃の夕」。 ※「京都日日新聞」(10月21日)、「大阪朝日新聞(京都版)」(10月26日)に拠る。	
△	一九三九	昭和14	1/27	東京 日本橋倶楽部	(本朝二十四孝) 十種香(掛合 八重垣姫一浪花・武田勝頼一弥国・濡衣一朝見・謙信一駒登・白須賀一土佐子=寛三郎・ツレ 好造・琴 紋太郎)。 ※東京南北座初春興行。 ※『太棹』第101号には勝頼の人形は吉田国三郎とある。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号、『太棹』第101号に拠る。	謙信(高瀬弦之丞)、勝頼(国五郎)、八重垣姫(池田三国)。
△	一九三九	昭和14	4/24	北陽演舞場 〈新義座〉	(本朝廿四孝) 十種香(南部=勝平・ツレ 綱延)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三九	昭和14	5/3	東京 仁寿講堂 〈新義座〉	(廿四孝) 十種香(南部=勝平・ツレ 綱延)。 ※大阪新義座巡業(4月~5月9日、関東・東海)の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に拠る。	
	一九三九	昭和14	5/19~20	名古屋 御園座	本朝廿四孝 十種香の段(切駒=清二郎)、狐火の段(呂=寛治郎・ツレ 喜代之助・琴吉蔵)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉幸)、こし元濡衣(政亀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九三九	昭和14	8/13~16	東京 明治座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段(口辰、播路=新太郎、奥呂=寛治郎)、景勝下駄の段(大隅=広助)、勘助住家の段(切古靴=清六)、十種香の段(切録=新左衛門)、狐火の段(伊達=友衛門・ツレ 新太郎・琴仙松)。	長尾三郎景勝(門造)、弟慈悲蔵後に直江山城守(玉蔵)、兄横蔵後に山本勘助(栄三)、長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉幸)、腰元濡衣(小兵吉)、妻唐織(政亀)、妻入江(紋太郎)、高坂弾正(玉徳)、越名弾正(玉幸)、女房お種(文五郎)、母越路(小兵吉)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九三九	昭和14	9/13~14	神戸 松竹劇場	(本朝廿四孝) 十種香の段より狐火まで(伊達)。 ※「神戸新聞」(9月8・10・12~13日の記事、9月7・10日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第382号に拠る。	
			9/19	博多 大博劇場	十種香の段より狐火まで(伊達=友衛門)。 ※文楽座巡業(9月9日~、神戸・鳥取・博多・他)の内。 ※「福岡日日新聞」(9月12・16・18~20日の記事、9月15日の広告)、「九州日報」(9月16~17・19~20日の記事、9月15日の広告)に拠る。	勝頼(玉幸)、濡衣(紋太郎)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九三九	昭和14	10/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(娘八重垣姫一南部・武田勝頼一織・こし元濡衣一相生・長尾謙信一伊勢・白須賀六郎一辰・原小文治一播路=重造)、狐火の段(伊達=友衛門・ツレ 団伊三/新太郎・琴友三郎)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉幸)、こし元濡衣(紋太郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九三九	昭和14	11/27~29	東京 軍人会館	本朝二十四孝 十種香の段・狐火の段(伊達=友衛門・ツレ 友花・琴友三郎)。 ※人形小割は次の通り。八重垣姫の左は吉田文二郎、足は桐竹紋司、武田勝頼の左は吉田兵次、足は吉田玉枝、腰元濡衣の左は吉田光之助、足は吉田兵二郎、長尾謙信の左は吉田文枝、足は桐竹紋之助、白八重垣姫の左は吉田文之助、足は桐竹紋司、狐八重垣姫の左は吉田文二郎、足は桐竹紋昇。	長尾謙信(玉徳)、武田勝頼(玉幸)、腰元濡衣(政亀)、八重垣姫・白八重垣姫(紋十郎)、狐八重垣姫(文五郎)。
△	一九三九	昭和14	12/14	東京 日本橋倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香(掛合 八重垣姫一都・勝頼一朝見・濡衣一津弥・謙信一近衛・白須加十原一扇=紋左衛門)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第109・110号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	5/25	軍人会館	(本朝廿四孝) ※大阪四天王寺境内に人形遣い先祖代々の供養塔を建立するための各種演芸会。 ※「大阪朝日新聞」(5月23日)、「京都日出新聞」(3月8日)に拠る。	(不明)
	一九四〇	昭和15	9	地方公演 (朝鮮・満州)	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(伊達=友衛門・ツレ 竜市・琴吉蔵)。 ※「此処桐竹紋十郎早替りにて相勤め申候」(プログラム)。	長尾謙信(玉徳)、武田勝頼(文作)、こし元濡衣(紋太郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四一	昭和16	4/29	ラジオ放送	(本朝廿四孝) 御殿より狐火まで(南部・重造・琴+ツレ 綱延)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「朝日新聞(東京版)」(4月29日)、『太棹』第125号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	6/17・19	東京 国民新劇場	(廿四孝) ※南北座春季公演。 ※『太棹』第127号、「朝日新聞(東京版)」(6月18日)に拠る。	
	一九四一	昭和16	7/16~20	東京 新橋演舞場	本朝廿四孝 十種香の段(娘八重垣姫一伊達・武田勝頼一津の子改め 浜・腰元濡衣一竹改め 雛・長尾謙信一播路ノ駒若改め 司・白須賀六郎一千駒ノ隅若・原小文治一津磨ノ呂賀=友衛門)、狐火の段(播路改め 七五三=綱造・ツレ 吉左ノ友花・琴 綱延)。	長尾謙信(小兵吉)、武田勝頼(文作)、腰元濡衣(光之助)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四一	昭和16	7/25	浅草 並木倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香(都=松四郎)。 ※名作納涼演芸の夕。 ※『太棹』第128号に拠る。	
	一九四一	昭和16	8/7~8	京都 南 座	本朝廿四孝 十種香の段(娘八重垣姫一南部・武田勝頼一相生・こし元濡衣一雛・長尾謙信一駒若改め 司・白須賀六郎一隅若ノさの・原小文治一常子ノ叶美=重造)、狐火の段(陸路改め 七五三=綱造・ツレ 八造・新太郎・琴 友三郎)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(文作)、腰元濡衣(栄三郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四一	昭和16	8/13~14	名古屋 御園座	(本朝廿四孝) ※『御園座七十年史』、「新愛知」(8月2・6・12日の記事、8月5・11・13日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四一	昭和16	8/28~30	大阪劇場	(本朝廿四孝) 狐火の段(伊達=吉左・新太郎・綱延、此の所吉田文五郎人形出遣い早替りにて御覧に入れ申候)。 ※人形小割は次の通り。娘八重垣姫の左は桐竹紋太郎、足は吉田文枝。 ※「大阪毎日新聞」(8月26・28日の広告)に拠る。	娘八重垣姫(文五郎)。
	一九四一	昭和16	9/1~23	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段より 狐火の段 十種香の段(娘八重垣姫一南部・武田勝頼一小松改め つばめ・腰元濡衣一雛・長尾謙信一伊勢ノ千駒・白須賀六郎一常子ノ津磨・原小文治一宮ノ隅若=道八)、狐火の段(七五三=綱造・ツレ 友衛門・叶太郎ノ団伊三・琴 勝芳)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(文作)、腰元濡衣(光之助)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四一	昭和16	9/19	東京 蚕糸会館	(廿四孝) (近衛=猿之助・猿平・松四郎)。 ※竹本近衛太夫公演会。 ※『太棹』第130号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	10/6	東京 国民新劇場	(本朝廿四孝) 十種香より狐火まで(浪花=猿平・琴 松四郎)。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	八重垣姫(池田三国)。
△	一九四二	昭和17	4/10	浅草 並木倶楽部	(本朝廿四孝) 十種香(浪花=猿平)。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第134号、『浄瑠璃月報』第42号に拠る。	
	一九四二	昭和17	5/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 山本勘助住家の段(前 長尾ノ伊勢=友造、後 住=吉三郎//相生=吉五郎)、勘助物語りの段(母越路一住ノ相生・兄横蔵後に山本勘助一七五三・妻唐織一文字ノ田喜・女房お種一呂賀・弟慈悲蔵後に直江山城守一呂ノ南部ノ伊達=綱造)。	弟慈悲蔵後に直江山城守(紋十郎)、兄横蔵後に山本勘助(玉幸改め 玉助)、妻唐織(光之助)、女房お種(文五郎)、母越路(栄三)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四二	昭和17	5/26	京都 京都帝国大学 学生集会所	(本朝廿四孝) 狐火の段(織=清六・団六)。 ※京都帝国大学同学会文化部主催、文楽研究会。人形小割は次の通り。 八重垣姫の左は吉田光之助、足は吉田栄三郎。 ※『浄瑠璃雑誌』第409・410号に拠る。	八重垣姫(栄三)。
△	一九四二	昭和17	7/17	東京 九段教育会館	(本朝廿四孝) (雛=友衛門)。 ※文楽人形見学。 ※『太棹』第137号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	7/28	札幌市 博品館	(本朝廿四孝) 十種香(重=広助)。 ※『文楽芸術』第12号、『太棹』第138号に拠る。	
	一九四二	昭和17	10/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段より狐火の段まで(娘八重垣姫一南部・武田勝頼一織・腰元濡衣一呂・白須賀六郎一大隅・原小文治一住・長尾謙信一古鞆=観西翁・ツレ 寛治郎・友衛門/吉三郎・琴 勝芳)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉助)、腰元濡衣(亀松)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九四二	昭和17	10/26	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段より狐火の段まで(八重垣姫一呂賀・勝頼一文字・濡衣一越名・謙信一利根・白須賀六郎+原小文治一松島=吉季・ツレ+琴 清広)。	長尾謙信(紋太郎)、武田勝頼(栄三郎)、腰元濡衣(紋司)、娘八重垣姫(亀松)。
			10/27		十種香の段より狐火の段まで(八重垣姫一越名・勝頼一宮・濡衣一呂賀・謙信一利根・白須賀六郎+原小文治一南次=友花・ツレ+琴 清広)。 ※日本因協会技芸奨励会第4回公演会。	長尾謙信(紋太郎)、武田勝頼(栄三郎)、腰元濡衣(紋司)、娘八重垣姫(光之助)。
	一九四二	昭和17	11/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香より狐火の段まで(娘八重垣姫一織・武田勝頼一住・腰元濡衣一重・白須賀六郎一長尾/伊勢・原小文治一富/三滝・長尾謙信一春=観西翁・ツレ 寛治郎・友衛門/吉三郎・琴 勝太郎/錦糸)。 ※11月17日ラジオ中継放送(「朝日新聞(大阪版)」「朝日新聞(東京版)」(11月17日)に拠る)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(栄三郎)、腰元濡衣(亀松)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九四二	昭和17	11/8・15	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(源=友花)、狐火の段(越名=団伊三・ツレ 清広・琴 錦糸)。	長尾謙信(多三郎)、武田勝頼(紋太郎)、腰元濡衣(紋司)、娘八重垣姫(亀松)。
			11/22~23		十種香の段(文=叶太郎)、狐火の段(宮=清友・ツレ 団作・琴 勝太郎)。 ※技芸奨励会。	長尾謙信(多三郎)、武田勝頼(紋太郎)、腰元濡衣(紋司)、娘八重垣姫(光之助)。
	一九四二	昭和17	12/1~5	東京 新橋演舞場	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(娘八重垣姫一織/南部・武田勝頼一織/南部・腰元濡衣一相生/呂・長尾謙信一古鞆・白須賀六郎一大隅・原小文治一住=観西翁・ツレ 団六・ツレ 勝芳改め 勝太郎/綱延改め 錦糸・琴 勝太郎/錦糸)。	長尾謙信(政亀)、武田勝頼(亀松)、腰元濡衣(栄三郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四二	昭和17		東京 華族会館	(本朝廿四孝) 御殿の場。 ※梨本宮妃殿下御台臨の研究会。 ※桐竹紋十郎『文楽の人形と三味線』に拠る。	(紋十郎)。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九四三	昭和18	4/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 通し狂言	桔梗ヶ原の段（口八十／松島＝錦糸、中つばめ＝友造、後浜＝寛治郎）、景勝下駄の段（七五三＝友衛門）、勘助住家の段（大隅＝清二郎）、物語りの段（住＝吉三郎）、景勝上使の段（隅若＝友平）、十種香の段（切重＝広助）、狐火の段（三滝改め 叶＝清八・ツレ 新太郎・琴 錦糸）。	長尾景勝（門造）、慈悲蔵後に直江山城守（亀松／光造）、関兵衛（多三郎）、横蔵後に山本勘助（玉助）、長尾謙信（玉徳）、花造り養作・武田勝頼（栄三郎）、腰元濡衣（紋司）、妻唐織（小兵吉）、妻入江（紋太郎）、高坂弾正（玉市）、越名弾正（玉徳）、女房お種（栄三郎）、母越路（政亀）、八重垣姫（亀松／光造）。	
一九四三	昭和18	7/21~25	東京新橋演舞場	本朝廿四孝	十種香の段（娘八重垣姫一織・武田勝頼一雛／つばめ・腰元濡衣一宮・長尾謙信一雛／つばめ・白須賀六郎十原小文治一松島＝観西翁）、狐火の段（伊達＝喜左衛門・ツレ 団六・友花改め 燕三・琴 錦糸）。	長尾謙信（門造）、武田勝頼（亀松）、腰元濡衣（栄三郎）、娘八重垣姫（紋十郎）。	
△	一九四三	昭和18	9/26	大東亜会館	（廿四孝）	全段（近衛＝猿之助・琴＋ツレ 猿三郎）。 ※第2回竹本近衛太夫公演会。 ※『浄瑠璃月報』第77号、『太棹』第148号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	10/24	浅草並木倶楽部	（本朝廿四孝）	十種香（八重垣姫一都・勝頼一朝見・濡衣一近衛・謙信一駒登・白須賀十原一卯＝猿之助）。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第149号、『浄瑠璃月報』第79号に拠る。	
一九四四	昭和19	3/1~	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 景勝下駄の段より 山本勘助の段まで	景勝下駄の段（住＝重造）、山本勘助住家の段（切古靱＝清六）。	長尾景勝（政亀）、弟慈悲蔵後に直江山城守（亀松）、兄横蔵後に山本勘助（玉助）、妻唐織（紋司）、女房お種（文五郎）、母越路（栄三）。	
△	一九四四	昭和19	3/15	東京寿々本	（廿四孝）	（都＝猿平）。 ※浄清会。 ※『浄瑠璃月報』第87号に拠る。	
一九四四	昭和19	4/29~5/25	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝	十種香の段（娘八重垣姫一南部／伊達・武田勝頼一浜・腰元濡衣一葉・長尾謙信一司・白須賀六郎一津磨／宮・原小文治一源／雛＝寛治郎／喜左衛門）、狐火の段（源／雛＝仙糸・ツレ 松之輔・琴 寛弘）。	長尾謙信（玉徳）、武田勝頼（栄三郎）、腰元濡衣（紋司）、娘八重垣姫（紋十郎）。	
一九四五	昭和20	1/1~25	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段より 狐火の段まで	十種香の段（南部＝寛治郎）、狐火の段（七五三＝綱造・ツレ 友平・琴 寛弘）。	長尾謙信（小兵吉）、武田勝頼（玉助）、腰元濡衣（紋司）、娘八重垣姫（文五郎）。	
△	一九四五	昭和20	9/1~6	京都南座	（本朝二十四孝）	十種香の段（伊達）、狐火の段（七五三）。 ※『昭和の南座 資料編（上）』、『文楽人形の芸術』、「京都新聞」（8月27~28・30~31日・9月1・6~7・12~13日の広告）に拠る。	
一九四五	昭和20	10/5~12	朝日会館	本朝二十四孝	十種香の段（一日替り 南部＝寛治郎／伊達＝喜左衛門）、狐火の段（七五三＝綱造・ツレ 新三郎・琴 寛弘）。	謙信（門造）、勝頼（光造）、濡衣（紋司）、八重垣姫（紋十郎）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四六	昭和21	5/22	京都 西洞院にしき	(本朝廿四孝) 桔梗原(口 松島=新三郎、奥 浜=市治郎)、下駄(つばめ=重造)、 勤助住家(古靱=清六)。 ※第4回古靱を聴く会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九四七	昭和22	1/1~25	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(伊達=喜左衛門)、狐火の段(松=清二郎・ツレ 勝太郎 /市治郎・琴+胡弓 寛弘)。 ※吉田玉助休演のため、武田勝頼の左を遣っていた吉田玉男が2日間代 演(『吉田玉男文楽藝話』に拠る)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉助)、腰元 濡衣(紋司)、娘八重垣姫(文五郎)。
	一九四七	昭和22	1/26	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝 十種香の段(娘八重垣姫一越名・武田勝頼一古住・こし元濡衣一呂・長 尾謙信一住・白須賀六郎一七五三・原小文次一浜=友衛門)、狐火の段 (源=新三郎・ツレ 重造・琴 錦糸)。 ※第4回若手向上会。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉男)、腰元 濡衣(和夫)、娘八重垣姫(栄三郎)。
	一九四七	昭和22	3/24~25	奈良 友楽座	本朝廿四孝 十種香より狐火の段(松=清二郎・ツレ+琴 錦糸)。	長尾謙信(玉徳)、武田勝頼(亀三)、腰元 濡衣(紋之助)、娘八重垣姫(亀松)。
△	一九四七	昭和22	4/27	京都 西洞院にしき	(本朝廿四孝) 十種香(伊達=喜左衛門)。 ※古靱を聴く会第13回。 ※竹本伊達大夫休演(代演不明)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九四七	昭和22	6/25~	地方公演 (中国)	本朝廿四孝 十種香の段より狐火の段(松=清二郎・ツレ 叶太郎・琴 寛弘)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(光造)、濡衣 (亀三)、娘八重垣姫(亀松)。
	一九四七	昭和22	7/4~11	京都 南座	本朝廿四孝 十種香の段(息女八重垣姫一松・武田勝頼一つばめ/浜・腰元濡衣一越 名・長尾謙信一司・白須賀六郎一織部・原小文治一織の=清二郎)、狐 火の段(雛=綱造・ツレ 松之輔・琴 寛弘)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(亀松)、腰元 濡衣(紋司)、息女八重垣姫(紋十郎)。
	一九四七	昭和22	8/31~9/7	名古屋 中京劇場	本朝廿四孝 十種香の段(伊達=喜左衛門)、狐火の段(越名=友衛門・ツレ 錦 糸・琴 寛弘)。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(栄三郎)、腰 元濡衣(紋司)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九四七	昭和22	9/20~25	東京 東京劇場	本朝廿四孝 十種香の段(息女八重垣姫一織改め 綱・武田勝頼一松・腰元濡衣一七 五三・長尾謙信一隅若・白須賀六郎一司・原小文治一織部=団六改め 弥七)、狐火の段(伊達=喜左衛門・ツレ 重造・琴 寛弘)。 ※『文楽興行記録昭和篇』は「十種香の段」白須賀六郎を豊竹古住大夫 とする。	長尾謙信(門造)、武田勝頼(光造)、腰元 濡衣(紋司)、息女八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四七	昭和22	10/3	東京 早稲田大学大 隈講堂	(本朝廿四孝) 十種香より狐火の段(綱=弥七・琴 錦糸)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	八重垣姫(紋十郎)。
△	一九四七	昭和22	10/5	箱根 環翠楼	(本朝廿四孝) 十種香(綱=弥七・ツレ+琴 錦糸)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九四七	昭和22	11/20	京都 京都植物園内 将校クラブ	(本朝廿四孝) 狐火の段。 ※アメリカ婦人クラブ鑑賞会。 ※「毎日新聞(大阪版)」(11月21日)に拠る。	(紋十郎)カ。
	一九四七	昭和22	12/2~3	姫路 姫路公会堂	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(松=八造・ツレ 勝太郎、此処桐竹紋十郎早変り にて御覧に入れ候)。	上杉謙信(玉市)、武田勝頼(玉助)、こし 元濡衣(玉男)、娘八重垣姫(紋十郎)。



「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四八	昭和23	2/1~21	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝	十種香の段（伊達＝喜左衛門）、狐火の段（松＝綱造・ツレ 友十郎・琴 寛弘）。 ※吉田栄三追善芸題。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	長尾謙信（紋太郎）、武田勝頼（紋十郎）、こし元濡衣（文五郎）、娘八重垣姫（光造）。
一九四八	昭和23	2/22	四ツ橋文楽座	本朝廿四孝	十種香の段（娘八重垣姫一越名・武田勝頼一七五三・腰元濡衣一伊達・長尾謙信一山城少掾・白須賀六郎一相生・原小文治一呂＝友十郎）。 ※第5回若手向上会。	長尾謙信（玉助）、武田勝頼（亀三）、腰元濡衣（紋三郎）、娘八重垣姫（紋司）。
△	一九四八	昭和23	地方公演 （九州）	（本朝廿四孝）	十種香の段（伊達＝喜左衛門）。 ※3月5日久留米・明治座（場割役割不明）、13日長崎・三菱会館（十種香の段・狐火の段、役割不明）での公演を含む。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「西日本新聞（地方版）」（3月3・9・11・16・21日の広告）、「長崎日日新聞（3月13日の記事と広告）」に拠る。	（不明）
一九四八	昭和23	6/28	京都 西洞院にしき	本朝廿四孝	百度石の段（横蔵一古住・濡衣一織部・蓑作一雛・兵部一綱・車つかひ一浜・車つかひ一宮・景勝一織の・道三一松島＝新三郎）、勝頼切腹の段（中 雛＝市治郎、切 綱＝弥七）、景勝上使の段（宮＝清友）、鉄砲渡しの段（つばめ＝市治郎）、十種香の段（山城少掾＝清六・ツレ 弥七）、小手返しの段（浜）。 ※山城を聴く会第4次第2回。	
一九四八	昭和23	7/28	妙 像 寺	二 十 四 孝	桔梗原の段（呂賀＝清二郎）。 ※文楽新人浄瑠璃会。	
△	一九四九	昭和24	ラジオ放送 〈組合〉	（本朝二十四孝）	十種香（伊達、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（4月27日）に拠る。	
一九四九	昭和24	5/7~12	東京 有 楽 座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（松＝八造、松之輔、雛＝広助・ツレ 新三郎・琴 清友）。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（紋司）、娘八重垣姫（亀松）。
一九四九	昭和24	8	地方公演 （東北・北海道） 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（武田勝頼一隅若・濡衣一宮・八重垣姫一松・上杉謙信一隅若・原小文治一織の・白須賀六郎一相次＝八造）、奥庭狐火の段（雛＝広助・ツレ 新三郎・琴 清友、此処桐竹亀松早替りにて御覧に入れ申候）。	上杉謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋司）、八重垣姫（亀松）。
一九四九	昭和24	12/1	広島 〈因会〉	本朝廿四孝	（松＝八造・ツレ 新三郎・琴 清友）。 ※二日目は不入りのため興行中止（『織大夫夜話』）。	上杉謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋司）、八重垣姫（亀松）。
△	一九四九	昭和24	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（12月28日）に拠る。	
一九五〇	昭和25	1/7~10	松坂屋会館 〈組合 派〉	本朝二十四孝	十種香の段（前 伊達＝喜左衛門、後 越名＝勝太郎・琴＋ツレ 寛弘）。	謙信（紋太郎）、勝頼（作十郎）、濡衣（紋三郎）、八重垣姫（紋十郎）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五〇	昭和25	1/12~14	神戸 湊川神社 〈組合派〉	本朝二十四孝	十種香より狐火（前 伊達=喜左衛門、奥 源=吉三郎・琴+ツレ 寛弘）。	謙信（紋太郎）、勝頼（作十郎）、濡衣（紋三郎）、八重垣姫（紋十郎）。	
△	一九五〇	昭和25	2/11~12	兵庫 洲本劇場 〈組合〉	（本朝二十四孝） ※洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞（淡路版）」（2月10日）に拠る。		
一九五〇	昭和25	3/4~8	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（長尾謙信一大隅・八重垣姫一松・武田勝頼一綱・腰元濡衣一隅若・白須賀六郎一織部・原小文治一織の=清八）、狐火の段（雛=広助・ツレ 新三郎・清友・琴 寛弘）。 ※『文楽興行記録昭和篇』は「十種香の段」白須賀六郎を竹本相次太夫とする。	長尾謙信（玉助）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋司）、娘八重垣姫（亀松）。	
△	一九五〇	昭和25	3/6	長崎市 西日本会館 〈組合〉	（本朝廿四孝）	十種香より狐火の段。 ※九州巡業（15日間）の内。3月9~10日博多・多聞座で同公演あり。 ※「長崎日日新聞」（3月3日の広告）、「夕刊西日本新聞」（3月7日の広告）に拠る。	
一九五〇	昭和25	4/1~26	四ツ橋音楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（長尾謙信一大隅・八重垣姫一綱・武田勝頼一相生・腰元濡衣一宮/隅若・白須賀六郎一織の・原小文治一織部=清八）、狐火の段（雛/松=松之輔・ツレ 八造・新三郎・琴 寛弘）。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	長尾謙信（玉助）、武田勝頼（亀松）、腰元濡衣（和夫改め 文雀）、娘八重垣姫（光造改め 栄三）。	
△	一九五〇	昭和25	4/1~2	高知 堀詰座 〈組合〉	（本朝廿四孝）	十種香より狐火まで。 ※高知・北陸巡業（11日間）の内。 ※「高知新聞」（4月2日の記事、3月28日・4月2日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五〇	昭和25	5/12~	地方公演 （東海道・伊勢） 〈因会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段（長尾謙信一大隅・八重垣姫一綱・武田勝頼一相生・腰元濡衣一宮/隅若・白須賀六郎一織の・原小文治一織部=清八）、狐火の段（雛/松=松之輔・ツレ 八造・新三郎・琴 寛弘）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	長尾謙信（玉助）、武田勝頼（亀松）、腰元濡衣（和夫改め 文雀）、娘八重垣姫（光造改め 栄三）。
一九五〇	昭和25	6/7~12	東京 三越劇場 〈組合〉	本朝廿四孝	十種香の段（伊達=喜左衛門）、奥庭狐火の段（源=錦糸・ツレ 勝太郎）。	武田勝頼（紋之助）、腰元濡衣（紋太郎）、八重垣姫（紋十郎）。	
一九五〇	昭和25	8/20~27	名古屋 御園座 〈因会〉	本朝廿四孝 十種香より 狐火の段	十種香の段（八重垣姫一雛・勝頼一浜改め 津・濡衣一長子・謙信一河内・白須賀六郎一織の・原小文治一相次=豊之助改め 豊助）、狐火の段（宮=八造・ツレ 新三郎・清友・琴 寛弘）。	謙信（兵次）、勝頼（紋司）、濡衣（和夫改め 文雀）、八重垣姫（光造改め 栄三）。	
△	一九五〇	昭和25	9/13	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	（松）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月13日）に拠る。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五一	昭和26	2/7	ラジオ放送 〈三和会〉	(本朝廿四孝) 桔梗ヶ原の段(つばめ)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月7日)に拠る。	
			2/14	ラジオ放送 〈因会〉	景勝下駄(綱、他)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月14日)に拠る。	
			2/21		(本朝二十四孝) 勤助住居の段(大隅)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月21日)に拠る。	
			2/28	ラジオ放送 〈三和会〉	(本朝廿四孝) 十種香(若)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月28日)に拠る。	
一九五一	昭和26	4/8	鹿児島 日本劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝 十種香より狐火まで(伊達=喜左衛門・ツレ 勝太郎)。 ※兵庫・四国・九州巡業(3月19日~4月11日)の内。4月7日宮崎・孔雀劇場(役割不明)で同公演あり(「日向日日新聞」4月1日の記事と広告に拠る)。	謙信(玉徳)、勝頼(作十郎)、濡衣(紋二郎)、八重垣姫(紋十郎)。	
一九五一	昭和26	5/2~5	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝 十種香の段(切 綱=清二郎)、狐火の段(松=広助・ツレ 友十郎・琴 寛弘)。 ※十種香の後半、竹本越名太夫代役(『文楽興行記録昭和篇』に拠る)。	長尾謙信(玉助)、武田勝頼(亀松)、腰元濡衣(和夫改め 文雀)、娘八重垣姫(光造改め 栄三)。	
△	一九五一	昭和26	7/20~22	名古屋 松坂屋ホール 〈三和会〉	(本朝廿四孝) 十種香より狐火まで(伊達=喜左衛門)。 ※「夕刊新東海」(7月19日)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	八重垣姫(紋十郎)。
			7/25~29	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝 奥庭狐火の段(雛=広助・ツレ 友十郎)。 ※中学校夏期視覚教室・浪花芸術を学ぶ講習会。	娘八重垣姫(栄三)。
一九五一	昭和26	8/22~26	京都 南座 〈因会〉	本朝廿四孝 十種香の段(八重垣姫一松・勝頼一浜改め 津・濡衣一越名・謙信一河内・白須賀六郎一織部・原小文治一織の=寛治郎)、狐火の段(雛=広助・ツレ+琴 寛弘)。	長尾謙信(玉市)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(和夫改め 文雀)、八重垣姫(光造改め 栄三)。	
一九五一	昭和26	10/29	山本能楽堂 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香の段(八重垣姫一越名・武田勝頼一織の・濡衣一織部・長尾謙信一十九=錦糸・ツレ 寛弘)。 ※大阪春秋会第1回研究会。		
△	一九五一	昭和26	11/13	金沢市 北国第一劇場 〈三和会〉	(本朝廿四孝) 十種香の段、奥庭狐火の段。 ※「北国新聞」(10月28日・11月11日の記事、11月6・11~12日の広告)、「石川新聞」(11月5日の広告)、『三和会公演控』に拠る。	(不明)
			1/2~23	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香の段(娘八重垣姫一越名改め 南部・武田勝頼一雛・腰元濡衣一宮ノ長子・白須賀六郎一織部・原小文治一織の・長尾謙信一宮ノ長子=豊助)、狐火の段(松=広助・ツレ 錦糸・琴 寛弘)。 ※竹本越名太夫改め五世竹本南部太夫・鶴沢清二郎改め鶴沢藤蔵襲名披露。	長尾謙信(兵次)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文雀)、娘八重垣姫(十種香=文五郎、狐火=亀松)。
			1/14	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝 奥庭の段(松=豊助・ツレ 錦糸・コト 寛弘)。 ※昭和27年度大丸会「文楽座人形浄瑠璃(さわり集)」の内。	八重垣姫(亀松)。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五二	昭和27	1/26~27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段、狐火の段。 ※女義太夫合同初公演。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
一九五二	昭和27	2/21~22	京都 南座 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段、狐火の段。 ※女義太夫合同初公演。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
一九五二	昭和27	2/23~25	神戸 繊維会館 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段（娘八重垣姫一松・武田勝頼一雛・腰元濡衣一宮・長尾謙信一河内・白須賀六郎一弘・原小文治一十九＝豊助）、狐火の段（雛＝広助・ツレ友十郎・琴寛弘）。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋太郎）、娘八重垣姫（亀松）。
△	一九五二	昭和27	地方公演 （北陸） 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	十種香より。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「滋賀新聞」（3月20日の広告）、「富山新聞」（3月17・19・22日の広告）、「北国新聞」（3月22・26日の広告）、「福井新聞」（3月29日の記事、3月10・14・22日の広告）に拠る。	（不明）
一九五二	昭和27	4/27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝	狐火の段（松＝錦糸・ツレ琴寛弘）。 ※国際ロータリー第69年次大会文楽観劇会。	娘八重垣姫（亀松）。
一九五二	昭和27	5/31	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝	狐火の段（伊達＝喜左衛門・燕三・勝平、人形出遣ひ早替にて御覧入申候）。 ※第29回三越名人会。	（紋十郎）。
一九五二	昭和27	6/1~10	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝	十種香の段（八重垣姫一伊達・勝頼一つばめ・濡衣一古住・白須賀一呂賀・原一伊達路・謙信一松島＝喜左衛門）、狐火の段（伊達＝燕三・ツレ友若・琴勝平）。	上杉謙信（駒三郎）、武田勝頼（作十郎）、腰元濡衣（常次）、八重垣姫（紋十郎）。
一九五二	昭和27	6/30	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝二十四孝	狐火の段（越名改め 南部＝清八）。 ※文楽鑑賞の集ひ。	（栄三）。
一九五二	昭和27	7/1~4	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段（松＝清六）、狐火の段（越名改め 南部＝清八・ツレ吉三郎・琴寛弘）。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（栄三）。
一九五二	昭和27	7/6~13	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝二十四孝	狐火の段（越名改め 南部＝清八・ツレ吉三郎・琴寛弘）。 ※中学生のための「文楽教室」。	八重垣姫（栄三）。
△	一九五三	昭和28	広島 広島市児童文化会館 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	狐火の段。 ※「中国新聞」（1月10日の記事、1月8・10日の広告）に拠る。	（不明）

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	3/2~22	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝 百度石の段より 道三最後の段 まで	二段目 下諏訪明神百度石の段（口 弘=清好/藤之助、奥 静=錦糸）、武田信玄館の段（中 織の/織部=新三郎）、村上義清上使の段（次 南部=八造）、勝頼切腹の段（切 相生=松之輔）、三段目 桔梗ヶ原捨子の段（口 十九=寛弘、奥 雛=豊助）、三郎景勝下駄の段（河内=清八）、山本勘助住家の段（切 綱=弥七）、笥掘より勘助物語の段（津=寛治郎）、四段目 景勝上使の段（宮/長子=吉三郎）、鉄砲渡しの段（織部/織の=友十郎）、十種香の段（切 山城少掾=藤蔵）、奥庭狐火の段（松=清六・ツレ 清友・琴 寛弘）、斎藤道三最後の段（花造り関兵衛実ハ斎藤道三一静・山本勘助一河内・長尾三郎景勝一宮・武田勝頼一織の・斎藤道三の娘濡衣一織部・長尾謙信一長子=喜八郎）。 ※角書「武田信玄/長尾謙信」。 ※五代目豊沢広助五十回忌・七代目豊竹駒大夫十三回忌追善。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。 ※竹本相生太夫休演のため、「勝頼切腹の段」を豊竹河内太夫が代演（『幕間』昭和28年5月号に拠る）。	長尾三郎景勝（玉男）、村上義清（淳造）、武田信玄（兵次）、弟慈悲蔵実ハ直江山城守（栄三）、花造り関兵衛実ハ斎藤道三（紋太郎）、兄横蔵後ニ山本勘助晴信（玉助）、長尾謙信（兵次）、車遣い蓑作実ハ武田勝頼・花造り蓑作実ハ武田勝頼（亀松）、盲目勝頼（光次）、板垣兵部（玉市）、こし元濡衣・手弱女御前実ハこし元濡衣（玉五郎）、高坂弾正の妻唐織（玉五郎）、越名弾正の妻入江（文雀）、高坂弾正（紋太郎）、越名弾正（光次）、女房お種（亀松）、母越路（玉市）、娘八重垣姫（十種香=文五郎、奥庭=栄三）。
一九五三	昭和28	3/17~19	京都 宮川町歌舞練場 〈三和会〉	本朝二十四孝	十種香の段（伊達=喜左衛門）、狐火の段（源=燕三・ツレ 団作・琴 勝平）。	上杉謙信（紋市）、武田勝頼（紋之助）、腰元濡衣（紋之丞）、八重垣姫（紋十郎）。
一九五三	昭和28	3/23	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝二十四孝	桔梗ヶ原の段（前 南部=藤之助、後 相次=松之輔）、景勝下駄の段（十九=錦糸）、山本勘助住家の段（織の=弥七）、勘助物語の段（津=寛弘）、十種香の段（織部=藤蔵）、狐火の段（多満=清友・ツレ 寛弘・琴 藤之助）。 ※第3回若手勉強会。	長尾三郎景勝（光次）、慈悲蔵実ハ直江山城守（文昇）、横蔵実ハ山本勘助（玉昇）、長尾謙信（文昇）、武田勝頼（玉之助）、腰元濡衣（玉幸）、高坂弾正の妻唐織（小玉）、越名弾正の妻入江（玉幸）、高坂弾正（文雀）、越名弾正（玉昇）、慈悲蔵女房お種（文雀）、母越路（淳造）、娘八重垣姫（光次）。
一九五三	昭和28	3/30~31	兵庫 広畑旧青年学校 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香より 狐火まで	十種香の段（切 綱=弥七）、狐火の段（雛=吉三郎・ツレ+琴 寛弘）。 ※富士製鉄創立広畑再操業3周年記念。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（玉五郎）、八重垣姫（十種香=亀松、狐火=栄三）。
一九五三	昭和28	4	地方公演 （中国・九州） 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（松=吉三郎・ツレ 新三郎・琴 寛弘）。	上杉謙信（兵次）、武田勝頼（玉助）、腰元濡衣（玉五郎）、八重垣姫（栄三）。
△一九五三	昭和28	5/17	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校講堂 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段。 ※文楽観賞会。 ※「神戸新聞（東播版）」（5月16日）に拠る。	（不明）

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	6/1~7	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（栄三）。
一九五三	昭和28	6/9	東京 お茶の水女子 大学講堂 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段。	（不明）
一九五三	昭和28	6/16~21	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝 通し狂言	武田信玄館の段（中 織の=新三郎）、村上左衛門上使の段（次 河内=吉三郎）、盲勝頼切腹の段（切 相生=松之輔）、十種香の段（松=清六）、奥庭狐火の段（南部=清八・ツレ 八造・琴 寛弘）。	村上左衛門義清（淳造）、武田信玄（兵次）、長尾謙信（玉市）、車遣イ蓑作実ハ武田勝頼（玉男）、盲勝頼（光次）、板垣兵部（紋太郎）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫（十種香=文五郎、狐火=栄三）。
一九五三	昭和28	6/22	東京 上野学園講堂 〈因会〉	本朝二十四孝	狐火の段。 ※「此処で玉五郎出演 人形を使い早変りに勤めます」（プログラムカ）。	（玉五郎）。
一九五三	昭和28	6/29~	地方公演 （関東・東北） 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段（八重垣姫一呂賀・勝頼一伊達路・謙信一松島・濡衣一古住・原小文治一豊=勝太郎）。 ※21日間。	謙信（紋市）、勝頼（紋二郎）、濡衣（国秀）、八重垣姫（紋之助）。
△	一九五三	昭和28	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	十種香（津、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（8月26日）に拠る。	
△	一九五三	昭和28	米子 朝日座 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	奥庭狐火の段（源=友若・勝平）。 ※「山陰新報」（9月21日の広告）、「日本海新聞」（9月21日の広告）に拠る。	八重垣姫（勘十郎）。
		9/23	鳥取 大黒座 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（源=友若・勝平）。 ※三和会巡業の内。	
△	一九五三	昭和28	神戸 神戸市本山第一小学校 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	狐火の段（源=友若・ツレ 団作・琴 勝平）。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五三	昭和28	地方公演 （東海道） 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段。 ※8日間。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
一九五三	昭和28	11/8~	地方公演 （北海道） 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（雛=豊助）、奥庭狐火の段（南部=錦糸・寛弘・琴+ツレ 藤之助）。 ※12日間。	上杉謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（玉五郎）、八重垣姫（栄三）。
一九五三	昭和28	12/1~6	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段（八重垣姫一源・武田勝頼一つばめ・腰元濡衣一伊達路・上杉謙信一松島・郎党一古住=叶太郎）、奥庭狐火の段（呂賀=勝太郎・ツレ 八助・琴 勝平）。	上杉謙信（紋市）、武田勝頼（紋之助）、腰元濡衣（紋二郎）、八重垣姫（紋十郎）。
一九五三	昭和28	12/7	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝	奥庭狐火の段（呂賀=勝太郎/燕三・ツレ 燕三/勝太郎）。 ※中高校生のための文楽教室。	八重垣姫（紋十郎）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	12/23~27	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（松＝清六・ツレ 清友・琴 寛弘）。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
一九五四	昭和29	1/25~31	三越劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝 十種香より 狐火まで	十種香の段（伊達＝喜左衛門）、狐火の段（古住＝叶太郎／呂賀＝友若・琴＋ツレ 勝平、此の処桐竹紋十郎出遣い早替りにて御覧に入れま す）。	上杉謙信（紋市）、武田勝頼（勤十郎）、腰元濡衣（国秀）、八重垣姫（紋十郎）。
一九五四	昭和29	1/25~27	名古屋 御園座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（松＝清六）、狐火の段（南部＝広助・ツレ 八造・琴 寛弘）。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
△	一九五四	昭和29	毎日会館 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段（伊達＝喜左衛門）、狐火の段（古住／呂賀＝友若・琴＋ツレ 勝平）。 ※大阪市民実験劇場・友の会第34回観賞会。 ※竹本伊達太夫休演（『文楽因会三和会興行記録』に拠る）。 ※『大阪市民実験劇場』第29・30号に拠る。	上杉謙信（紋市）、武田勝頼（勤十郎）、腰元濡衣（国秀）、八重垣姫（紋十郎）。
△	一九五四	昭和29	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝二十四孝）	十種香の段（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（2月24日）に拠る。	
	一九五四	昭和29	奈良 天理教館 〈因会〉	本朝廿四孝	狐火の段（雛＝吉三郎・琴 新三郎）。	八重垣姫（亀松）。
	一九五四	昭和29	四ツ橋文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（松＝清六・ツレ 清友・琴 新三郎）。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
	一九五四	昭和29	神戸 繊維会館 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（伊達＝吉三郎）、狐火の段（雛＝八造・ツレ 新三郎・琴 寛弘）。 ※5月27日明石市・明石市市民会館で同公演あり。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
△	一九五四	昭和29	浜松 浜松座 〈因会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段、狐火の段。 ※『松竹百年史』に拠る。	
	一九五四	昭和29	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝	桔梗ヶ原の段（慈悲蔵一雛・高阪弾正一長子・妻唐織一織部・越名弾正一織の・妻入江一十九・草刈奴一伊達路・草刈奴一相次＝清八）、山本勘助住家の段（切 相生＝松之輔）、物語りの段（津＝寛治郎）。	弟慈悲蔵后二直江山城守（亀松）、兄横蔵后二山本勘助（玉助）、女房唐織（玉五郎）、女房入江（文雀）、高阪弾正（玉男）、越名弾正（兵次）、女房おたね（栄三）、母越路（紋太郎）。
	一九五四	昭和29	京都 南座 〈因会〉	本朝廿四孝	桔梗ヶ原の段（慈悲蔵一雛・高阪弾正一長子・妻唐織一織部・越名弾正一織の・妻入江一十九・草刈奴一伊達路・草刈奴一相次＝豊助）、勘助住家の段（切 相生＝松之輔）、物語りの段（津＝寛治郎）。	弟慈悲蔵実八直江山城守（亀松）、兄横蔵実八山本勘助（玉助）、妻唐織（玉五郎）、妻入江（文雀）、高阪弾正（玉男）、越名弾正（兵次）、女房お種（栄三）、母越路（紋太郎）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五四	昭和29	7/16~18	名古屋 御園座 〈因会〉	本朝廿四孝	桔梗ヶ原の段（慈悲蔵一雛・高坂弾正一長子・妻唐織一織部・越名弾正一織の・妻入江一十九・草苺奴一伊達路・草苺奴一相次＝豊助）、勘助住家の段（相生＝松之輔）、物語りの段（津＝寛治郎）。	弟慈悲蔵実八直江山城守（亀松）、兄横蔵実八山本勘助（玉助）、妻唐織（玉五郎）、妻入江（文雀）、高坂弾正（玉男）、越名弾正（兵次）、女房お種（栄三）、母越路（紋太郎）。	
△	一九五四	昭和29	10/24	奈良 奈良県立奈良 商工高等学校 講堂 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	※「大和タイムス」（10月23日）、「読売新聞（奈良版）」（10月24日）に拠る。	（不明）
一九五四	昭和29	12/2~3	和歌山 和歌山県農業 協同組会会館 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（伊達＝八造・ツレ 寛弘）。	上杉謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、コシ元濡衣（文雀）、八重垣姫（栄三）。	
一九五五	昭和30	2/9~13	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（呂＝燕三・ツレ 団作・琴 勝平）。 ※第2回若手勉強会。 ※「狐火の段」狐八重垣姫の左は桐竹紋十郎、足は桐竹紋之助。	謙信（紋七）、勝頼（紋四郎）、濡衣（勘之助）、八重垣姫・狐八重垣姫（紋二郎）。	
△	一九五五	昭和30	2/9	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	十種香の段（伊達＝八造）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（2月9日）に拠る。	
一九五五	昭和30	3/25	新潟 新潟劇場 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香より狐火まで（伊達＝八造・団二郎・ツレ 藤二郎）。	武田勝頼（玉助）、腰元濡衣（紋太郎）、八重垣姫（栄三）。	
△	一九五五	昭和30	3/26	松山 国際劇場 〈三和会〉	（本朝廿四孝）	狐火の段（呂＝喜左衛門・勝平）。 ※中国・四国巡業（3月20日～）の内。 ※「愛媛新聞」（3月25日の広告）に拠る。	八重垣姫（紋之助）。
一九五五	昭和30	4/1~3	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	本朝廿四孝 十種香の段より 狐火の段まで	十種香の段（源＝叶太郎）、狐火の段（呂賀改め 呂＝勝太郎・勝平）。	上杉謙信（紋市）、武田勝頼（紋之助）、腰元濡衣（紋二郎）、八重垣姫・狐八重垣姫（紋十郎）。	
一九五五	昭和30	4/24~5/15	地方公演 （東海・関東・東北） 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（呂＝喜左衛門・勝平）。	八重垣姫（紋之助）。	
一九五五	昭和30	6/21	新潟 新潟劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝	奥庭狐火の段（呂＝仙二郎・ツレ 勝平）。 ※関東・東北巡業（6月19日～7月21日）の内。	八重垣姫（紋二郎）。	
一九五五	昭和30	7/26~31	東京 新橋演舞場 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（松＝清六）、狐火の段（雛＝吉三郎・ツレ+琴 寛弘）。	長尾謙信（兵次）、花造り蓑作実八武田勝頼（玉男）、こし元濡衣（文雀）、八重垣姫・白狐（十種香＝文五郎、狐火＝亀松）。	
一九五五	昭和30	8/22~26	京都 南座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段（松＝清六）、狐火の段（雛＝清八・琴+ツレ 寛弘）。	長尾謙信（兵次）、花造り蓑作実八武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、八重垣姫・白狐（十種香＝文五郎、狐火＝亀松）。	



## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	9/1~	地方公演 (東海) 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで(伊達=八造・ツレ+琴 寛弘)。	上杉謙信(兵次)、武田勝頼(玉男)、こし元濡衣(文雀)、八重垣姫(栄三)。
一九五五	昭和30	10/16	福岡 大博劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝	十種香の段より狐火の段まで(若=喜左衛門、後 呂賀改め 呂=友若・ツレ 勝平)。	上杉謙信(紋市)、武田勝頼(作十郎)、腰元濡衣(紋二郎)、八重垣姫(紋十郎)。
一九五五	昭和30	11/4	東京 三越劇場 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香より狐火の段(伊達=清六・ツレ 清友・琴 寛弘)。 ※芸術祭合同公演。	謙信(兵次)、武田勝頼(光次)、腰元濡衣(文雀)、八重垣姫(栄三)。
一九五五	昭和30	12/28	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段(切 山城少掾=藤蔵)、狐火の段(綱=弥七・ツレ 団六・琴 清治)。 ※道頓堀文楽座開場式。	謙信(兵次)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(玉五郎)、八重垣姫(十種香=文五郎、狐火=亀松)。
△	一九五五	昭和30	道頓堀文楽座 〈因会〉	(本朝廿四孝)	信玄館の段より奥庭狐火の段まで。 ※秩父宮記念病棟建設基金募集の特別興行。 ※『文楽因会三和会興行記録』、「毎日新聞(大阪版)」(12月30日)に拠る。	
一九五六	昭和31	1/1~25	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝 武田信玄館の段より 長尾謙信館 奥庭狐火の段	武田信玄館村上上使の段(中 長子=豊助)、盲勝頼切腹の段(次 雛=清八)、武田信玄物語の段(切 相生=松之輔)、十種香の段(切 山城少掾=藤蔵)、奥庭狐火の段(綱=弥七・ツレ 寛弘改め 団六・琴 清治)。 ※角書「武田信玄/上杉謙信」。 ※千種楽は「朝日新聞(大阪版)」(1月25日の広告)に拠る。 ※吉田文五郎途中から休演(『文楽因会三和会興行記録』に拠る)。	村上義晴(淳造)、武田信玄大僧正(玉助)、長尾謙信(兵次)、養作実ハ武田勝頼(玉男)、盲勝頼(文雀)、板垣兵部(玉市)、腰元濡衣(玉五郎)、娘八重垣姫(十種香=文五郎、奥庭=亀松)。
一九五六	昭和31	2/20~25	京都 祇園甲部歌舞 練場 〈因会〉	本朝廿四孝	狐火の段(織部=団六・ツレ 弥七・琴 清治)。	八重垣姫(亀松)。
一九五六	昭和31	2/25	姫路 姫路市公会堂 〈三和会〉	本朝廿四孝	狐火の段(小松=友若・ツレ 勝平)。	八重垣姫(紋之助)。
△	一九五六	昭和31	熊本 人吉映画劇場 〈三和会〉	(本朝廿四孝)	狐火の段。 ※中国・九州・東海巡業(3月3日~)の内。 ※「熊本日日新聞」(3月14日の広告)に拠る。	(不明)
一九五六	昭和31	6/12~16	東京 東横ホール 〈因会〉	本朝廿四孝 景勝上使より 狐火の段	景勝上使の段(織の=豊助)、十種香の段(伊達=八助)、狐火の段(南部=松之輔・ツレ 寛弘改め 団六・琴 清好)。	長尾景勝(光次)、関兵衛(常次)、長尾謙信(兵次)、花造り養作・武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(玉五郎)、娘八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫(亀松)。
△	一九五六	昭和31	福岡 八幡製鉄労働 会館 〈三和会〉	(本朝廿四孝)	十種香より狐火まで。 ※九州巡業(9月18~29日)の内。 ※『三和会公演控』、「西日本新聞(小倉版)」(9月15日の広告)に拠る。	(不明)

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五六	昭和31	10/28	東京 新橋演舞場 〈合同〉	本朝廿四孝	勤助内の段（相生＝松之輔）、笥掘りの段（津＝寛治）。 ※芸術祭第3回文楽合同公演。	慈悲蔵後に直江山城守（栄三）、横蔵後に山本勤助（玉助）、妻唐織（玉五郎）、女房お種（亀松）、勤助の母（兵次）。
△	一九五六	昭和31	11/6	横浜 神奈川県立音楽堂 〈三和会〉	（本朝二十四孝） 狐火の段。 ※東海道巡業（11月4日～、6日間）の内。 ※『三和会公演控』、「神奈川新聞」（10月28日）、「朝日新聞（神奈川版）」（10月23日・11月4日）に拠る。	（不明）
	一九五六	昭和31	11/28	産経会館 〈合同〉	本朝廿四孝 勤助住家の段（相生＝松之輔）、笥掘りの段（津＝寛治）。 ※芸術祭文楽合同公演。	慈悲蔵後に直江山城守（亀松）、横蔵後に山本勤助（玉助）、高坂弾正妻唐織（玉五郎）、女房お種（栄三）、勤助の母（兵次）。
△	一九五七	昭和32	1/19	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝二十四孝） 勤助住家の段（相生＝松之輔）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞」（1月19日）に拠る。	
			1/26		笥掘りの段（津＝寛治）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞」（1月26日）に拠る。	
△	一九五七	昭和32	2/23	奈良 友楽会館 〈因会〉	（本朝二十四孝） 十種香の段（伊達＝藤蔵）、狐火の段（雛＝吉三郎・ツレ 徳太郎・琴新三郎）。 ※「朝日新聞（奈良版）」（2月22日の広告）に拠る。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫（亀松）。
			2/24	和歌山 和歌山市民会館 〈因会〉	本朝二十四孝	
	一九五七	昭和32	3/5～14	三越劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝 十種香より狐火まで（切 若＝市治郎・ツレ 勝平）。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善。	上杉謙信（辰五郎）、武田勝頼（勤十郎）、腰元濡衣（紋之助）、八重垣姫（紋十郎）。
	一九五七	昭和32	5/4～28	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝 十種香の段（土佐＝清六）、狐火の段（松＝清六・ツレ 徳太郎・琴 清治）。 ※四代竹本伊達大夫改め七代竹本土佐大夫襲名披露。三世津大夫・六世土佐大夫十七回忌追善。	長尾謙信（兵次）、蓑作実ハ武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、八重垣姫（亀松）。
	一九五七	昭和32	6/1～9	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝二十四孝 十種香より狐火まで（切 若＝綱造・ツレ 燕三・琴 勝平）。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善。	上杉謙信（辰五郎）、武田勝頼（紋之助）、濡衣（紋二郎）、八重垣姫（紋十郎）。
	一九五七	昭和32	8/3～4	神戸 神戸新聞会館 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香の段（伊達改め 土佐＝清六）、狐火の段（松＝清六・ツレ 徳太郎・清治）。 ※土佐大夫襲名。	長尾謙信（兵次）、蓑作実ハ武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、息女八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（亀松）。
	一九五七	昭和32	8/6～11	名古屋 御園座 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香の段（伊達改め 土佐＝清六）、狐火の段（松＝清六・ツレ 徳太郎・清治）。 ※土佐大夫襲名。	長尾謙信（兵次）、蓑作実ハ武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、息女八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（亀松）。
	一九五七	昭和32	8/20～25	京都 南座 〈因会〉	本朝二十四孝 十種香の段（伊達改め 土佐＝清六）、狐火の段（松＝清六・ツレ 徳太郎・琴 清治）。 ※竹本土佐大夫襲名披露。	長尾謙信（玉市）、蓑作実ハ武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、息女八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（亀松）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五七	昭和32	11/30~ 12/1	東京 新橋演舞場 〈合同〉	本朝二十四孝	十種香の段（土佐＝藤蔵）、狐火の段（南部＝八造・ツレ 団六）。 ※芸術祭第4回合同公演。	謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、濡衣（玉五郎）、八重垣姫（十種香前＝難波掾、十種香後・狐火＝亀松）。
一九五七	昭和32	12/3~	地方公演 （関東・東海） 〈三和会〉	本朝二十四孝	十種香の段・狐火の段（切源＝叶太郎・ツレ 勝平）。	父謙信（紋市）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（紋二郎）、八重垣姫（紋十郎）。
△一九五八	昭和33	2/9	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	狐火（南部＝錦糸・団六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞」（2月9日）に拠る。	
一九五八	昭和33	9/1~11	道頓堀文楽座 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（土佐／松＝清六）、狐火の段（松／土佐＝藤蔵・ツレ 八造・琴 勝平）。	長尾謙信（辰五郎）、養作実は武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、息女八重垣姫・白狐実は八重垣姫（紋十郎）。
一九五八	昭和33	10/22	貝塚 貝塚市公会堂 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（源＝叶太郎・ツレ 勝平）。	上杉謙信（辰五郎）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（紋之助）、八重垣姫（紋十郎）。
一九五八	昭和33	10/29	大津 滋賀会館 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火まで（源＝叶太郎・ツレ 勝平）。 ※「大津市制60周年記念文楽公演」（「滋賀日日新聞」10月20日）。	父上杉謙信（作十郎）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（紋二郎）、八重垣姫・狐八重垣姫（紋十郎）。
一九五九	昭和34	2/8~12	東京 新橋演舞場 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（娘八重垣姫一土佐・武田勝頼一つばめ・腰元濡衣一雛・白須賀六郎一織部・原小文治一織の・長尾謙信一和佐＝喜左衛門）、奥庭狐火の段（南部＝八造・ツレ 団六・琴 団二郎）。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫・狐八重垣姫（紋十郎）。
一九五九	昭和34	3/15~18	京都 南座 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（娘八重垣姫一松・武田勝頼一相生・腰元濡衣一織の・白須賀六郎一小松・原小文治一相子・長尾謙信一和佐＝松之輔）、奥庭狐火の段（土佐＝藤蔵・ツレ 八造・琴 勝平）。 ※松竹経営50年祭記念・豊竹山城少掾引退披露興行。	長尾謙信（辰五郎）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫・狐八重垣姫（紋十郎）。
一九五九	昭和34	6/13~15	名古屋 御園座 〈合同〉	本朝廿四孝 十種香 狐火の段	十種香の段（娘八重垣姫一松・武田勝頼一津・腰元濡衣一南部・長尾謙信一古住・白須賀六郎一伊達路・原小文治一小松＝寛治）、奥庭狐火の段（土佐＝藤蔵・ツレ 徳太郎・琴 勝平）。	長尾謙信（辰五郎）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋之助）、八重垣姫・白狐実は娘八重垣姫（栄三）。
一九五九	昭和34	7/1~12	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで（娘八重垣姫一土佐・武田勝頼一松・腰元濡衣一南部・白須賀六郎一静・原小文治一弘・長尾謙信一相生＝藤蔵・ツレ 徳太郎・琴 団二郎、此処桐竹亀松出遣い早替りにて御覧に入れます）。	長尾謙信（兵次）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫・白狐（亀松）。

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五九	昭和34	7/4~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段（切源=叶太郎）、奥庭狐火の段（古住=燕三・琴勝平）。 ※桐竹紋之助改め四代目豊松清十郎襲名披露。	上杉謙信（辰五郎）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（紋十郎）、八重垣姫・狐八重垣姫（清十郎）。	
		7/10~15			十種香の段（切源=叶太郎）、奥庭狐火の段（小松=燕三・琴勝平）。 ※桐竹紋之助改め四代目豊松清十郎襲名披露。	上杉謙信（辰五郎）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（紋十郎）、八重垣姫・狐八重垣姫（清十郎）。	
一九五九	昭和34	7/19~20	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段・奥庭狐火の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫・白狐（亀松）。	
△	一九五九	昭和34	ラジオ放送 〈因会〉	（本朝廿四孝）	（土佐）。 ※「毎日新聞（大阪版）」（7月23日）に拠る。		
△	一九五九	昭和34	12/8	朝日テレビ 〈両派〉	（本朝廿四孝）	四段目（土佐=藤蔵）。 ※「吉田文五郎（難波掾）が描く女」の収録。昭和35年1月2日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」昭和35年1月1日に拠る）。典拠は台本。	八重垣姫（難波掾カ）。
	一九六〇	昭和35	1/1~24	道頓堀文楽座 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（八重垣姫一土佐・葦作実ハ武田勝頼一つばめノ津・腰元濡衣一古住改め文字・長尾謙信一長子・白須賀六郎一弘・原小文次一伊達路=寛治ノ喜左衛門）、狐火の段（土佐=藤蔵・ツレ錦糸・琴勝平、此処豊松清十郎出遣い早替りにて御覧に入れます）。 ※豊竹古住大夫改め九代竹本文字大夫・桐竹紋之助改め四代豊松清十郎襲名披露。 ※「狐火の段」八重垣姫の左は桐竹紋十郎、足は桐竹勘十郎（「新夕刊」（1月13日）に拠る）。 ※1月16日「十種香の段」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月16日）に拠る）。	長尾謙信（玉市）、武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（玉五郎）、娘八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（十種香=紋十郎、狐火=紋之助改め清十郎）。
	一九六〇	昭和35	1/25	道頓堀文楽座 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（八重垣姫一津の子・武田勝頼一綱子・腰元濡衣一若子・白須賀六郎一津弥・原小文次一松香・長尾謙信一文字=寛治）、狐火の段（相子=藤二郎・藤蔵・琴団二郎）。 ※若手勉強発表会。	長尾謙信（小紋）、武田勝頼（小玉）、腰元濡衣（一暢）、八重垣姫（十種香=文昇、狐火=紋寿）。
	一九六〇	昭和35	2/11~20	東京 新橋演舞場 〈合同〉	本朝廿四孝	景勝上使の段（織の=吉三郎）、十種香の段（松=清六）、奥庭狐火の段（土佐=藤蔵・ツレ錦糸・琴勝平）。 ※2月25日「奥庭狐火の段」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月25日）に拠る）。	長尾景勝（勘十郎）、花造り関兵衛実ハ斎藤道三（辰五郎）、長尾謙信（玉市）、葦作実ハ武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（清十郎）、息女八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（紋十郎）。
	一九六〇	昭和35	3/1~8	京都 南座 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段（松=藤蔵）、狐火の段（土佐=松之輔・ツレ燕三・琴勝平）。 ※古住大夫改め竹本文字大夫・紋之助改め豊松清十郎襲名披露・芸術院会員吉田難波掾文化功労者受章記念興行。	長尾謙信（辰五郎）、武田勝頼（玉男）、腰元濡衣（紋之助改め清十郎）、息女八重垣姫・白狐実ハ八重垣姫（紋十郎）。
	一九六〇	昭和35	4/1~16	地方公演 （山陽・九州） 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（源=叶太郎・勝平//小松=市治郎ノ叶太郎・勝平）。	八重垣姫（紋之助改め清十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九六〇	昭和35	5/27~6/19	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(小松=燕三・ツレ 勝平)。	八重垣姫(紋之助改め 清十郎)。	
		6/3	東京 立教大学 〈三和会〉	本朝二十四孝	奥庭狐火の段(文字=燕三・琴+ツレ 勝平)。	八重垣姫(清十郎)。	
		6/19	栃木 足利興国化学 講堂 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段(つばめ=喜左衛門)、狐火の段(小松=叶太郎・ツレ 勝平)。	長尾謙信(辰五郎)、武田勝頼(勘十郎)、 腰元濡衣(紋二郎)、八重垣姫(紋十郎)。	
一九六〇	昭和35	9/14~10/4	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(小松=燕三・ツレ 勝平)。	八重垣姫(紋之助改め 清十郎)。	
一九六〇	昭和35	9/27	松坂会館 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香狐火の段。 ※有楽会素義会。人形参加。	長尾謙信(玉助)、武田勝頼(東太郎)、腰 元濡衣(文昇)、八重垣姫(十種香=玉男、 狐火=文雀)。	
一九六〇	昭和35	11/24~ 12/2	地方公演 (都内学校) 〈三和会〉	本朝二十四孝	狐火(小松=勝平・ツレ 市治郎)。 ※文楽教室。	(不明)	
△	一九六〇	昭和35	ラジオ放送 〈因会〉	(本朝廿四孝)	三段目(南部カ)。 ※「師走うたごよみ」。 ※「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」「(12月18日)に拠る。		
△	一九六一	昭和36	ラジオ放送 〈因会〉	(本朝二十四孝)	十種香の段(綱=弥七・団六)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」「(2月10日)に拠る。		
一九六一	昭和36	4/18	東京 新橋演舞場 〈合同〉	本朝廿四孝	十種香の段・狐火の段(綱=弥七・ツレ 団六・団二郎)。 ※第2回文楽素浄瑠璃の会。		
一九六一	昭和36	7/27	東京 歌舞伎座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段まで(土佐=藤蔵・ツレ 団六・琴 団二郎)。 ※文楽座大夫三味線名曲鑑賞会。		
一九六一	昭和36	12/8~10	地方公演 (九州) 〈三和会〉	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(小松=燕三・ツレ 勝平)。	八重垣姫(紋之助改め 清十郎)。	
△	一九六二	昭和37	1/8	愛知県小牧市 お岩稲荷神社 〈因会〉	(本朝廿四孝)	狐火。 ※お岩稲荷神社遷座祭。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九六二	昭和37	1/18	ラジオ放送 〈因会〉	(本朝廿四孝)	十種香の段(土佐=藤蔵)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月18日)に拠る。	
	一九六二	昭和37	1/26~2/4	道頓堀文楽座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段より狐火の段迄(切春子=松之輔・ツレ 団六・琴 清治)。	長尾謙信(兵次)、武田勝頼(東太郎)、腰元濡衣(文雀)、八重垣姫(亀松)。
	一九六二	昭和37	2/17	横浜 ニューグランド ドホテル 〈三和会〉	本朝二十四孝	狐火の段(小松=市治郎・勝平)。	(不明)
	一九六二	昭和37	2/22~26	京都 南座 〈因会〉	本朝廿四孝	十種香の段(土佐=藤蔵)、奥庭狐火の段(春子=松之輔・ツレ 徳太郎・琴 清治)。	長尾謙信(兵次)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文昇)、息女八重垣姫・白狐実は八重垣姫(亀松)。
	一九六二	昭和37	3/28	愛知 愛知文化講堂 〈因会〉	本朝二十四孝	十種香の段 狐火(土佐=藤蔵・徳太郎・琴 清治)。 ※第12回邦楽名人大会。	
△	一九六二	昭和37	4/12	ラジオ放送 〈因会〉	(本朝二十四孝)	狐火(土佐=藤蔵・清治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(4月12日)に拠る。	
△	一九六三	昭和38	1/24	東京 本牧亭 〈三和会〉	(本朝廿四孝)	十種香(若=重造)。 ※若大夫会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九六三	昭和38	2/5~10	東京 三越劇場 〈三和会〉	本朝廿四孝	十種香の段(切つばめ=喜左衛門)、奥庭狐火段(小松=喜左衛門・琴 勝之輔・ツレ 広若)。	長尾謙信(辰五郎)、武田勝頼(勘十郎)、腰元濡衣(簗助)、八重垣姫(十種香=紋十郎、狐火=清十郎/簗助)。
△	一九六三	昭和38	1/24・30	ラジオ放送 〈三和会〉	(本朝廿四孝)	十種香の段(つばめ=喜左衛門)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(1月24日)に拠る。	
△	一九六三	昭和38	8/16	ラジオ放送	(本朝廿四孝)	狐火(土佐=藤蔵)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(8月16日)に拠る。	
	一九六三	昭和38	9/1~19	朝日座	本朝廿四孝	謙信館の段(文字=勝平)、十種香の段(綱=弥七)、狐火の段(土佐=吉三郎・ツレ 団六・琴 寛弘)。	長尾景勝(清十郎)、関兵衛(玉昇)、長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(玉五郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九六三	昭和38	9/28~29	名古屋 愛知文化講堂	本朝廿四孝	十種香の段(綱=弥七)、狐火の段(土佐=吉三郎・琴 ツレ 勝平)。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(清十郎)、腰元濡衣(玉五郎)、八重垣姫(紋十郎)。
△	一九六三	昭和38	11/28・12/5	ラジオ放送	(本朝二十四孝)	三段目 景勝下駄(十九=錦糸)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(11月28日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六四	昭和39	ラジオ放送	(本朝廿四孝)	桔梗原の段(綱子、織=団二郎、藤蔵)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(11月6日)に拠る。	
					景勝下駄の段(つばめ=喜左衛門)、勘助住家の段 前半(文字=燕三)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(11月13日)に拠る。	
					勘助住家の段(前 綱=弥七、後 津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(11月20日)に拠る。	
					十種香の段(春子=松之輔)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(11月27日)に拠る。	
△	一九六五	昭和40	ラジオ放送	(本朝廿四孝)	狐火の段(織)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月10日)に拠る。	
△	一九六五	昭和40	6/27	栃木県足利市 月見ヶ丘会館	(本朝廿四孝) 十種香の段(春子=松之輔)、狐火の段(南部=錦糸・ツレ 勝平・琴清治)。 ※地方公演(東海・関東)の内。 ※文楽協会資料、『昭和40年度人形浄瑠璃因協会年報』、「文楽友の会通信」第10号、『吉田文雀ノート』に拠る。	長尾謙信(勘十郎)、武田勝頼(清十郎)、 腰元濡衣(玉五郎)、八重垣姫(紋十郎)。
	一九六五	昭和40	7/18~27	朝 日 座	本 朝 廿 四 孝 武田信玄館の段(綱子/相子=勝平)、村上義清上使の段(伊達路=団六)、勝頼切腹の段(相生=重造)、道行似合の女夫丸(春子・南部・綱子・松香=松之輔・燕三・団六・勝平)、景勝上使の段(織=弥七)、鉄砲渡しの段(十九=叶太郎)、十種香の段(つばめ=喜左衛門)、奥庭狐火の段(土佐・ツレ 小春=吉兵衛・ツレ 団二郎・琴清治)。 ※野沢松之輔=作曲・望月太明蔵=作詞・沢村竜之介=振付(「道行似合の女夫丸」)。 ※「桐竹紋十郎の”人間国宝”認定を祝って」(プログラム)。	長尾三郎景勝(勘十郎)、村上義清(作十郎)、武田信玄(勘十郎)、花造り関兵衛(玉昇)、長尾謙信(辰五郎)、簀作実(武田勝頼・薬売り簀作・花造り簀作(道行まで=清十郎)、武田勝頼(十種香=玉男)、盲目勝頼(文雀)、板垣兵部(辰五郎)、腰元濡衣・薬売り濡衣(道行まで=簀助、景勝上使・十種香=栄三)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九六五	昭和40	10/5~17	東京 三 越 劇 場	本 朝 廿 四 孝 武田信玄館の段(相子=団二郎)、村上義清上使の段(伊達路=団六)、勝頼切腹の段(相生=重造)、道行似合の女夫丸(春子・南部・綱子・津弥・松香=松之輔・燕三・団六・勝平)、景勝上使の段(織=徳太郎)、鉄砲渡しの段(十九=叶太郎)、十種香の段(つばめ=喜左衛門)、奥庭狐火の段(土佐・ツレ 小春=吉兵衛・ツレ 清治・琴 寛弘/勝之輔)。 ※野沢松之輔=作曲・望月太明蔵=作詞・沢村龍之介=振付・松田種次=装置(「道行似合の女夫丸」)。 ※斎藤道三の見あらかしが出ない(「日本経済新聞(東京版)」(10月9日)に拠る)。	長尾三郎景勝(勘十郎)、村上義清(作十郎)、武田信玄(亀松)、花造り関兵衛(玉昇)、長尾謙信(辰五郎)、簀作実(武田勝頼・薬売り簀作・花造り簀作・武田勝頼(勝頼切腹・道行=清十郎、景勝上使=文昇、十種香=玉男)、盲目勝頼(玉昇)、板垣兵部(勘十郎)、腰元濡衣・薬売り濡衣(道行まで=簀助、十種香=栄三)、娘八重垣姫(紋十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六六	昭和41	2/11	岡山 長島愛生園療 養所	(廿四孝) 奥庭。 ※慰問。 ※『吉田文雀ノート』、文楽協会資料に拠る。	
	一九六六	昭和41	5/19~21	京都 祇園会館	本朝廿四孝 十種香の段より奥庭狐火の段(八重垣姫一土佐・勝頼一相生・濡衣一文 字・白須賀一若子・原一松香・謙信一大隅=吉兵衛・ツレ 清治・琴 勝 之輔)。	長尾謙信(辰五郎)、武田勝頼(勘十郎)、 腰元濡衣(文雀)、娘八重垣姫(栄三)。
△	一九六六	昭和41	9/10	ラジオ放送	(本朝廿四孝) ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」(9月10日)に拠る。	
△	一九六七	昭和42	3/2	神奈川 小田原市民会 館	(本朝廿四孝) 十種香の段(南部=重造)、奥庭狐火の段(若子・松香=燕三・団二 郎)。 ※文楽協会資料、『昭和41年度人形浄瑠璃因協会年報』、『吉田文雀 ノート』に拠る。	長尾謙信(玉昇)、武田勝頼(清十郎)、腰 元濡衣(文雀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
△	一九六七	昭和42	4/9	兵庫 洲本市民会館 大ホール	(本朝廿四孝) ※文楽協会資料、「神戸新聞(淡路版)」(4月8日)に拠る。	(不明)
	一九六七	昭和42	5/8~25	地方公演 (関東・東海 道)	本朝廿四孝 十種香より奥庭狐火の段(春子=勝太郎・ツレ+琴 勝平)。	長尾謙信(玉昇)、武田勝頼(清十郎)、腰 元濡衣(文雀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
			5/12	神奈川 横浜市文化体 育館	十種香の段・奥庭狐火の段(春子=重造、若子・松香=団二郎・叶太 郎)。	
			5/19~20	千葉 銚子市民体育 館	十種香より奥庭狐火の段(春子=勝太郎・ツレ+琴 勝平)。 ※「東京新聞(千葉版)」(5月20日)、文楽協会資料、『吉田文雀 ノート』に拠る。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(清十郎)、 腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九六七	昭和42	6/2~4	京都 弥栄会館	本朝廿四孝 十種香の段(春子=勝太郎)、奥庭狐火の段(南部=燕三・ツレ 団二 郎・琴 勝之輔)。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(清十郎)、 腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
	一九六七	昭和42	6/5~13	地方公演 (東海道・関 東・北陸)	本朝廿四孝 十種香の段(織=吉兵衛)、奥庭狐火の段(小松=徳太郎・ツレ+琴 清治)。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(玉男)、腰 元濡衣(文昇/清十郎)、娘八重垣姫(紋十 郎)。
	一九六七	昭和42	9/7~14	地方公演 (北陸・関 東)	本朝廿四孝 十種香より奥庭狐火の段(土佐=吉兵衛・ツレ 錦糸・琴 勝平)。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(勘十郎)、 腰元濡衣(文雀)、娘八重垣姫(紋十郎)。
			9/11	東京 愛国高等学校	(廿四孝) 十種香の段(織=燕三)、狐火の段(小春=燕三・ツレ+琴 清治)。 ※学生文楽教室。 ※文楽協会資料、『昭和42年度人形浄瑠璃因協会年報』、『吉田文雀 ノート』に拠る。	
	一九六七	昭和42	10/4	大阪サンケイ ホール	本朝廿四孝 十種香、狐火(春子=勝太郎・ツレ 勝平・琴 勝之輔)。 ※NHK邦楽の夕べ。 ※10月22日テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪 版)」「読売新聞(大阪版)」(10月22日)に拠る)。	長尾謙信(勘十郎)、武田勝頼(玉男)、腰 元濡衣(玉五郎)、八重垣姫(紋十郎)。



## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六七	昭和42	10/6~10	地方公演 (四国)	本朝廿四孝	十種香の段(春子=勝太郎)、奥庭狐火の段(相子=勝平・ツレ+琴勝之輔)。 ※10月8日愛媛・松山市民会館大ホールでは竹本相子太夫の代わりに豊竹松香太夫(文楽協会資料に拠る)。10月10日兵庫・兵庫県立三原高等学校体育館では野沢勝平の代わりに竹沢団二郎(「朝日新聞(淡路版)」(10月6日)、文楽協会資料に拠る)。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六七	昭和42	11/2	尼崎 尼崎市文化会館大ホール	(本朝廿四孝)	十種香より奥庭狐火の段(三味線 吉兵衛)。 ※文楽人形浄瑠璃大会。語りは尼崎太十会による掛合(素人)。	長尾謙信(勘十郎)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六七	昭和42	11/5~19	地方公演 (山陽・九州)	本朝廿四孝	十種香の段(南部=徳太郎)、奥庭狐火の段(相子=団二郎・ツレ+琴清治)。	長尾謙信(文雀)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六七	昭和42	11/25~26	名古屋 中日劇場	本朝廿四孝	十種香の段(土佐=吉兵衛)、奥庭狐火の段(咲=団六・ツレ 清治・琴勝之輔)。	長尾謙信(文雀)、武田勝頼(亀松)、腰元濡衣(清十郎)、娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六八	昭和43	2/5~16	地方公演 (東海道・関東)	本朝廿四孝	十種香の段(春子=勝太郎)、奥庭狐火の段(松香=勝平・ツレ+琴勝之輔)。 ※2月11日神奈川・横浜市社会福祉会館では桐竹紋十郎休演のため、娘八重垣姫を吉田栄三が代演(文楽協会資料、『昭和42年度人形浄瑠璃因協会年報』、『吉田文雀ノート』に拠る)。	長尾謙信(国秀)、武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六九	昭和44	7/30~8/5	地方公演 (近畿)	本朝廿四孝	奥庭より狐火の段(南部・ツレ 嶋=弥七・ツレ 清治・琴勝之輔)。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。 ※竹沢弥七8月2~5日休演のため、「奥庭より狐火の段」を野沢松之輔が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。	娘八重垣姫(紋十郎)。
一九六九	昭和44	9/28~ 10/12	朝日座	本朝廿四孝	桔梗ヶ原の段(松香=清治、織=徳太郎)、景勝下駄の段(十九=勝太郎)、勘助住家の段(文字=弥七、津=寛治)。 ※角書「武田信玄ノ上杉謙信」。	長尾三郎景勝(玉男)、弟慈悲蔵後二直江山城守(栄三)、兄横蔵後二山本勘助晴信(勘十郎)、高坂弾正の妻唐織(簗助)、越名弾正の妻入江(文雀)、高坂弾正(作十郎)、越名弾正(勘十郎)、女房お種(紋十郎)、母越路(玉五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六九	昭和44	10/26~ 11/9	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 通し狂言	大序 足利館大広間の段（緑、英、松香＝団六）、足利館奥御殿の段（呂＝燕三）、二段目 諏訪明神百度石の段（英＝清治、伊達路＝錦糸）、三段目 桔梗原の段（松香＝団二郎、織＝徳太郎）、景勝下駄の段（十九＝勝太郎）、勘助住家の段（文字＝弥七、津＝寛治）、二段目 信玄館の段（緑＝勝之輔）、村上上使の段（小松＝叶太郎）、勝頼切腹の段（伊達路＝団六）、信玄物語の段（相生＝重造）、四段目 道行似合の女夫丸（南部・小松・咲・相子＝松之輔・吉兵衛・勝平・団二郎）、和田別所化性屋敷の段（咲＝勝平）、景勝上使の段（嶋＝徳太郎）、鉄砲渡しの段（相子＝錦糸）、謙信館の段（越路＝喜左衛門・ツレ 燕三・琴 勝之輔、アト 緑＝勝之輔）、道三最期の段（嶋＝清治）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※竹沢団六＝補曲（「足利館大広間の段」）。鶴沢燕三＝補曲（「足利館奥御殿の段」）。野沢松之輔＝補曲・澤村龍之介＝振付（「道行似合の女夫丸」）。野沢勝平＝補曲（「和田別所化性屋敷の段」）。 ※国立劇場開場3周年記念。 ※桐竹紋十郎11月4日休演のため、お種を桐竹亀松が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。 ※「大序は明治、大正の普通に、若手大夫が一段を分担してミス内で交互に語る方式を復活」（「日本経済新聞（東京版）」（9月29日））。	手弱女御前（文昇）、北条氏時（辰五郎）、長尾景勝（玉昇）、村上義清（紋弥）、武田信玄（亀松）、愛妾賤の方（一暢）、直江山城之助・慈悲蔵実は直江山城之助（栄三）、腰元八つ橋・お種実は腰元八つ橋（紋十郎）、腰元八つ橋実は白狐（文雀）、井上新左衛門実は斎藤道三・花守り閨兵衛実は斎藤道三（亀松）、横蔵後に山本勘助（勘十郎）、長尾謙信（栄三）、車遣い簀作実は武田勝頼（玉男）、盲勝頼（簀助／清十郎）、板垣兵部（文雀）、横田兵内（玉幸）、腰元濡衣（清十郎／簀助）、高坂妻唐織（簀助／清十郎）、越名妻入江（文昇）、高坂弾正（玉男）、越名弾正（勘十郎）、勘助の母（玉五郎）、八重垣姫（紋十郎）。
△	一九七〇	昭和45	4/20	大阪市 大和屋	（本朝廿四孝） 奥庭の段（織＝道八・ツレ 清治・琴 勝之輔）。 ※文楽協会資料に拠る。	八重垣姫（紋十郎）。
	一九七〇	昭和45	11/30	東京 桃華楽堂	本朝廿四孝 狐火の段（津＝寛治・琴 弥七）。 ※重要無形文化財保持者による人形浄瑠璃文楽の会。	（栄三）。
△	一九七二	昭和47	2/15	ラジオ放送	（本朝廿四孝） 景勝下駄の段。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月15日）に拠る。	
△	一九七二	昭和47	6/11	ラジオ放送	（本朝廿四孝） 勘助住家の段（文字＝燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月11日）に拠る。	
△	一九七二	昭和47	10/31	東京 岩波ホール	（本朝廿四孝） 十種香の段。 ※『吉田玉男文楽藝話』に拠る。	八重垣姫（玉男）。
△	一九七三	昭和48	2/22	ラジオ放送	（本朝廿四孝） 十種香の段（南部＝松之輔）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月22日）に拠る。	
	一九七三	昭和48	7/15~29	朝日座	本朝廿四孝 十種香の段（南部＝松之輔）、奥庭狐火の段（呂＝重造・ツレ 勝平・琴 勝司）。 ※三世竹本津太夫三十三回忌追善。大近松二百五十年忌に因んで。	長尾謙信（作十郎）、武田勝頼（清十郎）、腰元濡衣（文雀）、娘八重垣姫（亀松）。
	一九七三	昭和48	9/25	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 桔梗原の段。 ※野沢吉兵衛＝指導。素浄瑠璃。 ※文楽研修生試演会第3回。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九七三	昭和49	12/11	ラジオ放送	(本朝廿四孝) 十種香の段(呂=重造)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月11日)に拠る。	
	一九七五	昭和50	10/12~26	朝日座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段(緑=清友、相生=吉兵衛)、景勝下駄の段(咲=勝太郎)、勘助住家の段(呂=弥七、津=清治)。 ※昭和51年2月14日「勘助住家の段」をテレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(昭和51年2月14日)、NHKクロニクルに拠る)。	長尾三郎景勝(作十郎)、弟慈悲蔵後二直江山城守(清十郎)、兄横蔵後二山本勘助晴義(勘十郎)、高坂弾正の妻唐織(文昇)、越名弾正の妻入江(小玉)、高坂弾正(玉松)、越名弾正(玉幸)、女房お種(簗助)、母越路(玉男)。
	一九七五	昭和50	12/13~21	東京国立劇場小劇場	本朝廿四孝 諏訪明神百度石の段(呂・緑・貴・三輪・武蔵=清友)、桔梗ヶ原の段(口松香=勝司、奥伊達路=団二郎)、景勝下駄の段(嶋=団六)、勘助住家の段(前十九=勝平、後咲=清治)、道行似合の女夫丸(小松・英・津国・文字栄=団六・寛平・清友・浅造)。 ※野沢松之助=作曲・澤村龍之介=振付(「道行似合の女夫丸」)。 ※人形全段出遣い(文楽協会資料に拠る)。 ※従来の台本では「勘助住家」の謎解きの部分に大幅なカットがあったが、今回は原作に戻している(「読売新聞(東京版)」(12月17日)に拠る)。	長尾景勝(玉幸)、慈悲蔵実は直江山城之助(文雀)、斎藤道三(清十郎)、横蔵後に山本勘助(玉昇)、車遣い簗作実は武田勝頼(文昇)、板垣兵部(簗助)、腰元濡衣(紋寿)、高坂の妻唐織(勘寿)、越名の妻入江(和生)、高坂弾正(玉女)、越名弾正(簗太郎)、お種(一暢)、勘助の母(作十郎)。
	一九七五	昭和50	12/22	東京国立劇場小劇場	本朝廿四孝 桔梗原の段(小松=研修生)、奥庭狐火の段(津駒=団六・研修生・琴寛平)。 ※「桔梗原の段」は人形入り、「奥庭狐火の段」は素浄瑠璃。鶴沢道八・桐竹勘十郎=指導、吉田玉昇=補導(「桔梗原の段」)、竹沢団六=指導(「奥庭狐火の段」)。 ※文楽研修生第3回試演会。	慈悲蔵(玉女)、高坂妻唐織(勘寿)、越名妻入江(和生)、高坂弾正(昇二郎)、越名弾正(簗太郎)。
	一九七六	昭和51	4/1~2	東京小山亭	本朝廿四孝 狐火の段(津=勝太郎・琴勝司)。 ※小山亭開業披露宴。	八重垣姫(前=簗助/文雀、後=文雀/簗助)。
△	一九七六	昭和51	4/6~11	愛知県豊橋市	(廿四孝) 奥庭。 ※文楽協会資料に拠る。	(紋寿)。
	一九七七	昭和52	1/2~23	朝日座	本朝廿四孝 十種香の段(南部=道八)、奥庭狐火の段(小松=勝平・ツレ清友・琴八介)。 ※桐竹一暢14~16日休演のため、腰元濡衣を桐竹紋寿が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。 ※5月5日「十種香の段」「奥庭狐火の段」テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(5月5日)、NHKクロニクルに拠る)。	長尾謙信(玉昇)、武田勝頼(簗助)、腰元濡衣(一暢)、娘八重垣姫(清十郎)。
	一九七七	昭和52	1/25~28	朝日座	本朝廿四孝 十種香より奥庭狐火の段(八重垣姫一津駒・武田勝頼一緑・腰元濡衣一英・長尾謙信/白須賀六郎/原小文治一三役毎日替り津国/文字栄/南司=団二郎・ツレ弥三郎/松也・琴燕太郎)。 ※若手向上会。	長尾謙信(勘士朗)、武田勝頼(玉女)、腰元濡衣(勘寿)、娘八重垣姫(紋寿)。
△	一九七七	昭和52	2/7	ラジオ放送	(本朝廿四孝) 十種香の段(南部)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月7日)に拠る。	

## 「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七八	昭和53	8/19~9/2	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝	景勝上使の段（小松＝叶太郎）、鉄砲渡しの段（伊達路＝勝平）、十種香の段（切 越路＝清治）、狐火の段（十九＝錦糸・ツレ 清介・琴 錦 弥）。	長尾景勝（小玉）、花守関兵衛実は斎藤道三（玉松）、長尾謙信（作十郎）、花作り養作実は武田勝頼（勘十郎）、腰元濡衣（文雀）、息女八重垣姫（清十郎）。
△	一九七八	昭和53	10/20~21	小倉 井筒屋文化 ホール	（本朝廿四孝） 奥庭狐火の段。 ※桐竹一暢文楽公演。 ※文楽協会資料、「朝日新聞（北九州版）」「西日本新聞（京築版）」（10月19日）、「西日本新聞（筑豊版）」（10月20日）に拠る。	（不明）
	一九七九	昭和54	3/1~20	地方公演 （東海・関 東・近畿・中 国・九州・四 国）	本朝廿四孝 十種香の段（南部＝燕三）、奥庭狐火の段（小松＝勝司・ツレ 浅造・琴 燕太郎）。 ※鶴沢浅造12日から休演（文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る）。	長尾謙信（作十郎）、武田勝頼（小玉）、腰元濡衣（文昇）、娘八重垣姫（清十郎）。
	一九八〇	昭和55	5/26	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 桔梗原の段（慈悲蔵一緑・越名弾正一津国・高坂弾正一文字栄・妻唐織一南司・妻入江一文字登＝清介）。 ※文楽若手発表会・第6期文楽研修生第2回試演会。素浄瑠璃。	
△	一九八〇	昭和55	6/15	太 閤 園	（本朝廿四孝） 十種香・狐火（呂＝道八・ツレ 清介・琴 八介）。 ※ひさや大黒堂慰安会。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	八重垣姫（文雀）。
△	一九八〇	昭和55	6/25	ラジオ放送	（本朝廿四孝） 狐火の段（呂＝重造）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月25日）に拠る。	
	一九八一	昭和56	1/2~23	朝 日 座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段（慈悲蔵一相生・越名弾正一緑・高坂弾正一三輪・唐織一貴・入江一津国・草刈奴一文字登・草刈奴一津梅＝清介）、景勝下駄の段（呂＝団二郎）、勘助住家の段（文字＝勝平、津＝道八）。 ※竹本相生太夫2~4日休演のため、「桔梗ヶ原の段」慈悲蔵を竹本緑太夫が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。野沢勝平18~23日休演のため、「勘助住家の段」を野沢勝平が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。 ※3月28日「勘助住家の段」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月28日）、NHKクロニクル、今尾哲也氏義太夫節関係カセットテープ一覧に拠る）。	長尾三郎景勝（玉幸）、弟慈悲蔵後に直江山城守（文雀）、兄横蔵後に山本勘助晴義（勘十郎）、高坂弾正妻唐織（文昇）、越名弾正妻入江（紋寿）、高坂弾正（一暢）、越名弾正（小玉）、女房お種（養助）、母越路（玉男）。
	一九八一	昭和56	1/25~28	朝 日 座	本朝廿四孝 桔梗ヶ原の段（南司＝燕二郎、三輪＝吉之助）、景勝下駄の段（津駒＝浅造）、勘助住家の段（英＝勝司、緑＝清友）。 ※若手向上会。	弟慈悲蔵後二直江山城守（和生）、兄横蔵後二山本勘助晴義（玉女）、高坂弾正妻唐織（清之助）、越名弾正妻入江（亀次）、高坂弾正（玉也）、越名弾正（若玉）、女房お種（勘寿）、母越路（紋寿）。
△	一九八一	昭和56	2/25	ラジオ放送	（本朝廿四孝） 桔梗ヶ原の段（相生）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月25日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九八一	昭和56	4/22	ラジオ放送	(本朝廿四孝) 景勝下駄の段(呂=団二郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(4月22日)に拠る。	
△	一九八一	昭和56	5/9	名古屋 松 楓 閣	(本朝廿四孝) 十種香より奥庭狐火の段(織=道八・ツレ 清友・清介・琴 八介)。 ※文楽協会資料に拠る。	勝頼(一暢)、娘八重垣姫(簗助)。
	一九八二	昭和57	10/29~ 11/1	京都 京都府立文化 芸術会館	本朝廿四孝 十種香の段(切 南部=燕三)、奥庭狐火の段(呂=勝司・ツレ 清介・ 琴 燕二郎)。	長尾謙信(亀松)、武田勝頼(文雀)、腰元 濡衣(文吾)、娘八重垣姫(清十郎)。
	一九八三	昭和58	4/9~25	朝 日 座	本朝廿四孝 十種香の段(切 南部=燕三)、奥庭狐火の段(呂=勝司・ツレ 錦弥・ 琴 団治)。 ※豊松清十郎休演のため、娘八重垣姫を吉田簗助が代演。	長尾謙信(作十郎)、武田勝頼(玉松)、腰 元濡衣(文昇)、娘八重垣姫(清十郎)。
	一九八三	昭和58	12/9~18	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 武田信玄館の段(千歳=浅造)、村上義清上使の段(呂=弥三郎//咲= 八介)、勝頼切腹の段(伊達路=勝司)、道行似合の女夫丸(松香・津 国・南司/文字栄・織美/文字久/南都=清友・弥三郎・燕二郎・清二 郎//英・津駒・南司/文字栄・織美/文字久/南都=清介・八介・燕二 郎・錦弥)、景勝上使の段(相生=燕二郎)、鉄砲渡しの段(咲=団治 //呂=錦弥)、十種香の段(小松/嶋=清治)、奥庭狐火の段(嶋=清 介・ツレ 浅造・琴 清二郎//小松=清友・ツレ 浅造・琴 清二郎)、道 三最期の段(道三一緑・勝頼一貴・勘助一三輪・景勝+謙信一津梅=団 治/錦弥)。 ※野沢松之輔=作曲・澤村龍之介=振付(「道行似合の女夫丸」)。 ※竹沢弥三郎9~13日休演のため、「村上義清上使の段」を鶴沢清二郎 が、「道行似合の女夫丸」は鶴沢燕二郎が代演。それにともない「道行 似合の女夫丸」の鶴沢燕二郎の役割を竹沢団治が代演。鶴沢燕二郎14~ 18日休演のため、「道行似合の女夫丸」を竹沢団治が代演。	長尾景勝(玉幸)、村上義清(玉女)、武田 信玄(文吾)、花守り関兵衛実は斎藤道三 (作十郎)、山本勘助(文吾)、長尾謙信 (玉松)、簗作実は武田勝頼(文昇)、盲勝 頼(簗太郎)、板垣兵部(玉幸)、腰元濡衣 (紋寿)、八重垣姫(一暢)。
	一九八八	昭和63	4/3~21	国立文楽劇場	本朝廿四孝 通し狂言 二段目 諏訪明神百度石の段(横蔵=相生・道三=松香・濡衣=津駒・ 簗作=一貴・景勝=津国・兵部=津梅・藤馬+車遣い=文字久・車遣い+ 侍一南都・車遣い=南寿改め 呂勢=団七)、信玄館の段(三輪=八 介)、村上義清上使の段(小松=清友)、勝頼切腹の段(織=燕三)、 四段目 謙信館の段(十九=富助)、十種香の段(切 越路=清治)、奥 庭狐火の段(呂=清介・ツレ 八介・琴 清二郎)。 ※豊竹小松太夫休演のため、「村上義清上使の段」を竹本相生太夫が代 演。桐竹亀松休演のため、斎藤道三を桐竹一暢が代演。	長尾景勝(玉幸)、村上義清(玉也/玉 輝)、武田信玄(玉幸)、斎藤道三(亀 松)、横蔵(文吾)、長尾謙信(玉松)、車 遣い簗作実は武田勝頼(玉男)、盲勝頼(一 暢)、板垣兵部(作十郎)、腰元濡衣(文 雀)、八重垣姫(簗助)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八八	昭和63	5/6~22	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 通し狂言	二段目 諏訪明神百度石の段（横蔵一相生・道三一松香・濡衣一津駒・ 簀作一貴・長尾景勝一津国・板垣兵部一津梅・落合藤馬十車遣い一文字 久・車遣い一文字栄・車遣い十侍一南寿改め 呂勢=団七）、信玄館 の段（三輪=団治）、村上義清上使の段（小松=清友）、勝頼切腹の段 （織=燕三）、四段目 謙信館の段（十九=富助）、十種香の段（切 越 路=清治）、奥庭狐火の段（呂=清介・ツレ 八介・琴 清二郎）。 ※豊竹小松太夫休演のため、「村上義清上使の段」を竹本相生太夫が代 演。鶴沢燕三18日休演のため、「勝頼切腹の段」を豊沢富助が代演。	長尾景勝（簀太郎）、村上義清（勘寿）、武 田信玄（玉幸）、斎藤道三（一暢）、横蔵 （文吾）、長尾謙信（玉松）、車遣い簀作実 は武田勝頼（玉男）、盲勝頼（文昇）、板垣 兵部（作十郎）、腰元濡衣（文雀）、八重垣 姫（簀助）。
一九八八	昭和63	10/8~25	地方公演 （近畿・関 東・東北・東 海・北陸）	本朝廿四孝	十種香の段（十九=富助）、奥庭狐火の段（相生=八介・ツレ 団治・ 琴 清二郎）。	長尾謙信（文昇）、武田勝頼（玉幸）、腰元 濡衣（紋寿）、娘八重垣姫（文雀）。
一九八八	昭和63	11/25~27	京都 京都府立府民 ホール	本朝廿四孝	十種香の段（十九=錦糸）、奥庭狐火の段（呂=清友・ツレ 八介・琴 清太郎）。	長尾謙信（文吾）、武田勝頼（玉幸）、腰元 濡衣（紋寿）、娘八重垣姫（文雀）。
一九八九	平成1	3/2~25	地方公演 （近畿・関 東・東海・九 州・中国）	本朝廿四孝	十種香の段（嶋=喜左衛門）、奥庭狐火の段（相生=清介・ツレ 浅 造・琴 清二郎）。	長尾謙信（文吾）、武田勝頼（玉幸）、腰元 濡衣（勘寿）、娘八重垣姫（簀助）。
一九九〇	平成2	10/20	富田林市旧杉 山家住宅	本朝廿四孝	十種香の段より奥庭狐火の段（嶋=富助・ツレ+琴 団治）。 ※狐火のみ人形入（チラシ）。 ※第449回府民劇場。	八重垣姫（簀助）。
一九九二	平成4	9/5~20	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 通し狂言	大序 足利館大広間の段（始・新・呂勢=喜一郎・団吾）、足利館奥御 殿の段（松香=弥三郎）、二段目 諏訪明神百度石の段（口 津国=団 市、奥 相生=清友）、三段目 桔梗原の段（口 貴=浅造、奥 伊達=団 七）、景勝下駄の段（咲=喜左衛門）、勘助住家の段（切 住=燕三、 後 十九=団六）、二段目 武田信玄館の段（文字久=団吾//南都=喜一 朗）、村上義清上使の段（緑=団治）、勝頼切腹の段（前 呂=清治、 後 嶋=清介）、四段目 道行似合の女夫丸（英・千歳・文字栄・呂勢・ 新=錦弥・燕二郎・浅造・清太郎・団市）、謙信館景勝上使の段（津駒 =清二郎）、謙信館鉄砲渡しの段（三輪=清太郎）、謙信館十種香より 奥庭狐火の段（織=富助・ツレ 団治・琴 清二郎、アト 南都=喜一郎 //文字久=団吾）、謙信館道三最期の段（千歳=八介）。 ※竹沢団六=補曲（「足利館大広間の段」）。鶴沢燕三=作曲（「足利 館奥御殿の段」）。野沢松之輔=作曲・澤村龍之介=振付（「道行似合 の女夫丸」）。	手弱女御前（紋寿）、北条氏時（玉也）、長 尾景勝（玉幸）、村上義清（簀太郎）、武田 晴信後に信玄（玉松）、愛妾賤の方（清之 助）、直江山城之助・直江山城之助後に慈悲 蔵（文雀）、腰元八つ橋後にお種（簀助）、 井上新左衛門実は斎藤道三・花守り関兵衛実 は斎藤道三（一暢）、横蔵後に山本勘助（文 吾）、長尾謙信（作十郎）、車遣い簀作実 は武田勝頼・簀作実は武田勝頼（玉男）、板垣 兵部（作十郎）、腰元濡衣（文昇）、高坂妻 唐織（紋寿）、越名妻入江（和生）、高坂弾 正（玉松）、越名弾正（玉女）、勘助の母 （玉男）、八重垣姫（簀助）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九三	平成5	1/3~25	国立文楽劇場	本朝廿四孝	十種香の段（嶋＝富助）、奥庭狐火の段（英＝錦弥・ツレ 団治・琴 清二郎）。	長尾謙信（玉幸／文吾）、八重垣姫（簗助）、腰元濡衣（紋寿）、武田勝頼（玉松）。
一九九五	平成7	8/25	国立文楽劇場 小ホール	本朝廿四孝	景勝下駄の段（津国＝喜一郎）。 ※若手素浄瑠璃の会。	
△一九九七	平成9	2/24~25	東京 紀尾井小ホール	（本朝廿四孝）	十種香（呂＝富助）、奥庭（呂・津駒・呂勢＝富助・宗助・喜一郎）。 ※第1回紀尾井文楽。 ※『邦楽と舞踊』平成9年2月号・4月号に拠る。	八重垣姫（簗太郎）。
一九九八	平成10	1/3~25	国立文楽劇場	本朝廿四孝	十種香の段（切 嶋＝富助）、奥庭狐火の段（英＝燕二郎・ツレ 清太郎・琴 喜一郎）。	長尾謙信（玉幸／文吾）、武田勝頼（一暢）、腰元濡衣（紋寿）、八重垣姫（簗助）。
△二〇〇一	平成13	1/28	東京 内幸町ホール	（本朝廿四孝）	十種香より奥庭狐火（千歳＝燕二郎・ツレ 団吾）。 ※第10回深川会浄瑠璃鑑賞会。 ※『演劇界』平成13年2月号に拠る。	
二〇〇一	平成13	9/8~23	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝 通し狂言	大序 足利館大広間の段（つばさ・相子・睦＝龍聿・清丈・清愼）、足利館奥御殿の段（松香＝清友）、二段目 諏訪明神百度石の段（口 新＝団吾、奥 英＝喜左衛門）、三段目 桔梗原の段（口 貴＝宗助、奥 伊達＝寛治）、景勝下駄の段（咲＝富助）、勘助住家の段（切 住＝錦糸、切 十九＝清治）、二段目 武田信玄館の段（始＝喜一郎//咲甫＝清志郎）、村上義清上使の段（三輪＝宗助）、勝頼切腹の段（切 綱＝清二郎）、四段目 道行似合の女夫丸（津駒・津国・南都・文字栄・咲甫／始＝団七・弥三郎・団吾・喜一郎・清志郎）、謙信館景勝上使の段（文字久＝清太郎）、謙信館鉄砲渡しの段（呂勢＝喜一郎）、謙信館十種香の段（切 嶋＝清介）、謙信館奥庭狐火の段（千歳＝燕二郎・ツレ 清太郎・琴 清志郎）。 ※竹沢団六＝補曲（「足利館大広間の段」）。鶴沢燕三＝作曲（「足利館奥御殿の段」）。野沢松之輔＝作曲・澤村龍之介＝振付（「道行似合の女夫丸」）。 ※国立劇場開場35周年記念。 ※吉田玉幸「勘助住家の段」竹藪以降を休演のため、横蔵後に山本勘助を吉田玉女が代演。 ※「清丈」の丈は異体字。	手弱女御前（簗太郎）、北条氏時（簗二郎）、長尾景勝（一暢）、村上義清（文司）、武田晴信後に信玄（玉女）、愛妾賤の方（玉英）、直江山城之助・慈悲蔵実は直江山城之助（文吾）、腰元八つ橋（紋寿）、井上新左衛門実は斎藤道三・花守り関兵衛実は斎藤道三（玉輝）、横蔵後に山本勘助（玉幸）、長尾謙信（玉也）、車遣い簗作・簗作実は武田勝頼（玉男）、板垣兵部（玉松）、腰元濡衣（文雀）、高坂妻唐織（和生）、越名妻入江（清之助）、高坂弾正（玉女）、越名弾正（簗太郎）、女房お種（紋寿）、勘助の母（玉男）、八重垣姫（簗助）。

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇一	平成13	11/3~25	国立文楽劇場	本朝廿四孝 通し狂言	二段目 諏訪明神百度石の段（松香・三輪・呂勢・新・始・咲甫・相子・つばさ・睦＝喜左衛門）、三段目 桔梗原の段（口貴＝弥三郎、奥伊達＝寛治）、景勝下駄の段（咲＝富助）、勘助住家の段（切住＝錦糸、切十九＝清治）、二段目 武田信玄館の段（始＝清志郎//咲甫＝喜一郎）、村上義清上使の段（英＝宗助）、勝頼切腹の段（切綱＝清二郎）、四段目 道行似合の女夫丸（津駒・津国・南都・文字栄・新＝団七・清友・団吾・清丈・龍津・寛太郎）、謙信館景勝上使の段（文字久＝清太郎）、謙信館鉄砲渡しの段（呂勢＝喜一郎/清志郎）、謙信館十種香の段（切嶋＝清介）、謙信館奥庭狐火の段（千歳＝燕二郎・ツレ清太郎・琴清植）。 ※野沢松之輔＝作曲・澤村龍之介＝振付（「道行似合の女夫丸」）。 ※「清丈」の丈は異体字。	長尾景勝（一暢）、村上義清（亀次/勘緑）、武田信玄（玉女）、慈悲蔵実は直江山城之助（文吾）、花守り関兵衛実は斎藤道三（文司/玉輝）、横蔵後に山本勘助（玉幸）、長尾謙信（勘寿）、車遣い簀作実は武田勝頼・花作り簀作実は武田勝頼（玉男）、板垣兵部（玉也）、腰元濡衣（文雀）、高坂妻唐織（和生）、越名妻入江（玉英/勘弥）、高坂弾正（簀太郎/玉女）、越名弾正（玉輝/文司）、お種（紋寿）、勘助の母（玉松）、八重垣姫（簀助）。
二〇〇二	平成14	8/14	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（呂勢＝清二郎・ツレ清太郎・琴清志郎）。 ※五世豊竹呂大夫を偲ぶ会。	八重垣姫（簀助）。
二〇〇三	平成15	5/29	東京 NHKホール	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（嶋・呂勢＝清治・ツレ清太郎・琴清志郎）。 ※第30回NHK古典芸能鑑賞会。	八重垣姫（簀助）。
二〇〇四	平成16	7/3~4	京都 南座	本朝廿四孝	十種香の段（切嶋＝清介）、奥庭狐火の段（英＝団七・ツレ団吾・琴清植）。 ※第10回文楽京都公演。	長尾謙信（亀次）、簀作実は武田勝頼（玉女）、腰元濡衣（和生）、八重垣姫（簀助）。



西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇五	平成17	11/5~27	国立文楽劇場	本朝廿四孝 通し狂言	大序 足利館大広間の段（靖・希・呂茂・芳穂＝寛太郎・龍爾・龍聿・清丈）、足利館奥御殿の段（文字久＝清志郎）、二段目 諏訪明神百石の段（横蔵＝松香・道三＝津国・景勝＝新・濡衣＝咲甫／始・兵部＝文字栄・簀作＝相子・藤馬＝車遣い＝睦／つばさ・車遣い＝供侍＝呂茂・車遣い＝靖＝喜左衛門）、三段目 桔梗原の段（口 始／咲甫＝弥三郎、奥 伊達＝清友）、景勝下駄の段（咲＝燕二郎）、勘助住家の段（切 住＝錦糸、切 十九＝富助）、二段目 信玄館の段（つばさ＝龍聿／睦＝清丈）、村上義清上使の段（三輪＝宗助）、勝頼切腹の段（切 綱＝清二郎）、四段目 道行似合の女夫丸（英・南都・貴・芳穂・希・咲寿＝団七・団吾・清志郎・清旭・龍爾）、和田別所化性屋敷の段（呂勢＝喜一朗）、謙信館の段（千歳＝清治）、十種香の段（切 嶋＝清介）、奥庭狐火の段（津駒＝寛治・ツレ 清旭・琴 寛太郎）。 ※角書「武田信玄／長尾謙信」。 ※鶴沢寛治＝補曲（「足利館大広間の段」）。鶴沢燕三＝作曲（「足利館奥御殿の段」）。野沢松之輔＝作曲・澤村龍之介＝振付（「道行似合の女夫丸」）。野沢喜左衛門＝補曲（「和田別所化性屋敷の段」）。 ※国立文楽劇場文楽公演第100回記念。 ※野沢喜左衛門休演のため、「諏訪明神百石の段」を野沢喜一朗が代演。吉田文吾休演のため、横蔵後に山本勘助を吉田玉女が代演。吉田玉男休演のため、勘助の母を桐竹紋寿が代演。 ※「芳穂」の芳、「清丈」の丈は異体字。	手弱女御前（玉英）、北条氏時（清五郎）、長尾景勝（文司）、村上義清（勘緑）、武田晴信後に武田信玄（玉也）、愛妾賤の方（和生）、直江山城之助・慈悲蔵実は直江山城之助（勘十郎）、腰元八つ橋（文雀）、井上新左衛門実は斎藤道三・花守り関兵衛実は斎藤道三（玉輝）、横蔵後に山本勘助（文吾）、長尾謙信（玉志）、車遣い簀作実は武田勝頼（和生／玉女）、板垣兵部（亀次）、腰元濡衣（紋寿）、高坂妻唐織（紋豊）、越名妻入江（清三郎）、高坂弾正（玉輝）、越名弾正（幸助）、女房お種実は腰元八つ橋（文雀）、勘助の母（玉男）、八重垣姫（簀助）。
二〇〇六	平成18	8/26~27	愛媛 内子座	本朝廿四孝	十種香の段（切 嶋＝清介）、奥庭狐火の段（咲＝燕二郎改め 燕三・ツレ 団吾・琴 清旭）。 ※第10回内子座文楽。	長尾謙信（玉也）、簀作実は武田勝頼（和生）、腰元濡衣（清之助）、八重垣姫（文雀）。
△ 二〇〇八	平成20	3	フランス	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（英＝燕三・ツレ 清志郎・琴 清旭）。 ※国立劇場上演資料集<514>に拠る。	八重垣姫（勘十郎）。
二〇〇八	平成20	5/31	岐阜 相生座	本朝廿四孝	奥庭狐火の段（嶋＝燕三・ツレ 清志郎・琴 清旭）。	八重垣姫（簀助）。
二〇〇八	平成20	9/5~21	東京 国立劇場 小劇場	本朝廿四孝	十種香の段（切 嶋＝宗助）、奥庭狐火の段（津駒＝寛治・ツレ 清旭・琴 寛太郎）。 ※吉田清之助改め五世豊松清十郎襲名披露狂言。	長尾謙信（勘十郎）、武田勝頼（簀助）、腰元濡衣（文雀）、八重垣姫（清之助改め 清十郎）。
二〇〇八	平成20	11/1~24	国立文楽劇場	本朝廿四孝	十種香の段（切 嶋＝宗助）、奥庭狐火の段（津駒＝寛治・ツレ 清旭・琴 寛太郎）。 ※吉田清之助改め五世豊松清十郎襲名披露狂言。	長尾謙信（勘十郎）、武田勝頼（簀助）、腰元濡衣（文雀）、八重垣姫（清之助改め 清十郎）。
二〇〇九	平成21	2/25	国立文楽劇場 小ホール	本朝廿四孝	景勝下駄の段（靖＝清志郎）。 ※第5回義太夫節に親しむ会・国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	

「本朝廿四孝」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
二〇〇九	平成21	10/3~21	地方公演 (近畿・東北・東海・関東・中部・北海道)	本朝廿四孝	十種香の段(切嶋=宗助)、奥庭狐火の段(睦=清志郎・ツレ 清愼・琴 寛太郎)。	長尾謙信(玉女)、簀作実は武田勝頼(勘十郎)、腰元濡衣(簀助)、八重垣姫(清之助改め 清十郎)。	
二〇一〇	平成22	2/28~3/21	地方公演 (近畿・九州・中国・関東・中部・北陸・東海)	本朝廿四孝	十種香の段(千歳=富助)、奥庭狐火の段(咲甫=清志郎・ツレ 龍爾・琴 寛太郎)。	長尾謙信(文司)、簀作実は武田勝頼(玉女)、腰元濡衣(勘弥)、八重垣姫(文雀)。	
二〇一〇	平成22	12/2~14	東京国立劇場小劇場	本朝廿四孝	桔梗原の段(口相子=龍爾/寛太郎、奥三輪=清友)、景勝下駄の段(呂勢=燕三)、勘助住家の段(前津駒=富助、後文字久=錦糸)。	長尾景勝(文司)、慈悲蔵実は直江山城之助(勘十郎)、横蔵後に山本勘助(玉女)、高坂妻唐織(簀二郎/勘弥)、越名妻入江(清三郎/清五郎)、高坂弾正(玉輝)、越名弾正(幸助)、女房お種(清十郎)、勘助の母(和生)。	
△	二〇一二	平成24	3/24	ワッハ上方四階上方亭	本朝廿四孝	十種香の段。 ※「浄瑠璃と紙芝居」。 ※チラシに拠る。	
二〇一三	平成25	1/3~25	国立文楽劇場	本朝廿四孝	十種香の段(切嶋=富助)、奥庭狐火の段(呂勢=清治・ツレ 清志郎・琴 清公)。	長尾謙信(勘寿)、花造り簀作実は武田勝頼(勘十郎)、腰元濡衣(簀二郎)、八重垣姫(十種香=簀助、狐火=勘十郎)。	
△	二〇一三	平成25	3/24	大阪市立こども文化センター	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(呂勢=藤蔵)。 ※こども劇場「はじめての文楽のせかい」。 ※チラシに拠る。	(一輔)。
二〇一三	平成25	7/4	東京紀尾井ホール	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(呂勢=藤蔵・琴+ツレ 寛太郎)。 ※第17回日本伝統文化振興財団賞受賞(豊竹呂勢大夫)記念演奏会。		
二〇一四	平成26	2/8~24	東京国立劇場小劇場	本朝廿四孝	十種香の段(切嶋=富助)、奥庭狐火の段(呂勢=清治・ツレ 清志郎・琴 清公)。	長尾謙信(勘寿)、花造り簀作実は武田勝頼(玉女)、腰元濡衣(文雀)、八重垣姫(十種香=簀助、狐火=勘十郎)。	
二〇一五	平成27	6/14~16	大阪市中央公会堂大集会室	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(呂勢=藤蔵・ツレ 清志郎・琴 清公)。 ※「ムムム!!文楽シリーズ 中之島文楽」第1回。	八重垣姫(勘十郎)。	
二〇一五	平成27	10/17~20	難波宮跡公園	本朝廿四孝	奥庭狐火の段(津駒=藤蔵・清愼・清公)。 ※「にっぽん文楽」。	八重垣姫(勘十郎)。	
二〇一六	平成28	5/28~29	名古屋中日劇場	本朝廿四孝	十種香の段(津駒=清介)、奥庭狐火の段(咲甫=藤蔵・ツレ 清志郎・琴 清愼)。 ※第4回中日文楽。	長尾謙信(玉也)、花造り簀作実は武田勝頼(清十郎)、腰元濡衣(簀二郎)、八重垣姫(十種香=簀助、奥庭=勘十郎)。	
二〇一七	平成29	1/3~26	国立文楽劇場	本朝廿四孝	十種香の段(津駒=寛治)、奥庭狐火の段(呂勢=宗助・ツレ 龍爾・琴 清公)。 ※国立劇場開場50周年記念。 ※鶴沢寛治休演のため、「十種香の段」を鶴沢清志郎が代演。鶴沢清公14~20日休演のため、「奥庭狐火の段」を鶴沢寛太郎が代演。	長尾謙信(文司)、花造り簀作実は武田勝頼(和生)、腰元濡衣(簀助)、八重垣姫(勘十郎)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	二〇一七	平成29	2/21	東京赤坂区民センター区民ホール	(本朝廿四孝) 奥庭狐火の段(呂勢=藤蔵・寛太郎)。 ※赤坂文楽シリーズ「人形浄瑠璃文楽、伝統を受け継ぐ其の七(＃16)」。 ※チラシに拠る。	(勘十郎)。
△	二〇一七	平成29	3/20	ヴィアールホール	(本朝廿四孝) 奥庭狐火の段(英=清介)。 ※「はじめての文楽」公演。 ※チラシに拠る。	
	二〇一八	平成30	4/7~30	国立文楽劇場	本朝廿四孝 桔梗原の段(口 芳穂=団吾、奥 文字久=団七)、景勝下駄の段(織=寛治)、勘助住家の段(前 呂=清介、後 呂勢=清治)。 ※吉田幸助改め五代目吉田玉助襲名披露狂言。 ※竹本文字久太夫25~30日休演のため、「桔梗原の段・奥」を竹本三輪太夫が代演。 ※「芳穂」の芳は異体字。	長尾景勝(玉也)、慈悲蔵実は直江山城之助(玉男)、横蔵後に山本勘助(幸助改め玉助)、高坂妻唐織(簗二郎)、越名妻入江(一輔)、高坂弾正(玉輝)、越名弾正(文司)、女房お種(和生)、勘助の母(景勝下駄~勘助住家<前>=勘十郎、勘助住家<後>=簗助)。
	二〇一八	平成30	5/12~28	東京国立劇場小劇場	本朝廿四孝 桔梗原の段(口 芳穂=団吾、奥 文字久=団七)、景勝下駄の段(織=寛治)、勘助住家の段(前 呂=清介、後 呂勢=清治)。 ※吉田幸助改め五代目吉田玉助襲名披露狂言。 ※竹本文字久太夫休演のため、「桔梗原の段・奥」を竹本三輪太夫が代演。 ※「芳穂」の芳は異体字。	長尾景勝(玉也)、慈悲蔵実は直江山城之助(玉男)、横蔵後に山本勘助(幸助改め玉助)、高坂妻唐織(簗二郎)、越名妻入江(一輔)、高坂弾正(玉輝)、越名弾正(文司)、女房お種(和生)、勘助の母(景勝下駄~勘助住家<前>=勘十郎、勘助住家<後>=簗助)。
	二〇二〇	令和2	9/30~10/18	地方公演(北海道・北陸・東海・関東)	本朝廿四孝 十種香の段(録=藤蔵)、奥庭狐火の段(希=清志郎・ツレ 友之助・琴 清允)。	長尾謙信(玉輝)、花造り簗作実は武田勝頼(文司)、腰元濡衣(勘弥)、八重垣姫(清十郎)。
	二〇二〇	令和2	10/31~11/23	国立文楽劇場	本朝廿四孝 道行似合の女夫丸(濡衣一睦・勝頼一靖・亘・碩=清友・友之助・錦吾・燕二郎・清方)、景勝上使の段(希=清文)、鉄砲渡しの段(芳穂=清志郎)、十種香の段(千歳=富助)、奥庭狐火の段(織=藤蔵・ツレ 寛太郎・琴 清公)。 ※野澤松之輔=作曲・澤村龍之介=振付(「道行似合の女夫丸」)。 ※「芳穂」の芳、「清文」の文は異体字。	長尾景勝(勘市)、花守り関兵衛実は斎藤道三(玉輝)、長尾謙信(玉志)、簗作実は武田勝頼(玉助)、腰元濡衣(簗二郎)、八重垣姫(勘十郎)。
	二〇二一	令和3	3/4~15	地方公演(九州・中部・関東)	本朝廿四孝 十種香の段(千歳=富助)、奥庭狐火の段(靖=錦糸・ツレ 寛太郎・琴 錦吾)。	長尾謙信(玉志)、花作り簗作実は武田勝頼(玉男)、腰元濡衣(清五郎)、八重垣姫(簗二郎)。